

みんなくファクトブック

FACT BOOK 2024



目次

1 組織

2

- 1-1 国立民族学博物館のミッションと特徴 2
- 1-2 組織の概要 3
- 1-3 構成員の一覧 9

2 研究

12

- 2-1 令和6年度の研究業績 12
- 2-2 研究出版活動 14
 - 館内の出版物 14 / 本館助成による館外出版物 16 / みんなく映像民族誌 17
- 2-3 みんなくで実施した研究プロジェクト 17
 - 特別研究 17 / フォーラム型人類文化アーカイブズの構築にもとづく持続発展型人文科学研究の推進 19 / 公募型共同研究 24 / 文化資源プロジェクト 28
 - 情報プロジェクト 29
- 2-4 外部資金による研究 29
 - 科研費による研究プロジェクト 29 / 民間助成などによる研究プロジェクト 31
- 2-5 人間文化研究機構 基幹研究プロジェクト 32
 - 広領域連携型 基幹研究プロジェクト 32
 - ネットワーク型 基幹研究プロジェクト 33
- 2-6 人間文化研究機構 共創先導プロジェクト 36
 - 共創促進研究 36

3 共同利用

38

- 3-1 国内における研究連携 38
 - 国内学術協定 38 / 共同利用型科学分析室 40
- 3-2 研究員制度 40
 - 外来研究員 40 / 特別共同利用研究員 42
- 3-3 資料の収集と利用 42
 - 標本資料および映像・音響資料 42 / 文献図書資料 46 / データベース 49
 - 民族学研究アーカイブズ 50 / 学術情報リポジトリ 51
- 3-4 公募型共創メディア展示 51

4 展示

54

- 4-1 本館展示 54
- 4-2 特別展示・企画展示等 55

5 国際連携

57

- 5-1 海外研究機関との学术交流協定 57
- 5-2 研究者の海外派遣 59
- 5-3 「博物館とコミュニティ開発」コース 59

6 社会連携

61

- 6-1 受託事業等 61
- 6-2 学校教育・社会教育活動 62
 - 大学等授業利用 62 / キャンパスメンバーズ 63 / 貸出用学習キット「みんなばっく」 64
 - 職場体験活動 66 / ボランティア活動の受入 66
- 6-3 情報発信 67
 - 各種メディア 67 / ウェブサイト 67 / メールマガジン 68 / SNS 68
- 6-4 開催イベント 70
 - イベント開催件数と参加者数の推移 70

7 産学連携

71

7-1 産学連携活動の実施状況 71

民間企業との共同研究 71

| TOPIC | 自動運転モビリティ（WHILL 自動運転サービス）の一般公開 71

8 大学院教育

72

8-1 教員数・在籍学生数 72

8-2 入学・志願状況 74

8-3 学生支援状況 76

8-4 退学者 78

8-5 学位取得 79

8-6 卒業後の進路・就職 80

8-7 研究生 81

9 業務運営

82

9-1 収入・支出 82

9-2 自己収入と外部資金受入額 83

9-3 エネルギー使用量 84

はじめに

国立民族学博物館インスティテューショナル・リサーチ室（以下、IR室）は、本館の研究、教育、共同利用、展示等に関する活動についてのデータを収集・分析することにより、館の運営機能の強化・改善に資することを目的として、2016年4月に設置されました。

本館は、人間文化研究機構の一員として6年間の中期目標に基づく中期計画及び年度計画を策定し、その実施状況について国立大学法人評価委員会の評価を受けています。また、本館独自で自己点検・評価を実施しており、本館の研究教育活動等の状況をまとめた「自己点検報告書」を作成しています。

IR室は、これらの点検・評価等において、情報の収集、分析、取りまとめ等を担っており、2022年度からは、本館の研究教育活動及び管理運営に関する基本的なデータを取りまとめた「みんなくファクトブック」を年一回発行することにしました。目的は、本館の活動に関するさまざまな数値や指標を表やグラフの形で可視化し、館内で現状を的確に把握して改善や計画策定に利用するとともに、ステークホルダーの皆様へ本館の現状や取り組みについてより一層理解していただくことです。

みんなくファクトブックは、数値データについて6年間の経年変化をグラフ化することによって、これまでの傾向を端的に把握し、今後の課題を検討しやすくしています。

館員はもちろん、国立民族学博物館の活動を支援してくださるステークホルダーの皆様や活動に関心をもってください市民の皆様に、本ファクトブックを活用していただければ幸いです。今後も活動内容についてよりわかりやすくお伝えできるように改良を続けていきますので、皆様からのご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2025年9月

国立民族学博物館

IR室長 平井 京之介

1 組織

1-1 国立民族学博物館のミッションと特徴

● ミッション

国立民族学博物館は、文化人類学・民族学及びその関連分野の調査研究を行うとともに、世界の諸民族に関する資料を収集・保管し、公開することを目的とする。また、当該分野の共同研究・共同利用の世界的な研究拠点、文化資源と研究情報の国際的集積センター、ならびに博物館機能を活かした大学や一般社会への貢献の役割を担っている。

● 特徴

● 文化人類学・民族学及びその関連分野の世界的研究拠点

世界全域を対象とする研究者より組織される文化人類学・民族学の研究所であり、大学共同利用機能・大学院教育機能を有する世界で唯一の民族学博物館である。

● 国際的研究ネットワークのハブとしての共同研究拠点

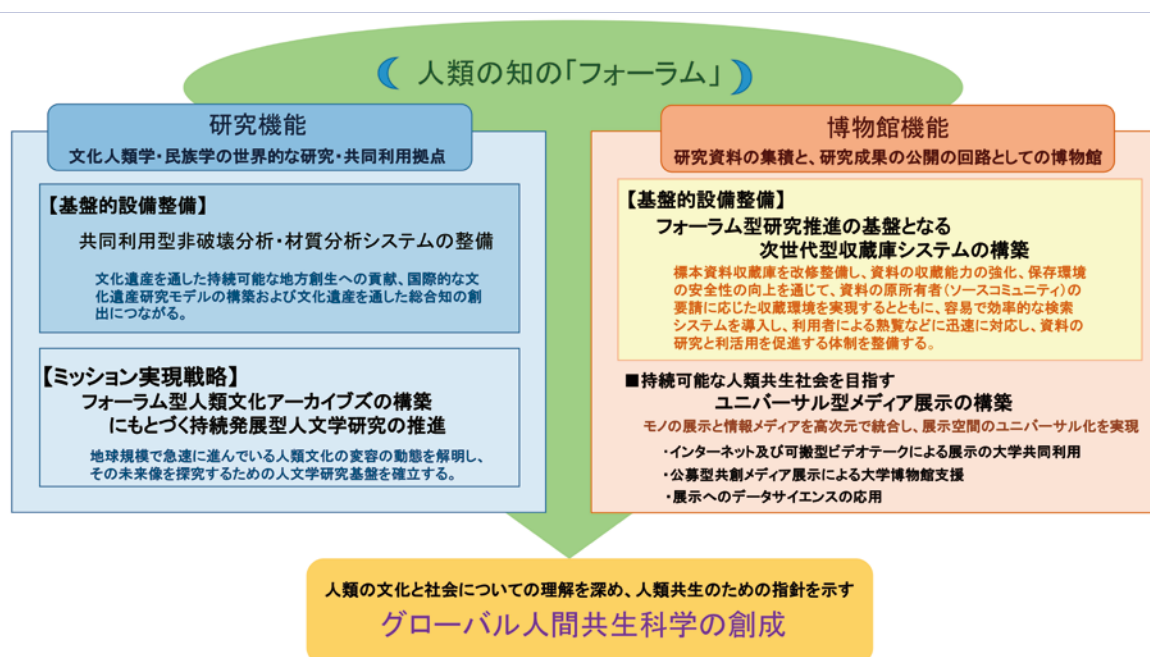
共同研究の公募と外国人研究者の受入を積極的に推進するとともに、国内外の大学・研究機関と学術協定を締結し、国際共同研究を推進している。また、文化の担い手であるソースコミュニティと研究者、そして地域社会の結節点となることで、共同研究・共同利用による文化資源情報の充実と人類の共有財産化を推進している。

● 人類の文化資源と研究情報の国際的集積センター

20世紀後半以降に築かれた世界最大規模の民族学資料、映像音響資料、図書資料のコレクションを所蔵し、整理・公開している。また、世界各地でのフィールドワークに基づく研究成果を展示によって公開している。

● 博物館機能を活かした研究成果の発信による大学・社会への貢献

民族学資料、映像音響資料、図書資料の収集・保存・公開等の活動を通じて大学の研究・教育における機能強化や社会一般の異文化理解・国際理解の促進に寄与している。

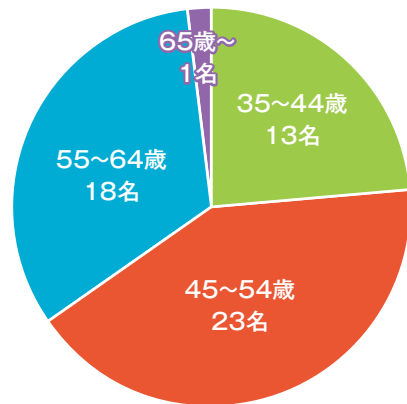


1-2 組織の概要

● 組織の特徴

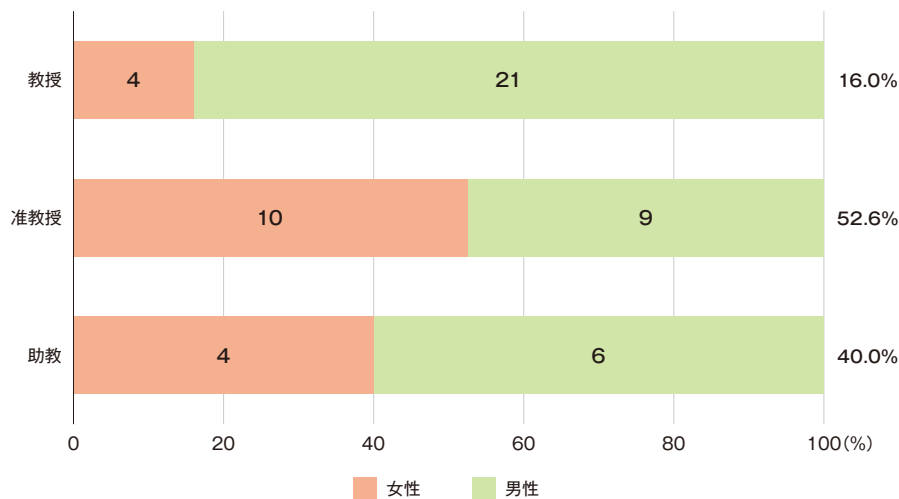
常勤教員数	55名（館長を含む）
女性	18名（32.7%）
外国人	4名（7.3%）
職員数	161名（常勤47名）
女性	129名（常勤23名）
運営費交付金	2,656百万円
敷地面積	40,821 m ²
収蔵資料数	420,494点

● 常勤教員の年齢構成（令和6年5月1日現在）



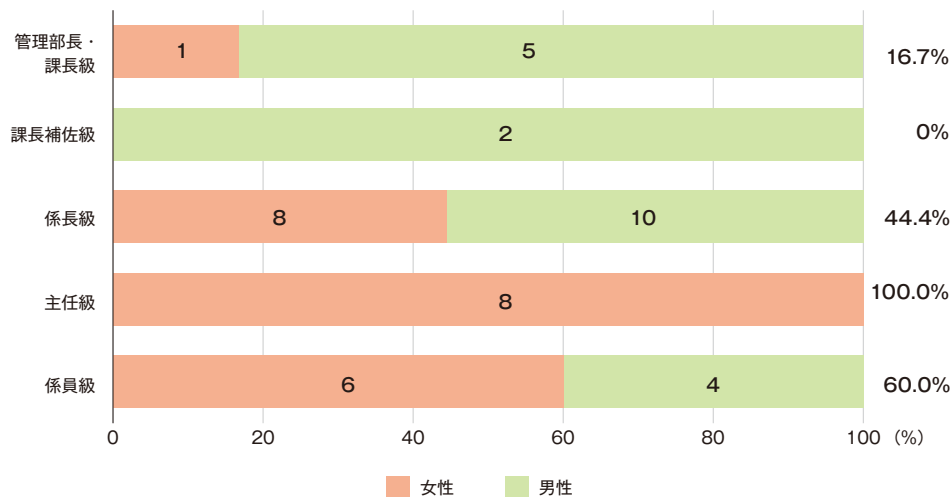
注：館長を含む

● 女性教員（常勤）の職位別の数と割合

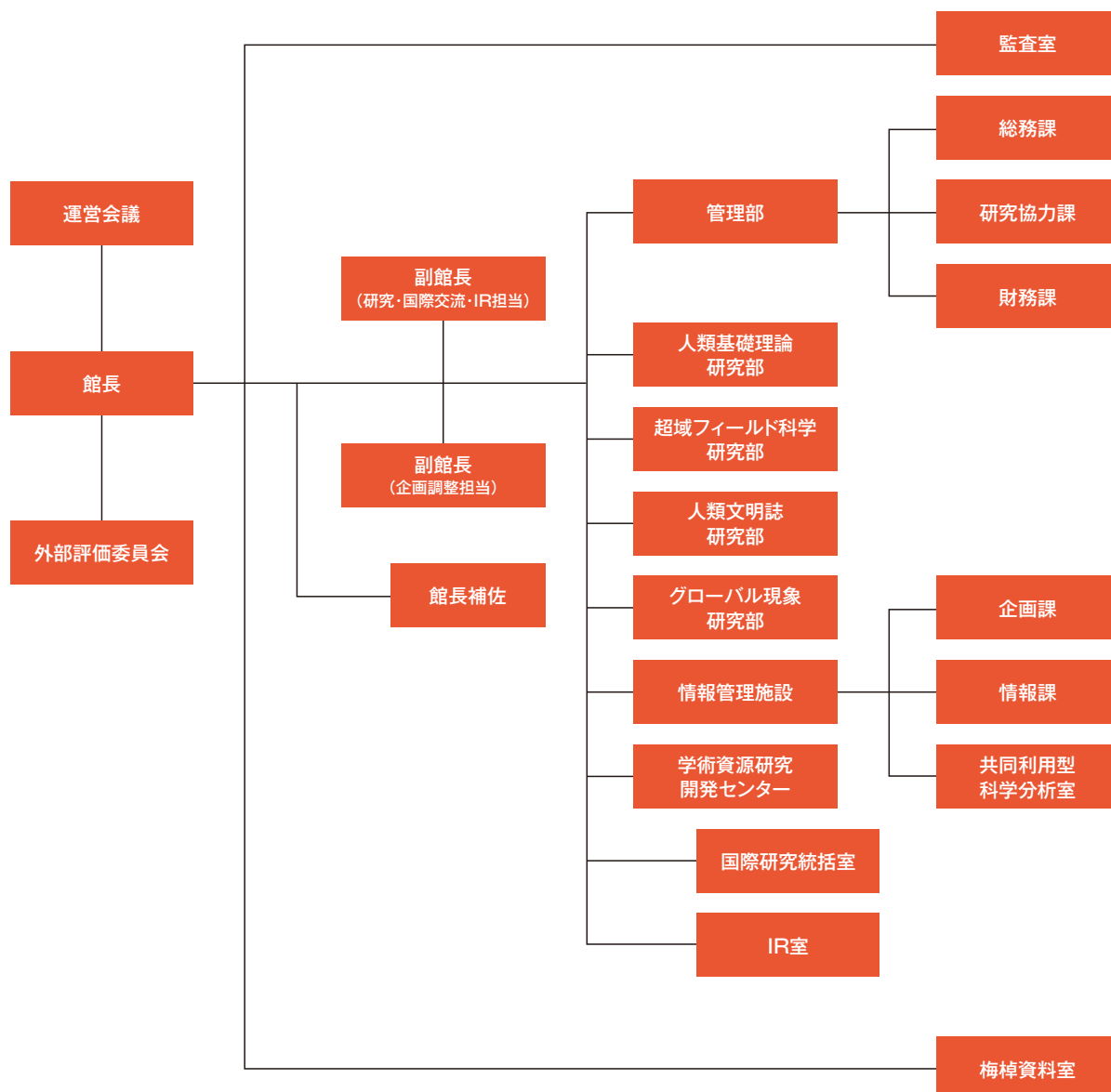


注：特任助教1名を含む。館長は含まない

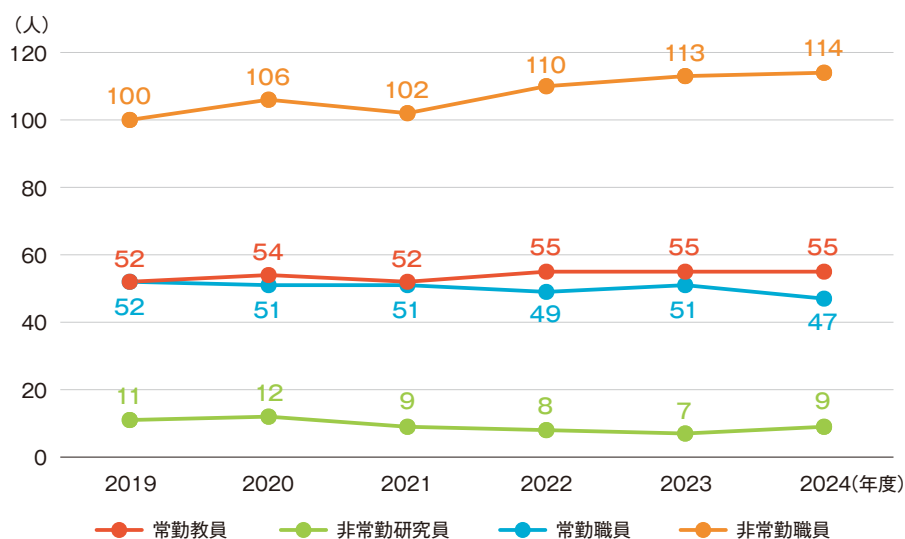
● 女性職員（常勤）の職位別の数と割合



● 組織構成図



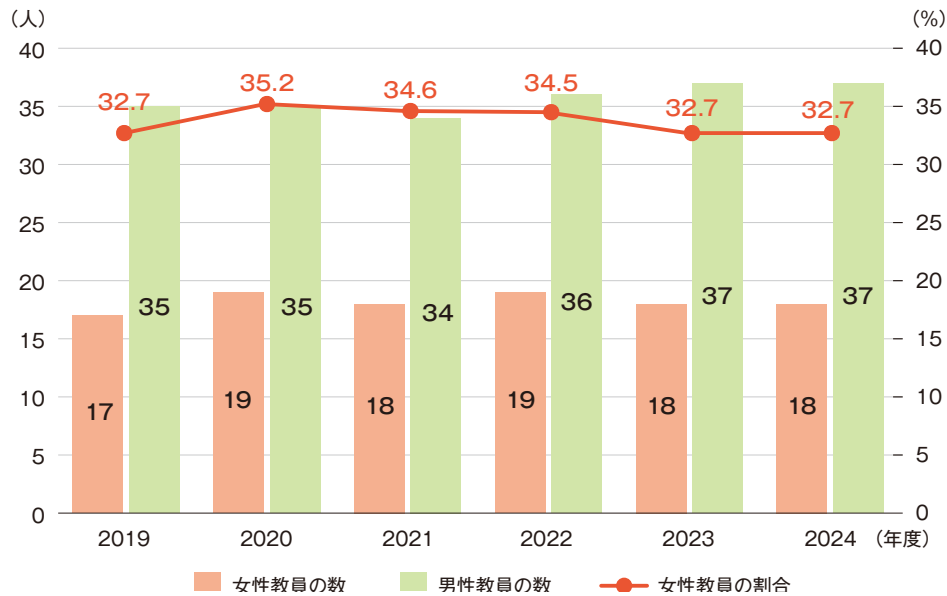
● 教職員数の推移



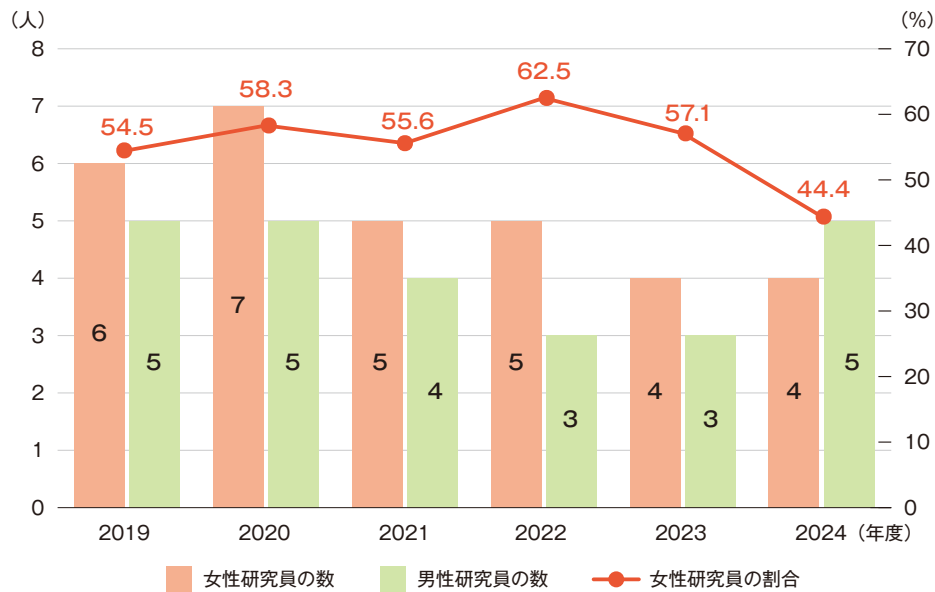
注1：常勤教員は館長、特任助教を含む

注2：非常勤教員は機関研究員およびプロジェクト研究員を指し、その年度に在籍した研究員の総数。それ以外は5月1日時点の在籍者数

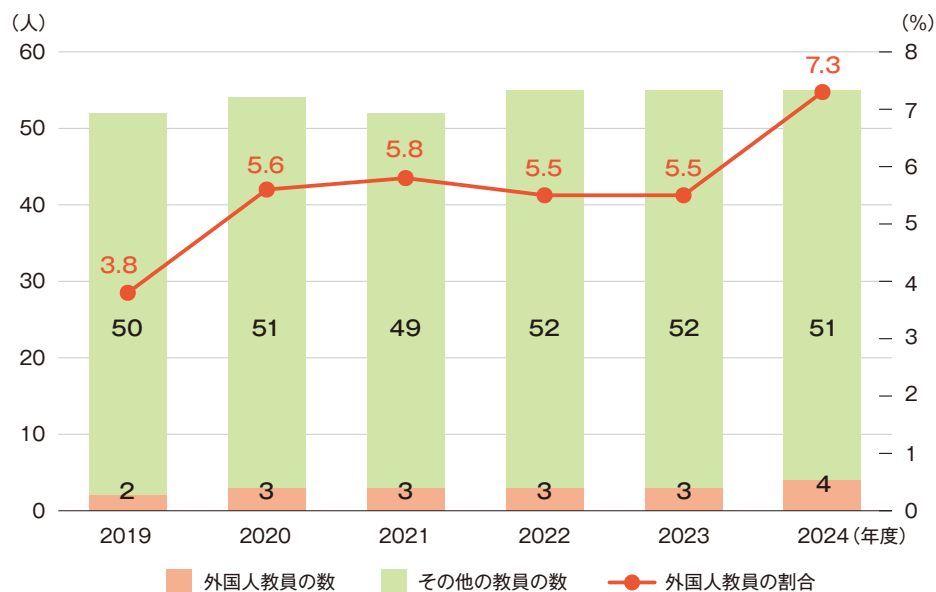
● 女性教員（常勤）の数と割合



● 女性非常勤研究員の数と割合

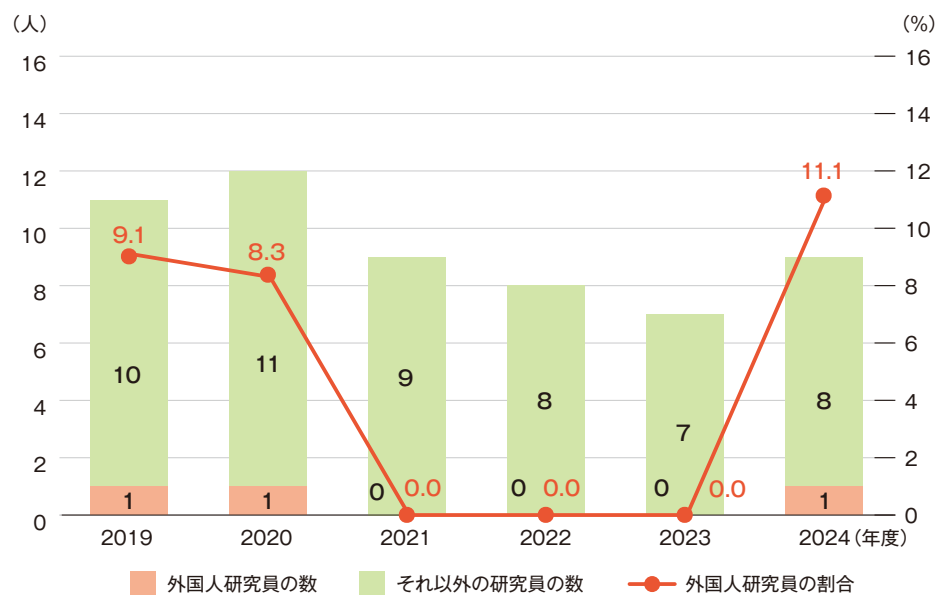


● 教員（常勤）の外国人の数と割合



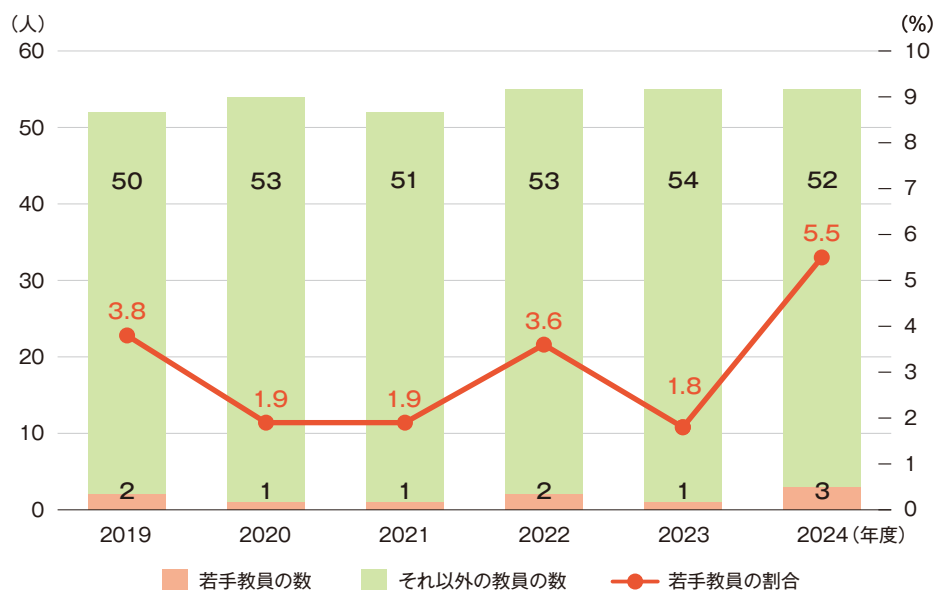
注1：各年度の5月1日時点の在籍者数（館長を含む）
注2：雇用関係のある外国人研究員（教授）は含まない

● 非常勤研究員の外国人の数と割合



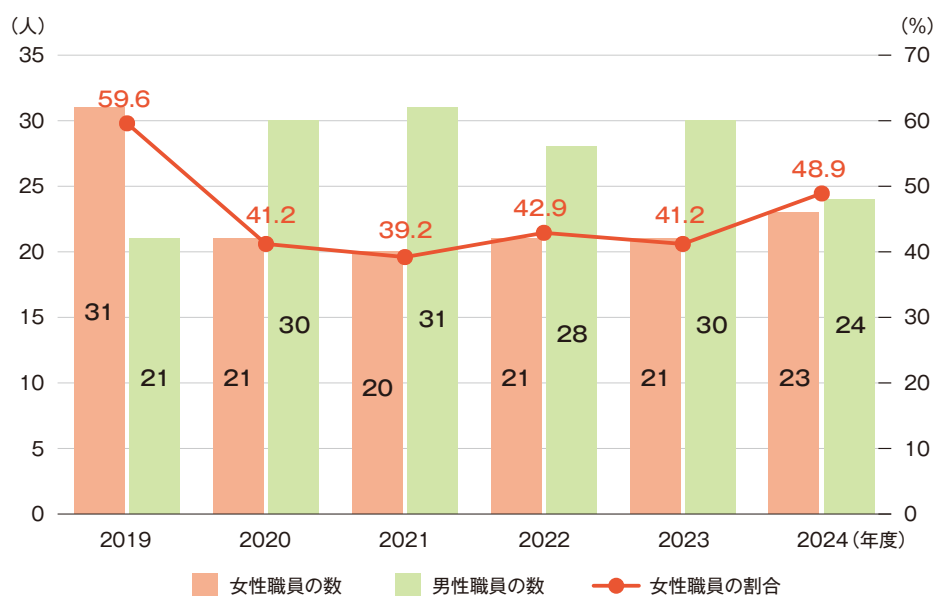
注1：非常勤研究員に該当するのは、機関研究員およびプロジェクト研究員
注2：非常勤研究員の数とは年度内に在籍した研究員の総数

● 若手教員（39歳以下）（常勤）の数と割合



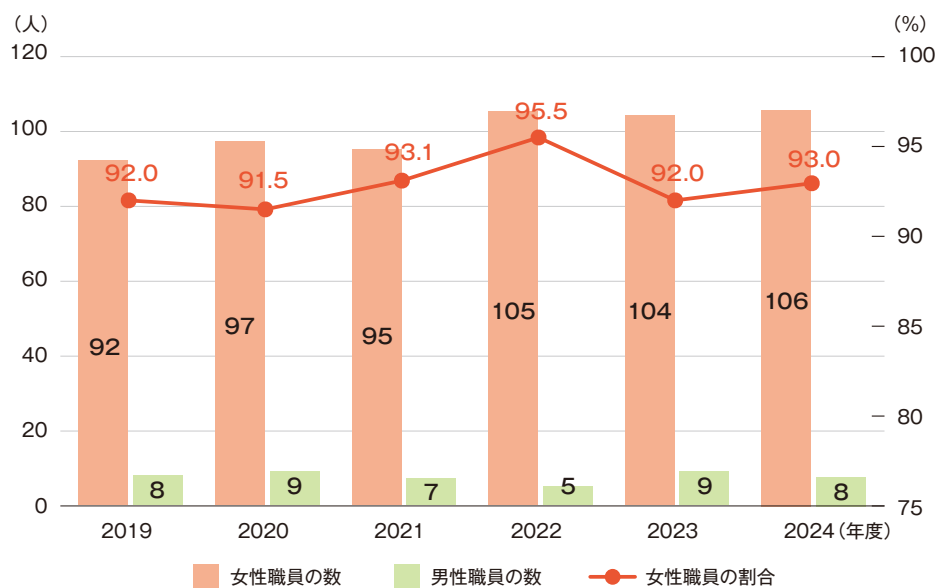
注：各年度の5月1日時点の在籍者数（館長を含む）

● 女性職員（常勤）の数と割合



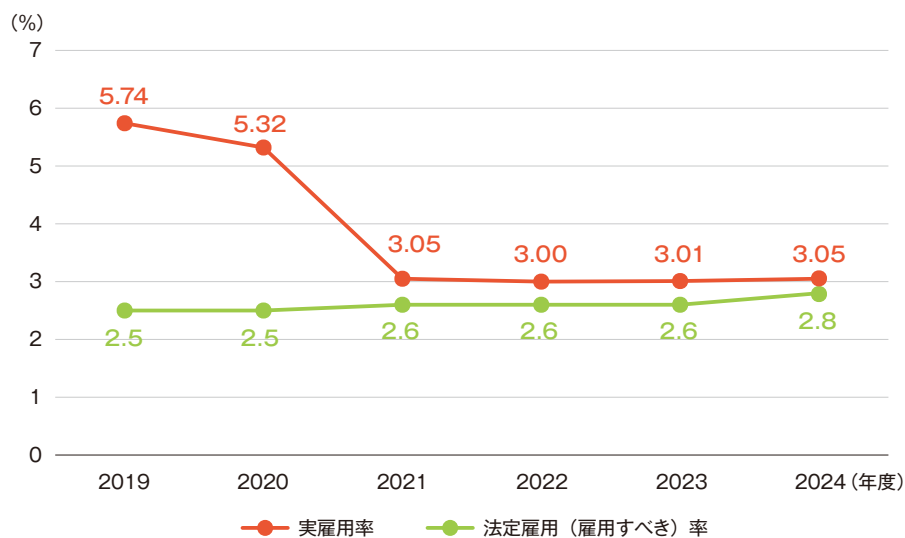
注：各年度の5月1日時点の在籍者数

● 女性職員（非常勤）の数と割合



注：各年度の5月1日時点の在籍者数

● 障がい者実雇用率



注1：雇用すべき障がい者の率は、法令によって年度ごとに定められている

注2：実雇用率は厚生労働省都道府県労働局『障害者雇用状況報告記入要領』の雇用障害者数のカウント方法によって計算されたもの

1-3 構成員の一覧

● 運営会議（令和6年4月1日現在）

館長の要請により、本館の管理運営に関する重要事項について審議する。

岡田浩樹 神戸大学大学院国際文化学研究科教授	木川りか 九州国立博物館学芸部 博物館科学課長	窪田幸子 芦屋大学長／神戸大学名誉教授	後藤 明 南山大学人類学研究所 特任研究員
佐々木重洋 名古屋大学大学院人文学研究科教授	高倉浩樹 東北大学東北アジア研究センター教授	富沢壽勇 静岡県立大学副学長	中谷文美 関西学院大学社会学部教授
水沢 勉 神奈川県立近代美術館元館長	飯田 卓 グローバル現象研究部長	宇田川妙子 副館長（研究・国際交流・IR 担当） 国際研究統括室長 IR 室長	島村一平 人類文明誌研究部長
鈴木 紀 超域フィールド科学研究部長	丹羽典生 グローバル現象研究部教授 （総合研究大学院大学先端学術院 先端学術専攻人類文化研究コース長）	日高真吾 学術資源研究開発センター長	福岡正太 副館長（企画調整担当） 情報管理施設長
山中由里子 人類基礎理論研究部長			

● 外部評価委員会（令和6年4月1日現在）

館長の要請により、本館における研究教育活動等の状況に関する点検・評価について審議する。

市川光雄 京都大学名誉教授	後小路雅弘 北九州市立美術館館長	岡崎淑子 聖心女子大学元学長／名誉教授	岡橋達哉 公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団理事長
崎元利樹 公益財団法人関西・大阪21世紀協会理事長	高野明彦 国立情報学研究所名誉教授	田中雅一 国際ファッション専門職大学副学長	出口 顕 放送大学島根学習センター所長
宮原千絵 独立行政法人国際協力機構 JICA 緒方研究所副所長			

組
織

研
究

共
同
利
用

展
示

国
際
連
携

社
会
連
携

産
学
連
携

大
学
院
教
育

業
務
運
営

● 研究部教員の一覧（令和7年3月31日現在）

	館長	吉田憲司		
	副館長（企画調整担当）	福岡正太		
	副館長（研究・国際交流・IR 担当）	宇田川妙子		
	館長補佐	平井京之介		
研究部	職名・研究部門	教 授	准教授	助 教
人類基礎理論研究部	研 究 部 長	山中由里子		
	第 一 超 域	笹原亮二 廣瀬浩二郎	末森 薫	高科真紀
	第 二 超 域		岡田恵美 吉岡 乾	
	第 三 超 域	菊澤律子 丸川雄三	平野智佳子	宮前知佐子
				市野進一郎 ^{注1}
超域フィールド科学研究部	研 究 部 長	鈴木 紀		
	第 一 超 域	檉永真佐夫 韓 敏	太田心平	
	第 二 超 域	南 真木人	菅瀬晶子 松尾瑞穂	
	第 三 超 域	宇田川妙子 新免光比呂 ピーター・J・マシウス		藤井真一
人類文明誌研究部	研 究 部 長	島村一平		
	第 一 超 域	平井京之介 福岡正太	齋藤玲子 藤本透子	鈴木昂太
	第 二 超 域		上羽陽子	
	第 三 超 域	齋藤 晃	伊藤敦規 松本雄一	
グローバル現象研究部	研 究 部 長	飯田 卓		
	第 一 超 域	卯田宗平 信田敏宏	諸 昭喜	
	第 二 超 域	三尾 稔	相島葉月 鈴木英明	
	第 三 超 域	丹羽典生	中川 理 八木百合子	黒田賢治
学術資源研究開発センター	センター長	日高真吾		
	第 一 超 域	小野林太郎 野林厚志	奈良雅史 寺村裕史	マーク・ウィンチェスター
	第 二 超 域	川瀬 慈	三島禎子	
	第 三 超 域			河西瑛里子 野口泰弥
	人文知コミュニケーター			工藤さくら ^{注2}

注1：特任助教
注2：併任特任助教（人間文化研究機構所属）

● 特定教授

本館の名誉教授のうち、科学研究費助成事業等研究助成の交付を代表者として受け、本館において研究活動を実施し、かつ、本館の研究活動の発展に寄与すると認められた者。

竹沢尚一郎	小長谷有紀	出口正之	長野泰彦
池谷和信	西尾哲夫	森 明子	關 雄二
園田直子			

● 特別客員教員

本館において必要とする高度な知識と経験を有する者として委嘱を受けた者。

植村幸生 東京藝術大学音楽学部教授	土井冬樹 天理大学国際学部講師	北原モコットウナシ 北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授	和田 礼（ダースレイダー） ラッパー・作家・評論家・映画監督
井上敏昭 城西国際大学国際人文学部教授	中生勝美 桜美林大学リベラルアーツ学群教授	櫻間瑞希 中央学院大学現代教養学部専任講師	縄田浩志 京都大学大学院人間・環境学研究科附属学術越境センター教授
佐倉 統 東京大学大学院情報学環教授	白井千晶 静岡大学人文社会科学部教授	津村文彦 名城大学外国語学部教授	山内由理子 東京外国語大学総合国際学研究院准教授
中尾世治 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科准教授	岩谷洋史 姫路獨協大学人間社会学群講師	落合雪野 龍谷大学農学部教授	土井清美 二松学舎大学文学部准教授

● 機関研究員

古沢ゆりあ	松本文子
-------	------

● プロジェクト研究員

河村友佳子	橋本沙知	小林直明	石山 俊
竹本直也	平 英司	劉 俊昱（R6.7.1着任）	

● 人間文化研究機構研究員

グローバル地域研究プログラム総括班事務局	グローバル地中海地域研究プロジェクト	環インド洋地域研究プロジェクト	海域アジア・オセアニア研究プロジェクト
伊東さなえ 特任助教	岡本尚子 特任助教	松井 梓 特任助教	門馬一平 特任助教
東ユーラシア研究プロジェクト	人文知コミュニケーター	デジタル・ヒューマニティーズ（DH）促進事業担当	コミュニケーション共生科学の創生
赤尾光春 特任助教	工藤さくら 特任助教	永井正勝（R7.1.31退職） 特任教授	桂 融（R6.8.1着任） 特任助教

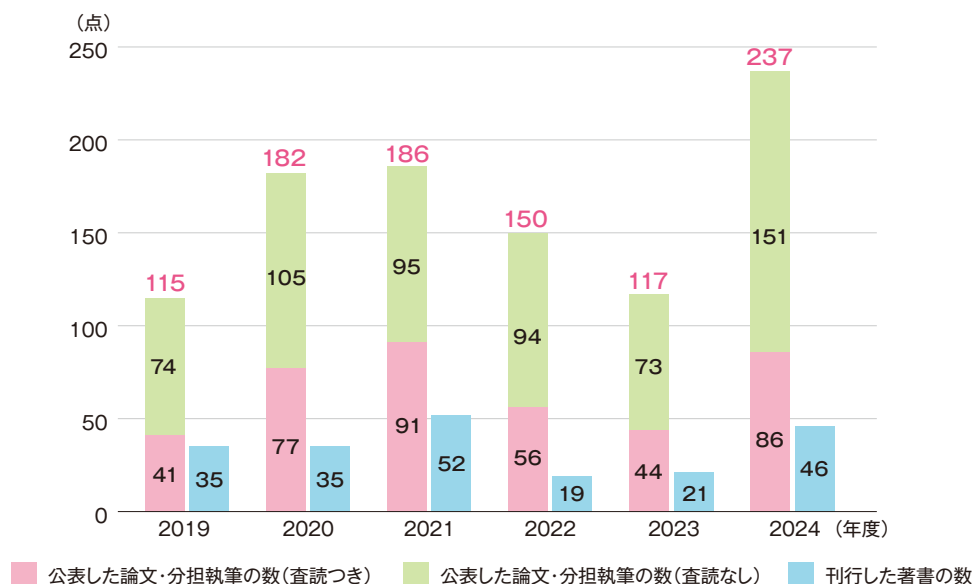
● 外国人研究員

STRANG, Thomas John Kenneth カナダ保存研究所 名誉研究員	SHELTON, Anthony Alan ブリティッシュ・コロンビア大学 教授	DANIELS, Inge Maria オックスフォード大学 教授	GODOY DE CAMPOS, Geraldo Adriano セルジペ連邦大学 教授
RIALL, Lucy Jane 欧州大学院 教授			

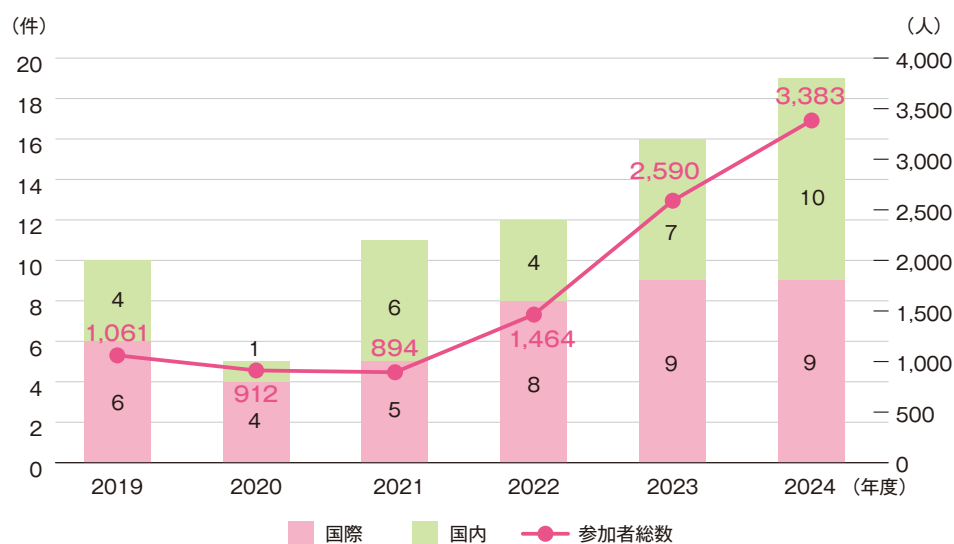
2 研究

2-1 令和6年度の研究業績

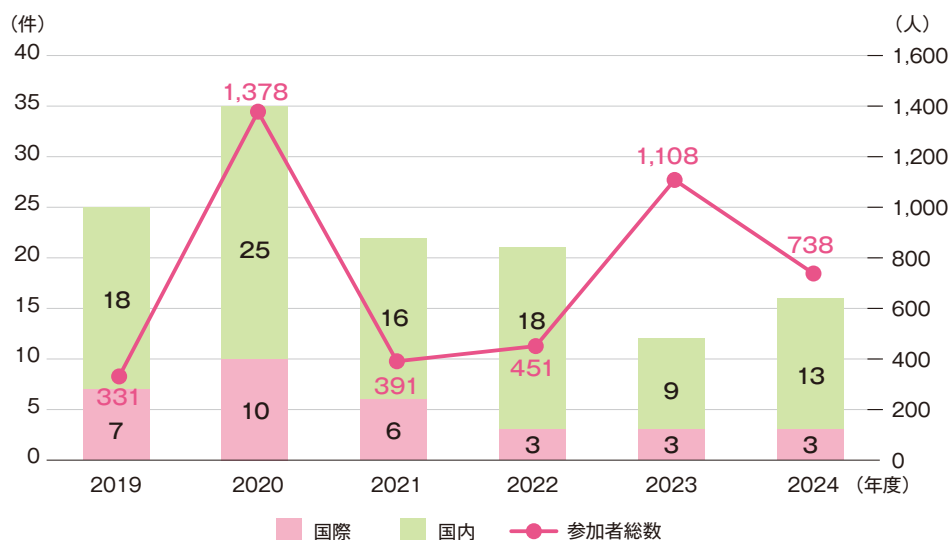
● 公表した論文・分担執筆と刊行した書籍の数の推移



● 開催したシンポジウムの数と参加者総数



● 開催した研究者向け研究会・ワークショップの数と参加者総数



● 国際シンポジウム一覧

No.	実施日	タイトル	開催場所	参加者数 (人)
1	□ 2024年 5月11日・12日	みんなく創設50周年記念国際シンポジウム「海域からみる人類の文化遺産」	みんなくインテリジェントホール (講堂)	737
2	□ 2024年 9月12日	国際シンポジウム「フィジー言語地理情報システムと関連研究および今後の展開」	南太平洋大学 (フィジー)	113
3	□ 2024年 11月17日	みんなく創設50周年記念国際シンポジウム「デジタル人文知が作られるとき」	民博第4セミナー室	145
4	□ 2024年 11月30日・ 12月1日	みんなく創設50周年記念・特別研究国際シンポジウム「国家とエスニシティー・ポストナショナリズム時代の関係」	民博第4セミナー室	83
5	○ 2025年 2月13日～15日	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム国際会議「無形文化遺産保護研究の新領域」	民博第5セミナー室	161
6	□ 2025年 2月14日・15日	国際シンポジウム「地域文化のドキュメンテーションとアーカイブズー生活の記憶を記録し、保存し、活かすことの意義」	台湾歴史博物館	173
7	□ 2025年3月1日	みんなく創設50周年記念国際シンポジウム「アート、人類学、ミュージアムーその過去、現在、そして未来」	みんなくインテリジェントホール (講堂)	390
8	□ 2025年 3月8日・9日	みんなく創設50周年記念国際シンポジウム「22 世紀のミュージアムー未来のコミュニケーション空間を創造する」	みんなくインテリジェントホール (講堂)	439
9	□ 2025年 3月10日・11日	国際シンポジウム「Decolonizing Collection: Focusing on Indigenous Australian in Japan」	民博第4セミナー室	39
合計				2,280

● 令和5年度の受賞 (追加)

No.	受賞者・組織	賞の名称	授与団体名	受賞年月	受賞対象となった研究課題名等
1	島村一平	モンゴル国「北極星勲章」	モンゴル国政府	R5.8 (R6.6 叙勲式)	モンゴル国の文化振興やモンゴル研究の発展、およびモンゴル人研究者の育成貢献

● 令和6年度の受賞

No.	受賞者・組織	賞の名称	授与団体名	受賞年月	受賞対象となった研究課題名等
1	日高真吾	第17回文化財保存修復学会学会賞	文化財保存修復学会	R6.6	文化財保存および修復の分野において長年にわたる卓越した功績
2	野口泰弥	「北極域研究加速プロジェクト (ArCS II) 最終成果報告会」若手ポスター賞	北極域研究加速プロジェクト	R7.3	発表タイトル「外来種が作る希望：アラスカ州ヌニヴァク島におけるジャコウウシ導入と先住民社会への影響」

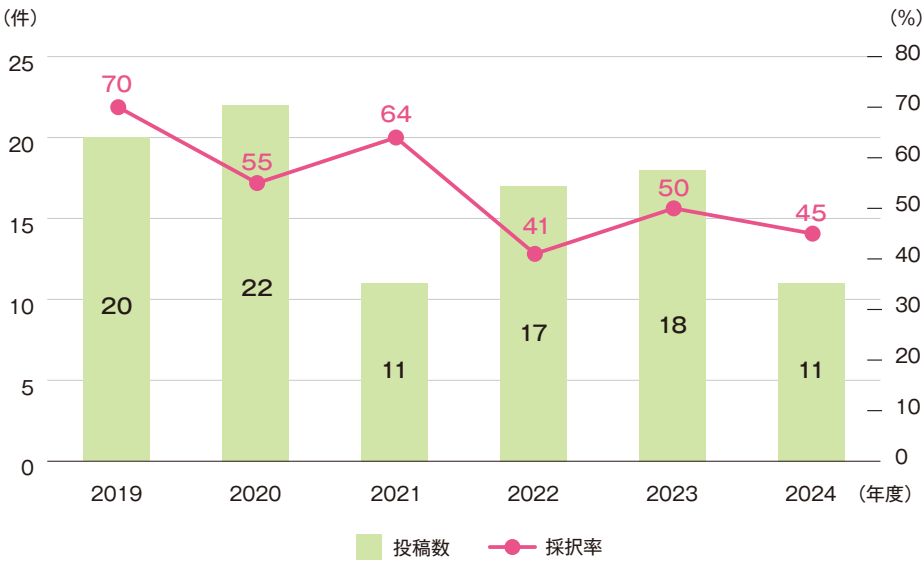
● 令和6年度の学会等の開催

学会名	開催日	延べ参加登録者数(人)
生き物文化誌学会第21回学術大会	2024年7月14日	100
国際音楽舞踏伝統学会東アジア音楽研究会	2024年8月23日～25日	134
日本民俗音楽学会第13回民俗音楽研究会	2024年9月14日	43
日本南アジア学会第37回全国大会	2024年9月28日・29日	140
2024年度日本オセアニア学会関西地区研究例会	2025年2月11日	27
日本民俗音楽学会第13回研究例会	2025年3月20日	30

2-2 研究出版活動

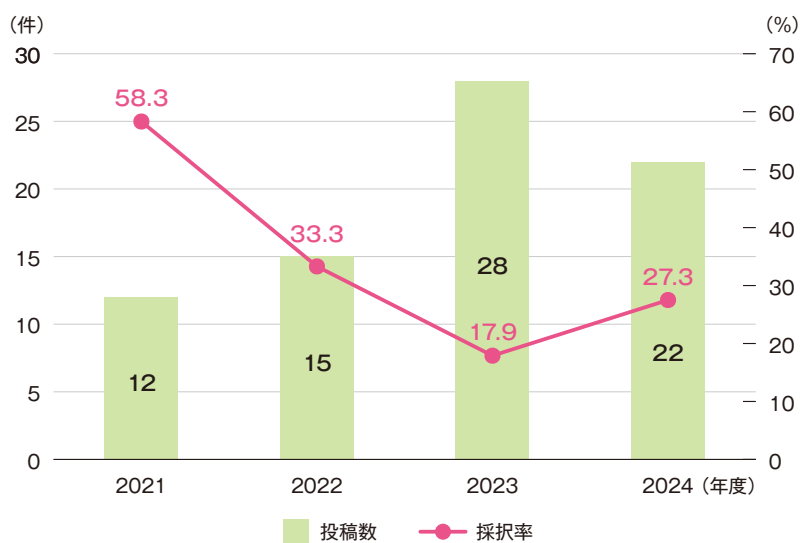
館内の出版物

● 国立民族学博物館研究報告の投稿数と採択率の推移



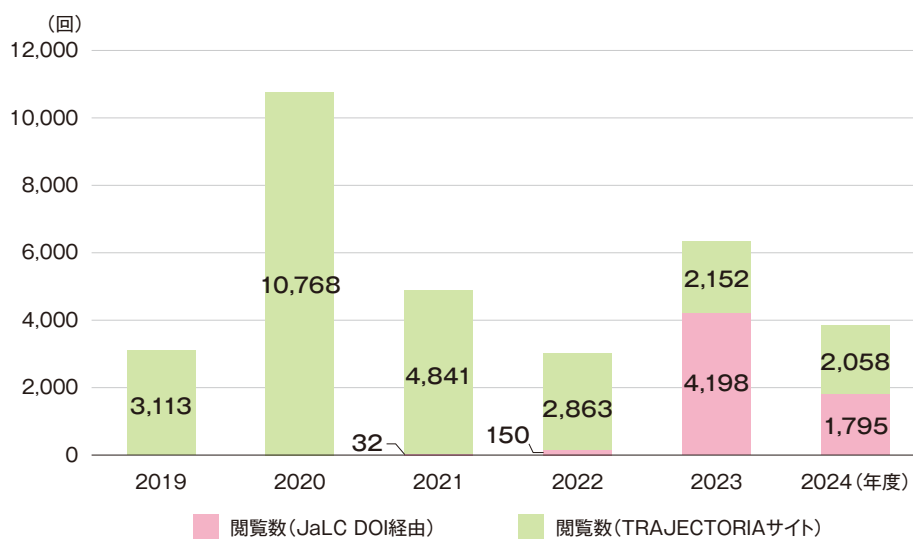
注：複数の論文等で構成される「特集」は、章ごとではなく特集全体で1件として投稿数にカウント

● TRAJECTORIA の投稿数と採択率の推移



注：2024年度から同一著者（グループ）からの投稿は1年に1件のみ受け付けることにした

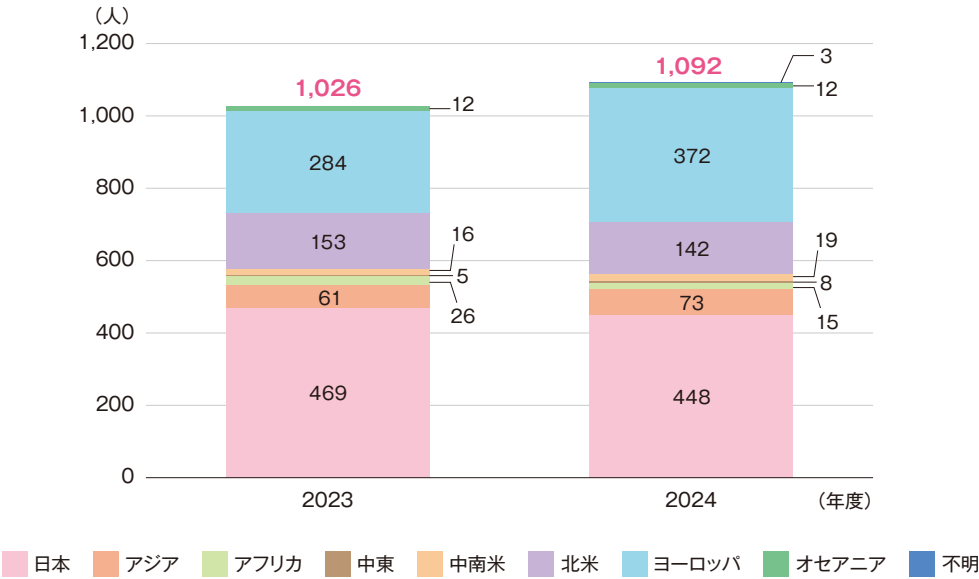
● TRAJECTORIA 掲載記事の閲覧数



注1：閲覧数（JaLC DOI経由）はジャパンリンクセンター（JaLC）で登録されたDOIから閲覧した数

注2：ジャパンリンクセンターでのDOI登録は2021年度から開始

● TRAJECTORIA のサイト利用者数



本館助成による館外出版物

● 令和6年度

共著・編著

著者／編者	書籍名	出版社
小野林太郎（編）	『島世界の葬墓制—琉球・海域アジア・オセアニア』	雄山閣
山 泰幸・西尾哲夫（編）	『ナラティブ・ポリティクスとしての異人論—不寛容時代の〈他者〉をめぐる物語』	臨川書店
卯田宗平（編）	『鵜飼の日本史—野生と権力、表象をめぐる1500年』	昭和堂
八木百合子（編）	『モノからみた宗教の世界』	春風社
東賢太郎・福井栄二郎・奈良雅史（編）	『脱観光化の人類学—かわりゆく観光と社会のゆくえ』	ミネルヴァ書房
佐川 徹・岡野英之・大澤隆将・池谷和信（編）	『その空間を統治するのはだれか—フロンティア空間の人類学』	ナカニシヤ出版
内藤直樹・森 明子（編）	『寄食という生き方—埒外の政治・経済の人類学』	昭和堂

● 令和6年度

タイトル	監修
第53集 ラージャスターンのガンゴール祭礼	三尾 稔
第54集 奄美大島の八月踊り	笹原亮二
第55集 つながりを生きる—東京のエチオピア移民—	川瀬 慈

2-3 みんぱくで実施した研究プロジェクト

特別研究

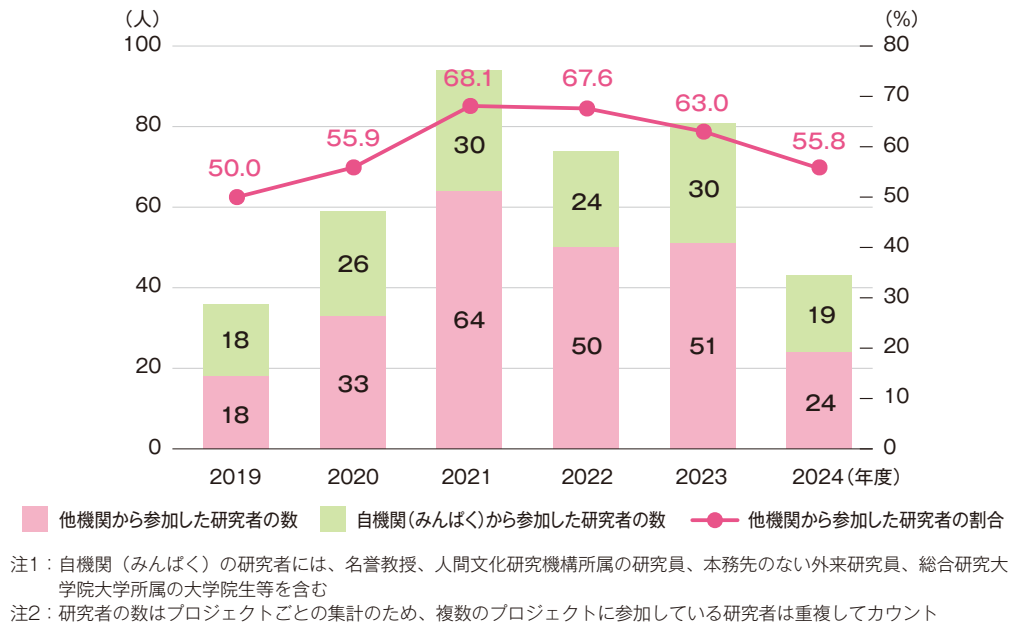
国内外の学術研究の動向や社会的な要請を踏まえ、新たな学問分野の創出に向けて実施する挑戦的な研究。2022年度からの第4期中期目標期間においては、「ポスト国民国家時代における民族」という共通タイトルのもと、5つの研究プロジェクトを構成し実施している。

● ロードマップ

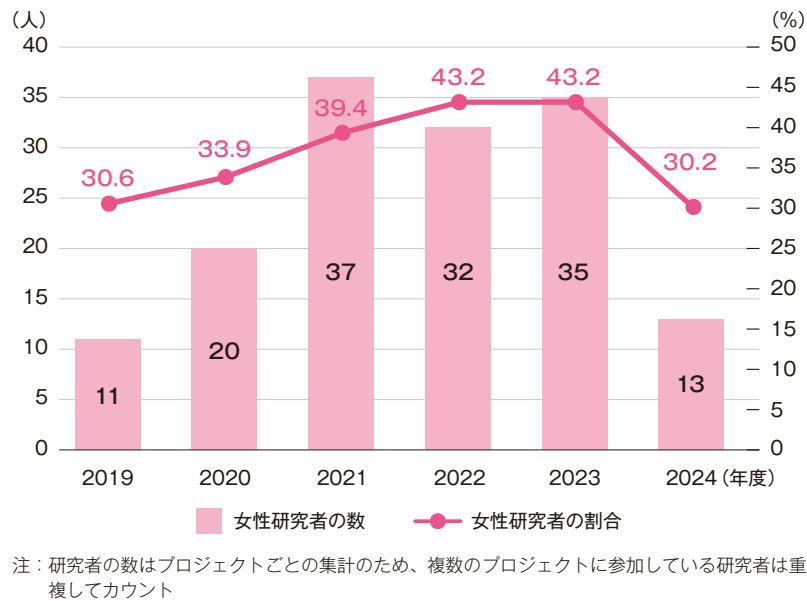
共通テーマ：ポスト国民国家時代における民族

テーマ区分	研究プロジェクト名	研究代表者	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
民族と博物館	ポストナショナリズム時代の博物館の挑戦 少数/先住民族の文化をいかに展示するか	鈴木 紀	R4.4.1		R7.3.31				
民族と国家	個人、帰属集団、国家の意思をめぐる相克の解明と多文化国家の実現	野林厚志		R5.4.1		R8.3.31			
民族と歴史	ルーツをめぐる政治学と共生の技法 —ポスト国民国家時代の民族と「歴史」	松尾瑞穂			R6.4.1		R9.3.31		
民族と宗教	民族と宗教 一もつれ合う排他性と包摂性	奈良雅史				R7.4.1		R10.3.31	
民族と暴力	政治的暴力・コンフリクトと民族	丹羽典生					R8.4.1		R11.3.31

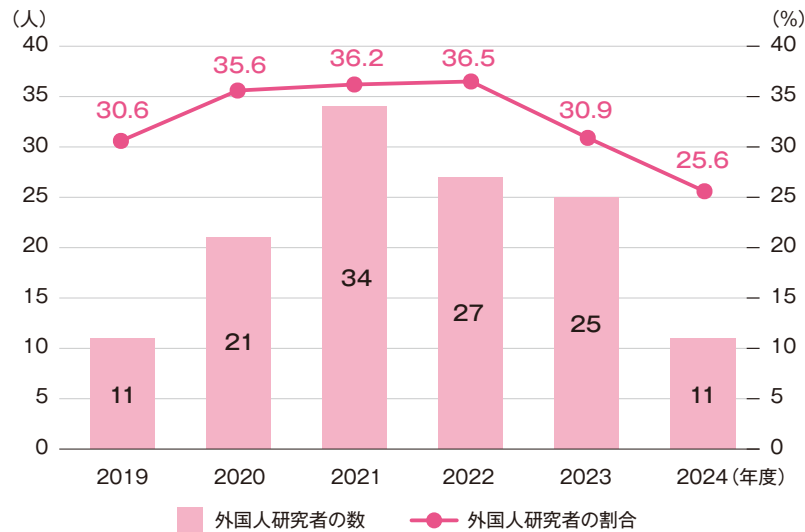
● 特別研究に他機関から参加した研究者の数と割合



● 特別研究に参加した女性研究者の数と割合



● 特別研究に参加した外国人研究者の数と割合

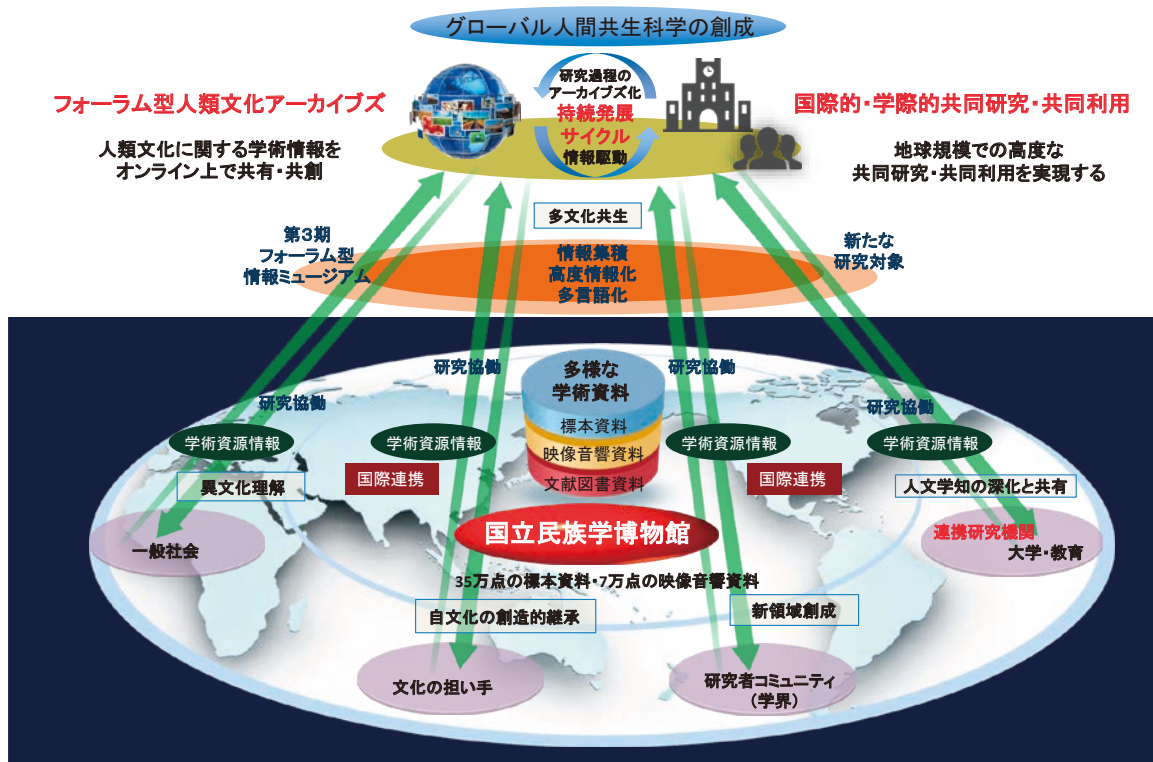


注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

フォーラム型人類文化アーカイブズの構築にもとづく持続発展型人文学研究の推進

現地社会との協働による国際的な共同研究の推進により、本館所蔵の学術資源をオンライン上で広く一般に発信する多言語型「人類文化アーカイブズ」を構築し、文化人類学・民族学及びその関連分野の学術資源の継承と国際的な共有財産化を可能とする教育研究活動の中核基盤拠点を形成することを目的とした研究プロジェクト。

なお、本プロジェクトは2016～2021年度の「フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト」を発展的に継承したものであり、以降、「フォーラム型プロジェクト」という名称を用いる場合には、両プロジェクトを指す。

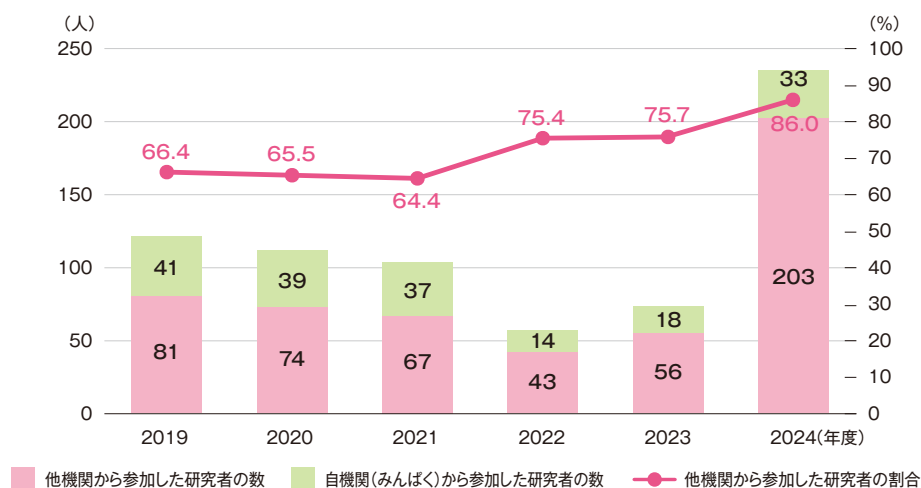


●「フォーラム型人類文化アーカイブズの構築にもとづく持続発展型人文学研究の推進」 年次計画表

基盤型4年、推進型2年

		研究課題名 代表者	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
基盤型	1	オーストラリア先住民の物質文化に関する研究 —民博収蔵の学術資料を中心に 平野智佳子						
	2	日本人の太平洋収集に関する総合的アーカイブスの構築 丹羽典生						
	3	ヨーロッパ地域文化展示のフォーラム型人類文化アーカイブズの構築 中川理						
	4	海域東南アジア・オセアニアの樹皮布とバスケタリー 小野林太郎						
推進型	1	徳之島・奄美大島の芸能に関するフォーラム型情報ミュージアムのデータベースを基盤とした芸能研究の推進とその成果としてのマルチメディア番組及び展示の制作・公開 笹原亮二						
	2	第一次東南アジア稲作民族文化総合調査のアーカイブス構築 —タイの写真資料を中心に 平井京之介						
	3	台湾研究デジタル統合アーカイブの構築 野林厚志						
	4	20世紀前半のレコードに聴く東アジアの伝統音楽 福岡正太						
	5	ペルーの文化資料に関するデジタルアーカイブスの構築と活用 八木百合子						
	6	西アジア北東部の文化動態と物質文化をめぐる超域的研究 黒田賢治						
	7	「朝鮮半島の装い」 データベースに関するドキュメンテーション研究 諸昭喜						
	8	民博所蔵北欧の日用品に関するデータベース構築—デザインの観点から 宮前知佐子						
	9	推進型9						
	10	推進型10						
	11	推進型11						
	12	推進型12						
多言語化対応								
システム開発								
	データベースシステム開発							
	横断検索機能開発							
国際発信プログラム（国際研究集会など）								
高等教育プログラム								
推進型プロジェクト実施準備								
データベースフォローアップ								

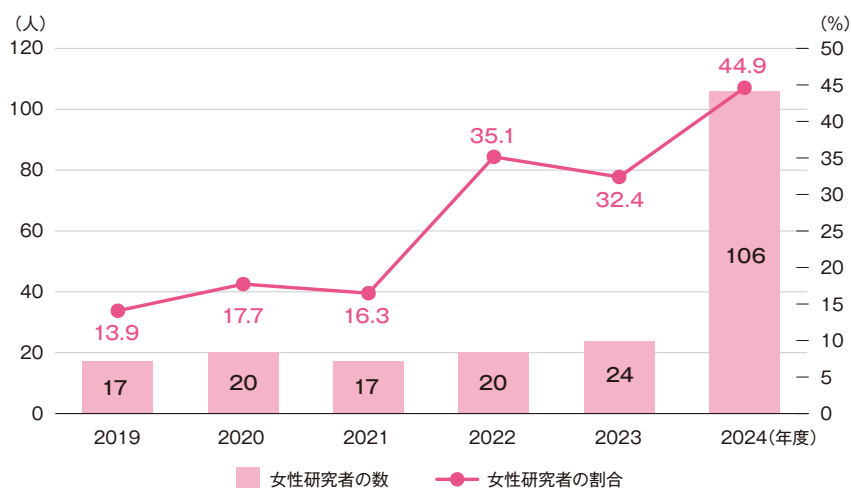
● フォーラム型プロジェクトに他機関から参加した研究者の数と割合



注1：自機関（みんぱく）の研究者には、名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学所属の大学院生等を含む

注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

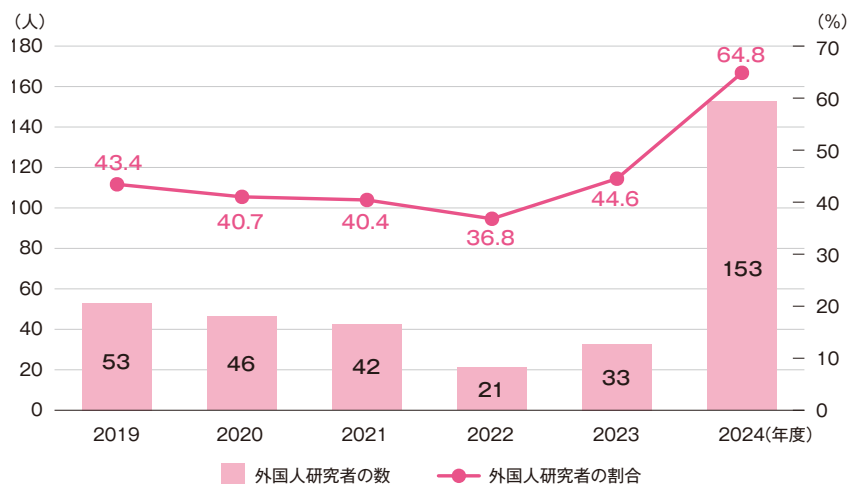
● フォーラム型プロジェクトに参加した女性研究者の数と割合



注1：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

注2：2024年度には性別不明の研究者が8名いた

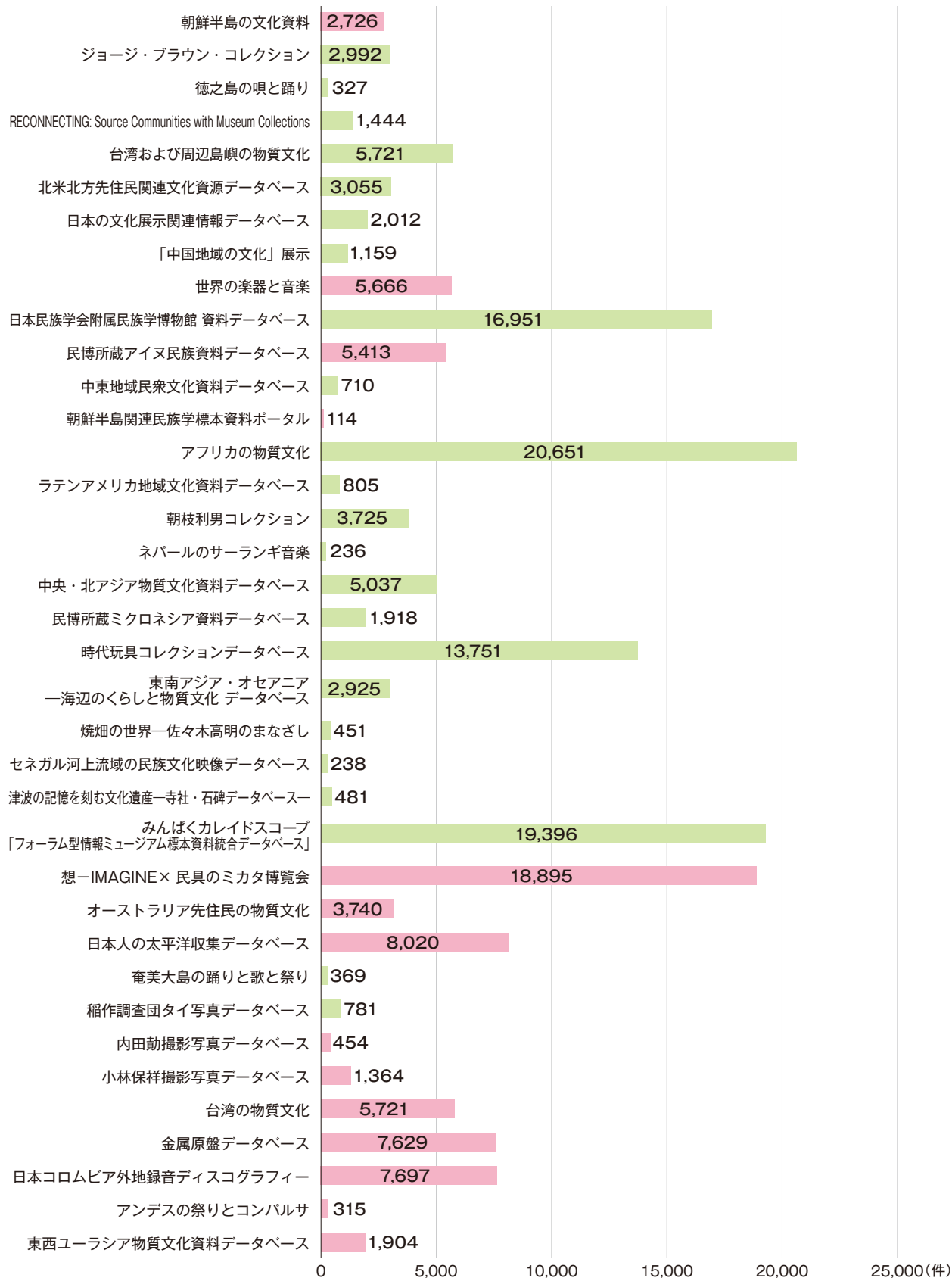
● フォーラム型プロジェクトに参加した外国人研究者の数と割合



注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

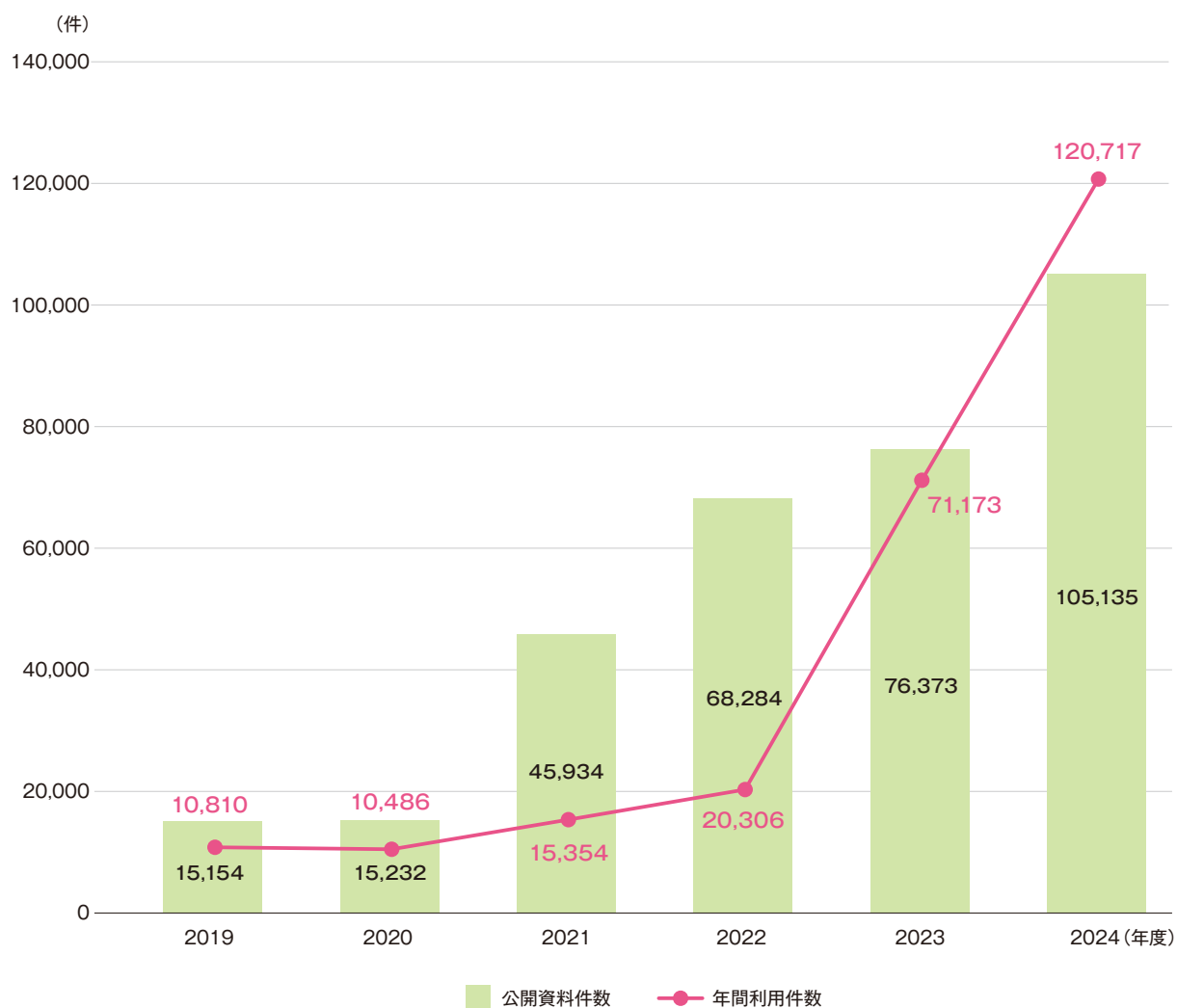
組織
研究
共同利用
展示
国際連携
社会連携
産学連携
大学院教育
業務運営

● フォーラム型プロジェクトで構築したデータベースの資料件数（2025年3月31日時点）



注：一般公開中のデータベースは ■ で、限定公開・制作中データベースは ■ で示した

● フォーラム型プロジェクト・データベースの公開資料件数と年間利用件数



注：年間利用件数は表示ページの合計ではなく、各データベースで最も重要なページ（標本資料詳細画面 / 動画再生画面 / 詳細画面等）の表示件数の合計

公募型共同研究

文化人類学・民族学および関連分野の特定のテーマについて館内外の専門家が共同でおこなう研究。一般と若手のふたつの区分を設けており、「共同研究（若手）」は、若手研究者を育成・支援することを目的としている。

令和6年度 共同研究課題一覧

一般

カテゴリー1：新領域開拓型

No.	研究課題	研究代表者	研究期間
1	現代アジアにおける生殖テクノロジーと養育——ジェンダーとリプロダクションの学際的比較研究	白井千晶	2021.10-2025.3
2	観光における不確実性の再定位	土井清美	2021.10-2025.3
3	被傷性の人類学／人間学	竹沢尚一郎	2021.10-2025.3
4	ミックスをめぐる帰属と差異化の比較民族誌——オセアニアの先住民を中心に	山内由理子	2022.10-2025.3
5	グローバル資本主義における多様な論理の接合——学際的アプローチ	中川 理	2022.10-2025.3
6	アジアの狩猟採集民の移動と生業——多様な環境適応の人類史	池谷和信	2022.10-2025.3
7	フォト・エスノグラフィーの実践に関する方法論の検討	岩谷洋史	2023.10-2026.3
8	呪術的偶然性と共同性の人類学的研究	津村文彦	2024.10-2027.3
9	非欧米圏ポピュラー音楽の実践に見る新たな文化動態	櫻間瑞希	2024.10-2027.3
10	日本人にとって鳥とは何か——鳥の文化誌をめぐるT字型学際共同研究	卯田宗平	2024.10-2027.3
11	バスケットリーと線状物に関する人類学的研究——植物生態と民族技術に着目して	上羽陽子	2024.10-2027.3
12	知的境界領域における生態想像力の往還	山中由里子	2024.10-2027.3

カテゴリー2：学術資料共同利用型

No.	研究課題	研究代表者	研究期間
13	民博所蔵東洋音楽学会資料に基づく日本民俗音楽の再構成と再活性化	植村幸生	2021.10-2025.3
14	日本人による太平洋の民族誌的コレクション形成と活用に関する研究——国立民族学博物館所蔵朝枝利男コレクションを中心に	丹羽典生	2021.10-2025.3
15	国立民族学博物館所蔵木製品標本資料にもとづく森林資源利用史の研究——桶と樽に着目して	落合雪野	2022.10-2025.3
16	国立民族学博物館の資料収集活動に関する研究——創設後50年のレビュー	飯田 卓	2023.10-2026.3
17	国立民族学博物館所蔵の北方デネー（北方アサバスカン）関連資料の活用に関する研究	井上敏昭	2024.10-2027.3
18	民博アーカイブに基づく人類学研究	中生勝美	2024.10-2027.3

若手

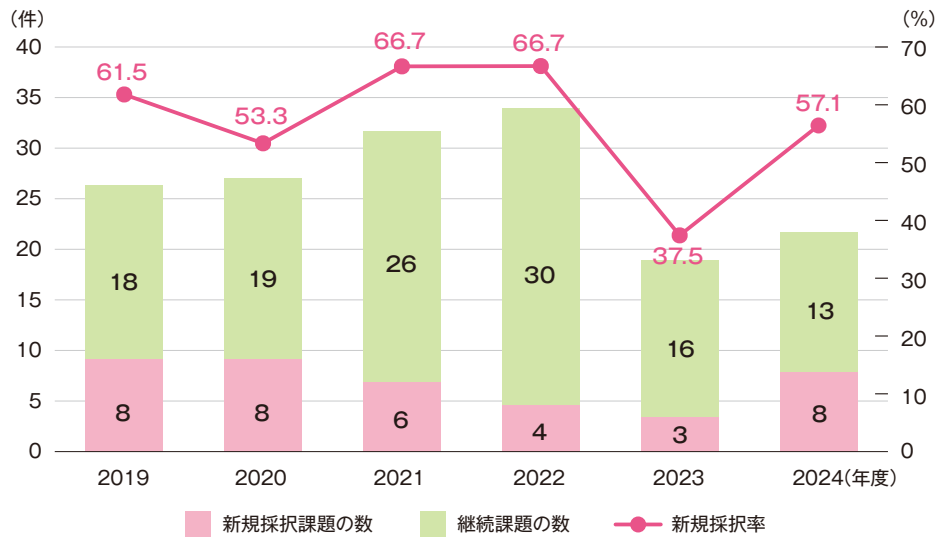
カテゴリー1：新領域開拓型

No.	研究課題	研究代表者	研究期間
19	伝承のかたちに「触れる」プロジェクト——「3D プリント×伝統素材・技法」のアプローチから	宮坂慎司	2021.10-2025.3
20	アフリカの人びととはいかに「アフリカ史」を語ってきたか——アフリカのローカルな歴史からみた「アフリカ史学史」	中尾世治	2023.10-2026.3

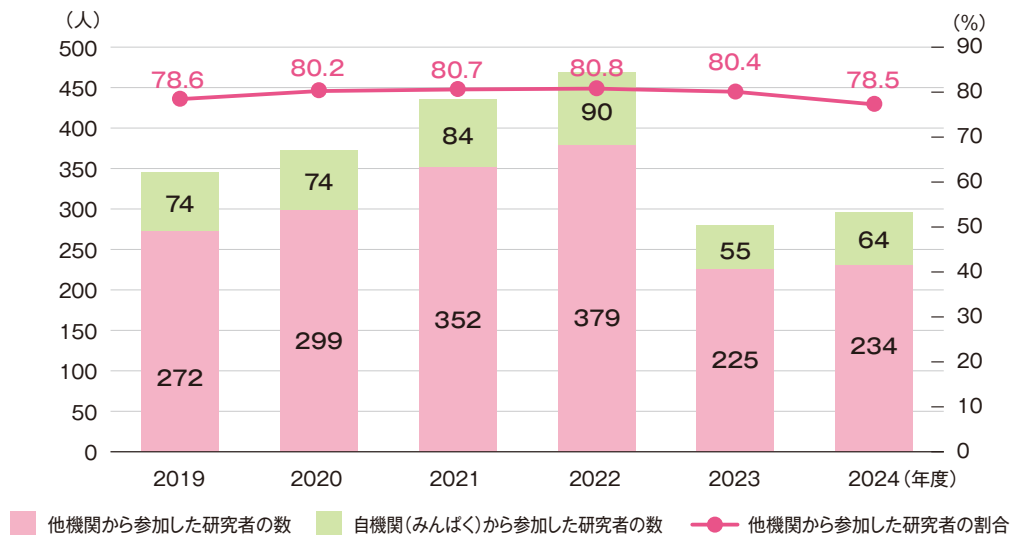
カテゴリー2：学術資料共同利用型

No.	研究課題	研究代表者	研究期間
21	日本人によるオセアニアコレクションの形成とモノの来歴——東大資料とみんぱくコレクションを中心に	土井冬樹	2024.10-2027.3

● 公募型共同研究の実施研究課題の数と新規採択率

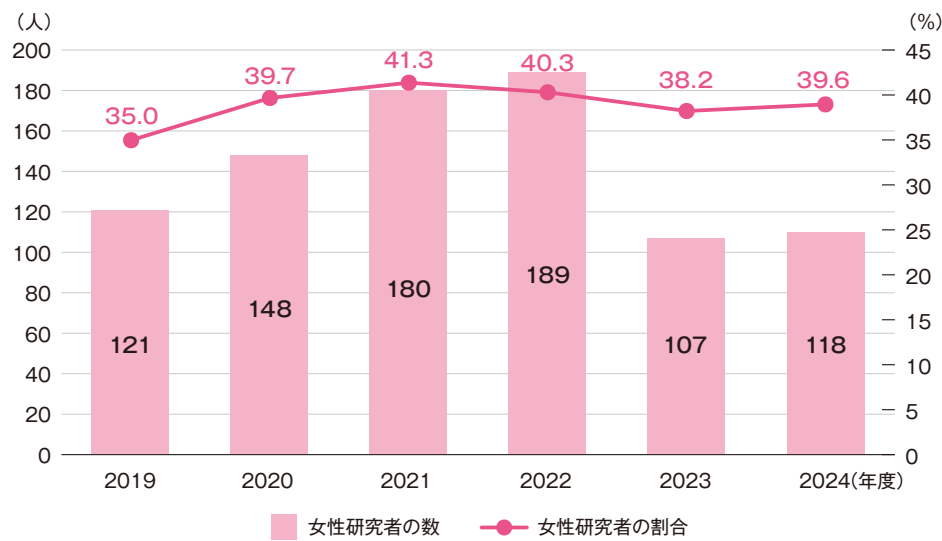


● 公募型共同研究に他機関から参加した研究者の数と割合



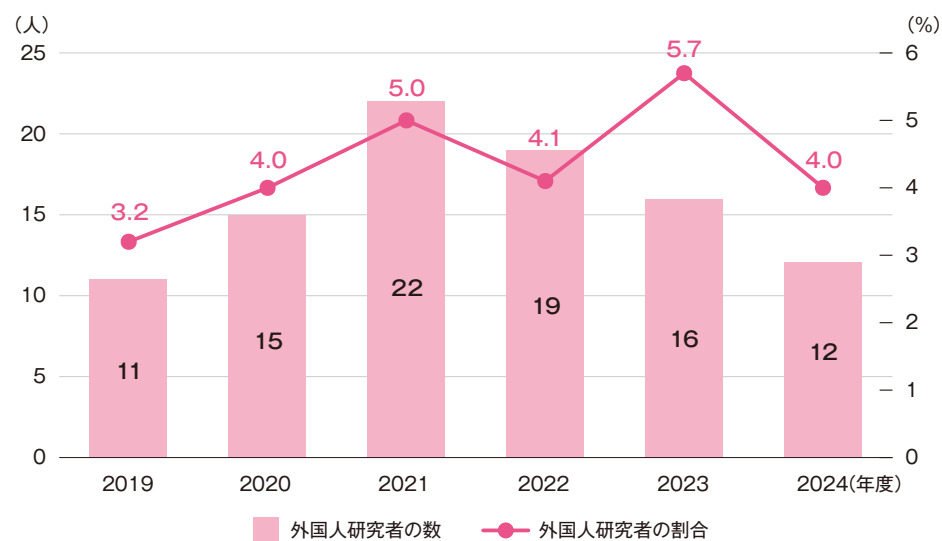
注1：自機関（みんぱく）の研究者には、名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学所属の大学院生等を含む
注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 公募型共同研究に参加した女性研究者の数と割合



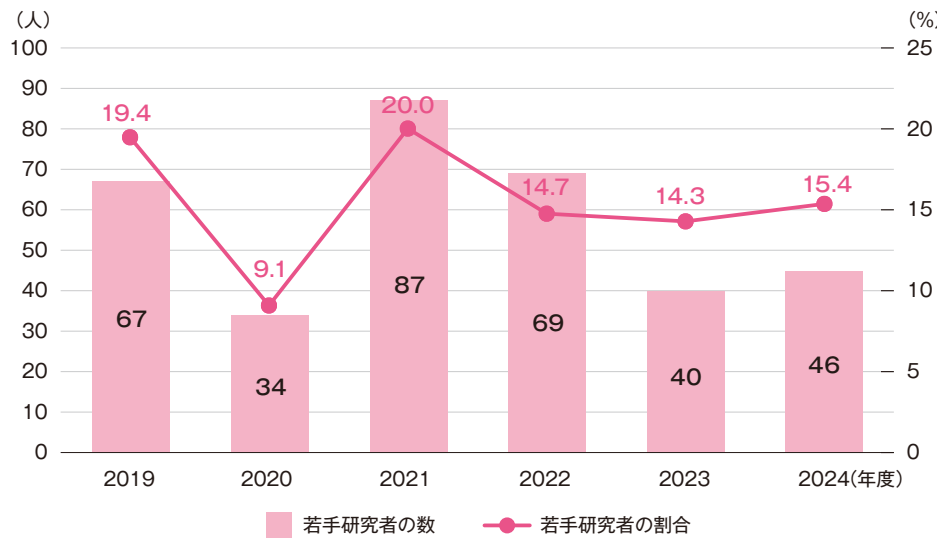
注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 公募型共同研究に参加した外国人研究者の数と割合



注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 公募型共同研究に参加した若手研究者（39歳以下）の数と割合



注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 令和6年度の公募型共同研究の成果刊行書籍

共著・編著

著者／編者	書籍名	出版社	
小野林太郎（編）	島世界の葬墓制—琉球・海域アジア・オセアニア	雄山閣	★
山 泰幸・西尾哲夫（編）	ナラティヴ・ポリティクスとしての異人論—不寛容時代の〈他者〉をめぐる物語	臨川書店	★
中原聖乃・三田 貴・黒崎岳大（編）	核問題の「当事者性」時間と場所を超えた問いかけ	泉町書房	
卯田宗平（編）	鵜飼の日本史—野生と権力、表象をめぐる1500 年	昭和堂	★
八木百合子（編）	モノからみた宗教の世界	春風社	★
東賢太朗・福井栄二郎・奈良雅史（編）	脱観光化の人類学—かわりゆく観光と社会のゆくえ	ミネルヴァ書房	★
佐川 徹・岡野英之・大澤隆将・池谷和信（編）	その空間を統治するのはだれか—フロンティア空間の人類学	ナカニシヤ出版	★
内藤直樹・森 明子（編）	寄食という生き方—埒外の政治・経済の人類学	昭和堂	★

★ 館外での出版物を奨励する制度を利用して刊行された出版物

文化資源プロジェクト

本館専任教員の提案に基づき、本館あるいは大学等関連諸機関が所有する学術資源の体系化をすすめ、共同利用を促進し、学術的価値を高めるために実施する研究プロジェクト。

令和6年度 文化資源プロジェクト一覧

1 調査・収集分野（1件）

プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間
特別展「シルクロードの商人（あきんど）語りーサマルカンドの遺跡と遙かなるユーラシア交流」（仮称）のための標本資料収集	寺村裕史	単年度

2 資料管理分野（0件）

プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間
該当なし		

3 展示分野（14件）

プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間
特別展「日本の仮面ー芸能と祭り」	笹原亮二	2年計画の2年目
特別展「吟遊詩人の世界」	川瀬 慈	4年計画の4年目
特別展「民具のデザインー生活文化の造形」（仮称）	日高真吾	3年計画の2年目
企画展示「水俣病を伝える」	平井京之介	3年計画の3年目
企画展「客家と日本」（仮題）	奈良雅史	3年計画の3年目
企画展示「点と線の美学ーアラビア書道の世界」（仮題）	相島葉月	3年計画の2年目
巡回展「ユニバーサル・ミュージアムー さわる！ “触” の大博覧会」（福岡・直方谷尾美術館）	廣瀬浩二郎	2年計画の2年目
巡回展「驚異と怪異ー想像界の生きものたち」（国立アイヌ民族博物館）	山中由里子	2年計画の2年目
巡回展「 <i>Homō loquēns</i> 「しゃべるヒト」ことばの不思議を科学する」（京都府立医科大学 医学科共同企画）	菊澤律子	2年計画の1年目
国際連携展示「驚異と怪異ー想像界の生きものたち」（中国巡回）	山中由里子	3年計画の2年目
特別展「船（舟）と人類ーアジア・オセアニアと海の暮らし」（仮称）準備	小野林太郎	3年計画の2年目
特別展「シルクロードの商人（あきんど）語りーサマルカンドの遺跡と遙かなるユーラシア交流」（仮称）準備	寺村裕史	4年計画の2年目
特別展「沙流川流域のアイヌのくらし」（仮題）のための予備調査	齋藤玲子	3年計画の1年目
黒潮アートプロジェクトー企画展「台湾原住民族アートの今」（仮題）の準備	野林厚志	2年計画の1年目

4 博物館社会連携分野（1件）

プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間
2022年度秋の特別展示『 <i>Homō loquēns</i> 「しゃべるヒト」ことばの不思議を科学する』の国際共同利用を想定したウェブ化準備プロジェクト	菊澤律子	2年計画の2年目

情報プロジェクト

本館専任教員の提案に基づき、本館あるいは大学等関連諸機関が所有する学術資源の情報化をすすめ、共同利用を促進し、学術的価値を高めるために実施する研究プロジェクト。

● 令和6年度 情報プロジェクト一覧

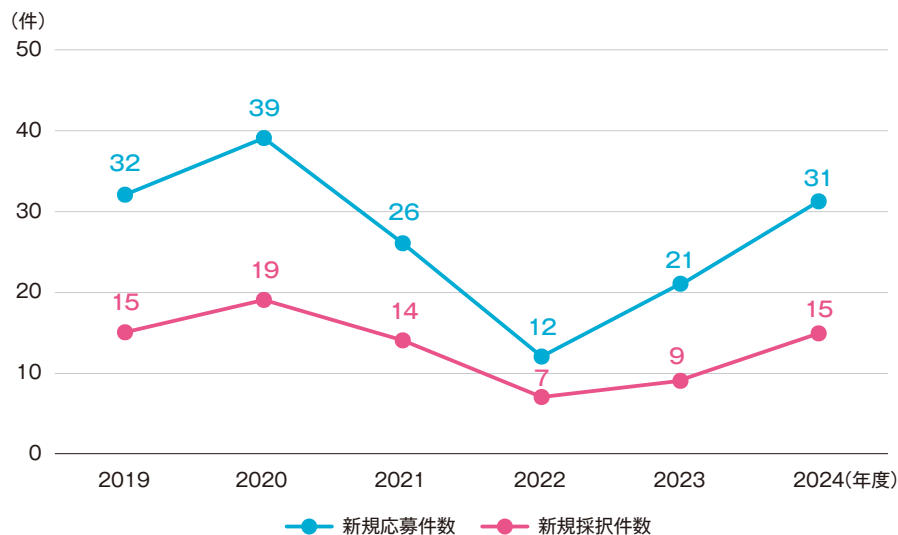
1 制作・収集分野（4件）

プロジェクト名	提案者	プロジェクト期間
みんなく映像民族誌「サマルカンドの遺跡とシルクロード交易（仮題）」の制作	寺村裕史	2年計画の1年目
映像民族誌「巡りゆくベンガルの歌世界―バウルの道（前編）・ポト絵の里帰り（後編）」（仮題）の制作	岡田恵美	2年計画の2年目
みんなく映像民族誌「（仮題）米国先住民ホピの服飾作家による季節の踊りの盛装解説」の制作	伊藤敦規	2年計画の2年目
マルチメディア番組「ラージャスターン州メーワール地域のくらしと信仰」の拡充	三尾 稔	単年度

2-4 外部資金による研究

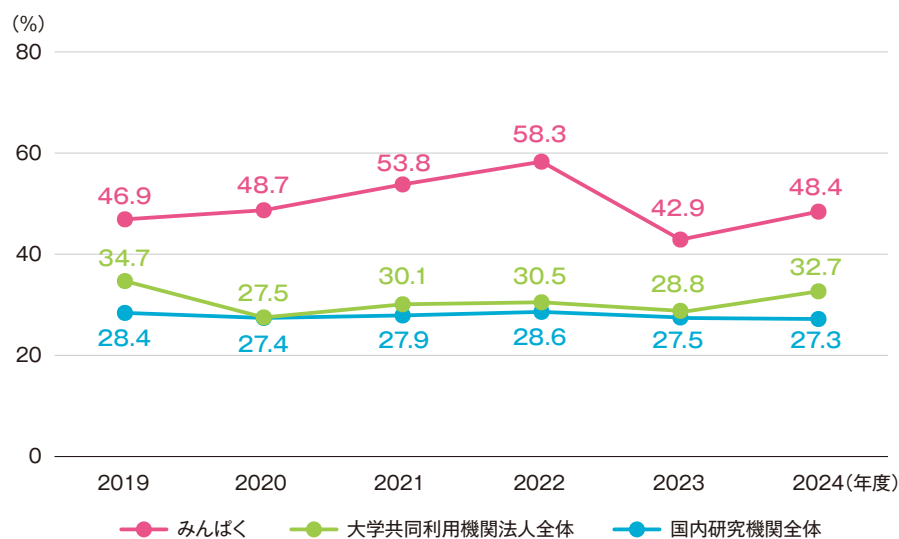
科研費による研究プロジェクト

● 新規応募件数と新規採択件数



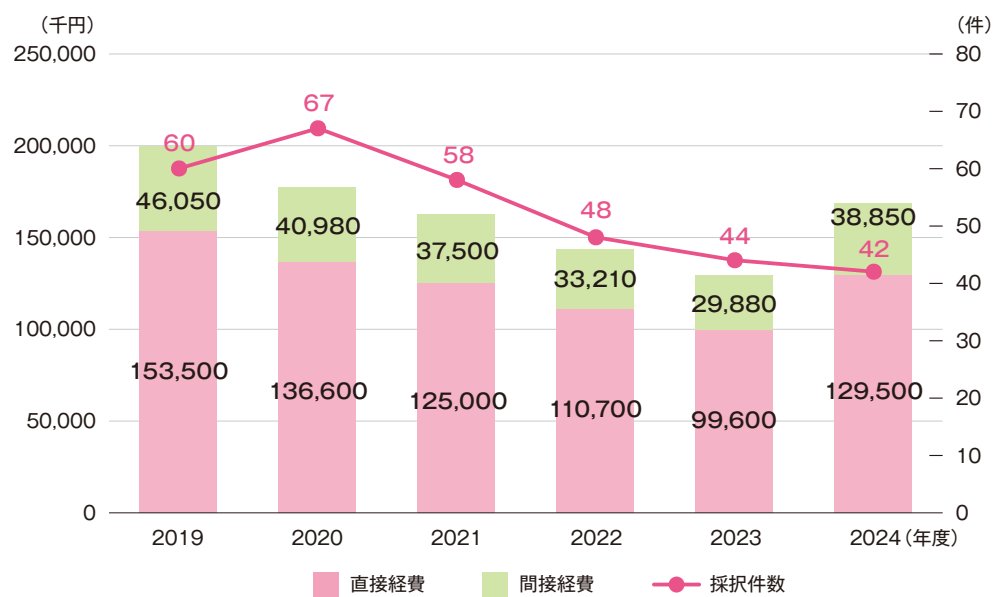
【出典】日本学術振興会 科研費データ

● 新規採択率の比較



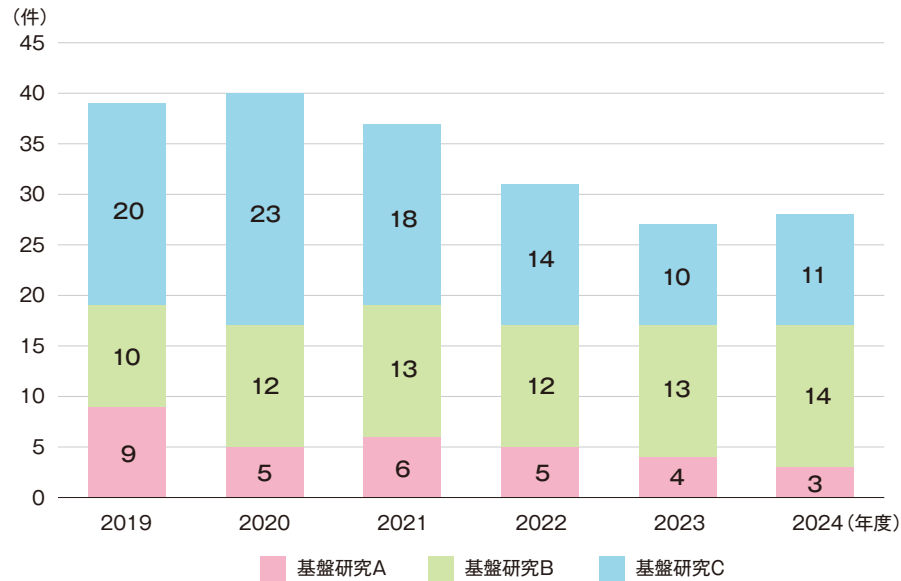
【出典】日本学術振興会 科研費データ

● 採択件数（新規＋継続）と配分額



【出典】日本学術振興会 科研費データ

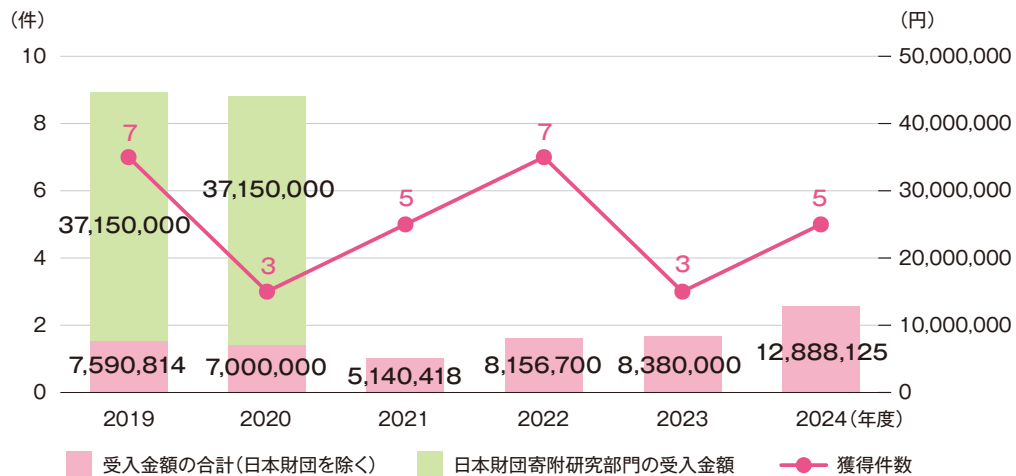
● 研究種目別採択件数（新規＋継続）



【出典】日本学術振興会 科研費データ

民間助成などによる研究プロジェクト

● 民間助成などによる研究プロジェクトの獲得件数と受入金額



注1：採択年度ではなく、入金があった年度での集計
注2：獲得件数に日本財団寄附研究部門は含まない

● 助成機関の一覧（2019～2024年度）

公益信託 澁澤民族学振興基金	一般社団法人 日本文化人類学会
公益財団法人 日本財団	順益台湾原住民博物館
公益財団法人 りそなアジア・オセアニア財団	Australian Research Council
公益財団法人 三島海雲記念財団	韓国学中央研究院
公益財団法人 鹿島美術財団	The Chiang Ching-kuo Foundation for International Scholarly Exchange
公益財団法人 アイヌ民族文化財団	公益財団法人 稲盛財団
公益財団法人 味の素の文化センター	公益財団法人 三菱財団
公益財団法人 平和中島財団	公益財団法人 発酵研究所
公益財団法人 村田学術振興財団	
公益財団法人 JFE21世紀財団	

2-5 人間文化研究機構 基幹研究プロジェクト

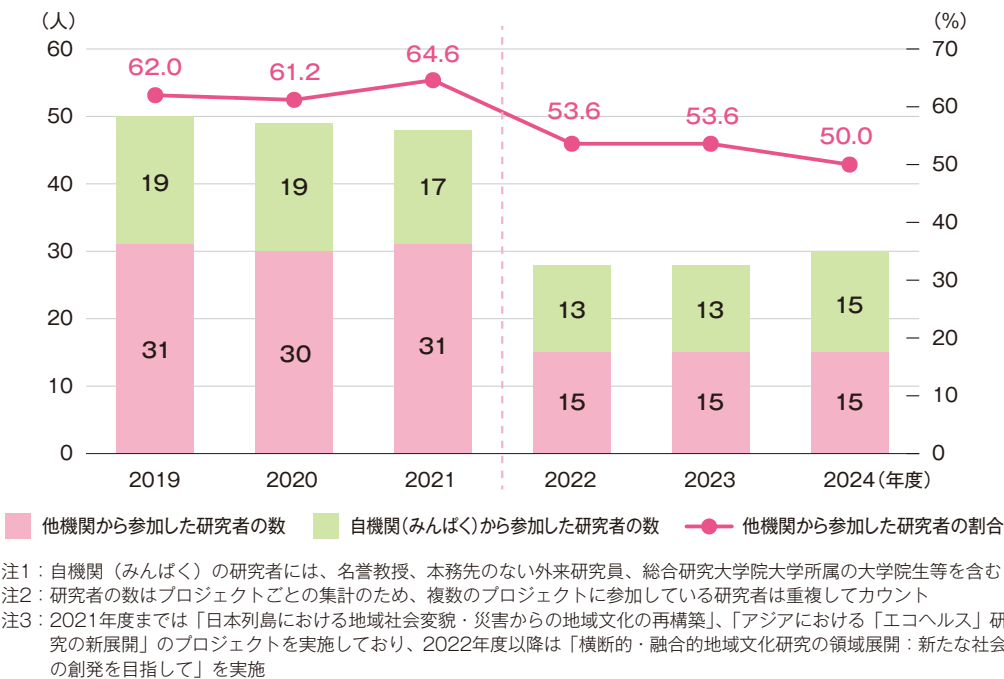
人間文化研究機構が、国内外の大学等研究機関や地域社会等と組織的に連携し、現代的諸課題の解明に資するプロジェクト。

広領域連携型 基幹研究プロジェクト

● みんなくにおける広領域連携型基幹研究プロジェクト

プロジェクト名	代表者
地域文化の効果的な活用モデルの構築	日高真吾

● みんなくの広域連携型基幹研究プロジェクトに他機関から参加した研究者の数と割合



● 令和6年度の成果刊行書籍

共著・編著

著者／編者	書籍名	出版社
正垣雅子・岡田真輝・末森 薫（編）	写真家井上隆雄の視座を継ぐ—仏教壁画デジタルライブラリと芸術実践	京都市立芸術大学
国立民族学博物館（編）	語りあいひらける世界—みんなく五十年の歩み	国立民族学博物館
日高真吾（編）	博物館資料保存論〔改訂新版〕	放送大学教育振興会
日高真吾・加藤幸治（編）	民具のミカタ博覧会 見つけて、みつめて、知恵の素—デザインから読み解く、日本と世界のくらしの造形	誠文堂新光社

● 令和6年度に開催したシンポジウム等

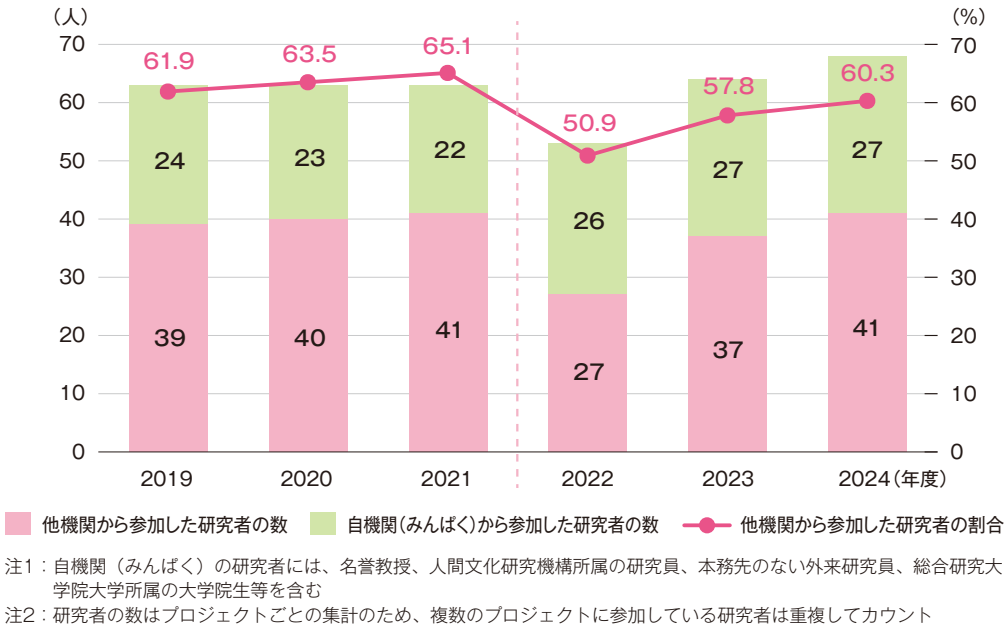
No.	プロジェクト	実施日	タイトル	開催場所	参加者・聴衆者数（人）	
					会場参加	オンライン参加 （最大同時接続数）
1	○ 地域文化の効率的な活用モデルの構築	2024年 6月21日	2024年度文化財保存修復学会公開シンポジウム「博物館 DX がみんなを結ぶ」	帝京大学	160	—
2	□ 地域文化の効率的な活用モデルの構築	2025年 1月26日	公開シンポジウム「いま改めて民俗文化財を考える——災害の問題、廃棄の問題——」	民博 第5セミナー室	45	170
3	□ 地域文化の効率的な活用モデルの構築	2025年 2月14・ 15日	国際シンポジウム「地域文化のドキュメンテーションとアーカイブズ—生活の記憶を記録し、保存し、活かすことの意義」	台湾歴史博物館	155	—
4	○ 地域文化の効率的な活用モデルの構築	2025年 3月15日	地域歴史文化大学フォーラム「複合災害期における資料保存・継承の展望」	オンライン開催	8	76
5	□ 地域文化の効率的な活用モデルの構築	2025年 3月30日	みんなく創設50周年記念特別展「民具のミカタ博覧会—見つけて、みつめて、知恵の素」関連シンポジウム「コレクションの系譜学」	民博 第5セミナー室	40	60

ネットワーク型 基幹研究プロジェクト

● みんなくを拠点とするプロジェクト

プロジェクト名	代表者
グローバル地域研究プログラム（総括班）	三尾 稔
グローバル地中海地域研究プロジェクト（中心拠点）	西尾哲夫
環インド洋地域研究プロジェクト（中心拠点）	三尾 稔
海域アジア・オセアニア研究プロジェクト（中心拠点）	小野林太郎
東ユーラシア研究プロジェクト	島村一平

● みんなくのネットワーク型基幹研究プロジェクトに他機関から参加した研究者の数と割合



● 令和6年度の成果刊行書籍

単著

著者 / 編者	書籍名	出版社
菅瀬晶子	たくさんのふしぎ2024年6月号 ウンム・アーザルのキッチン	福音館書店
Kazunobu Ikeya	Senri Ethnological Studies No.113, Sedentarization and Subsistence Strategies among the Botswana San—Mobility and Lifeway Transitions (1929-2010)	National Museum of Ethnology
鈴木英明	自由誰説了算？奴隷廢除後の理想與現實	臺灣商務印書館

共著・編著

著者 / 編者	書籍名	出版社
国立民族学博物館（編）	語りあいひらける世界—みんなく五十年の歩み	国立民族学博物館
正垣雅子・岡田真輝・末森 薫（編）	写真家井上隆雄の視座を継ぐ—仏教壁画デジタルライブラリと芸術実践	京都市立芸術大学
Nile Green, Kenji Kuroda, Nobuo Misawa (eds.)	What Did the Japanese Narrow Victory Bring to Global History? Proceedings of the International Symposium "The Echoes of the Narrow Victory over the Russo-Japanese War" (Tokyo, Dec. 7, 2024)	Asian Cultures Research Institute, Toyo University
山 泰幸・西尾哲夫（編）	ナラティヴ・ポリティクスとしての異人論—不寛容時代の〈他者〉をめぐる物語	臨川書店
Rintaro Ono, Alfred Pawlik (eds.)	The Prehistory of Human Migration: Human Expansion, Resource Use, and Mortuary Practice in Maritime Asia.	IntecOpen Publisher. Open Access E Book
島村一平（編）	辺境のラッパーたち—立ち上がる「声の民族誌」	青土社
東賢太郎・福井栄二郎・奈良雅史（編）	脱観光化の人類学—かわりゆく観光と社会のゆくえ	ミネルヴァ書房

著者／編者	書籍名	出版社
鈴木英明（編）	移動の文明誌―「自由」と「不自由」の狭間で	思文閣
小野林太郎（編）	島世界の葬墓制―琉球・海域アジア・オセアニア	雄山閣

● 令和6年度に開催したシンポジウム等

No.	プロジェクト	実施日	タイトル	開催場所	参加者・聴衆者数（人）	
					会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1	○ グローバル地域研究・海域 アジア・オセアニア	2024年 5月11日	みんなく創設50周年記念国際シンポジウ ム「海域からみる人類の文化遺産」	民博インテリジェ ントホール（講堂）	231	492
2	□ 東ユーラシア	2024年 5月11日	朗読&トークイベント「イディッシュ文学 のタベ“番外篇”ベルゲルソン「生き証人」 ／デル・ニステル「酔いどれ」	オンガー・サ ロン	10	50
3	○ 東ユーラシア	2024年 7月12日	ヴァナキュラー文化研究会講演会 グロー バル時代の生きる伝統―メキシコ先住民 アーティストの実践	立命館大学衣笠 キャンパス 図書館カンファレ ンスルーム	10	23
4	○ 東ユーラシア	2024年 9月22日	Cultural Typhoon 2024「ラップが可視 化する＜現実＞『辺境のラッパーたち―立 ち上がる「声の民族誌」』から考える」	神戸 KIITO ギャラリーA	70	30
5	○ グローバル地中海	2024年 10月20日	グローバル地中海ワークショップ「中国・ 東南アジアをめぐる文化の環流」	民博 第6セミナー室	7	13
6	□ グローバル地域研究	2024年 12月5～7日	Crisis of Wellbeing and Wellbeing in Crisis across Borders	東北大学	27	—
7	□ 環インド洋	2024年 12月15日	合評会：松川 恭子・渡邊 暁子・Zahra Babar 編著、Transnational Generations in the Arab Gulf States and Beyond (Springer, 2023年)	京都大学吉田キャン パス 本部構内総合研究 2号館4階会議 室（AA447）	5	—
8	□ 東ユーラシア	2024年 12月22日	UkrPop 研究会（第2回）「ウクライナ映 画を見直す―その誕生から2024年現在ま で」	民博 第5セミナー室	18	—
9	○ グローバル地中海・環イン ド洋	2025年 2月8・9日	グローバル地中海・環インド洋合同国際 ワークショップ “Global Perspectives on Persian Art: Reception, Representation, and Identity”	民博 第4セミナー室	11	—
10	○ グローバル地中海	2025年 2月27日	International Workshop “Arab and Muslim Immigrants in Latin America: A Panorama of the Field and Perspectives for Future Research Collaborations”	民博 大演習室	2	10
11	○ グローバル地域研究	2025年 3月16日	第88回体験セミナー「コーヒー賛歌―香 りを聞き、音を味わう」	UCC グループ 神戸本社 9階ラウンジ	30	—
12	○ グローバル地中海	2025年 3月22日	いま、中東世界で何が起こっているのか？ ―前・駐レバノン大使に聞く	民博インテリジェ ントホール (講堂)	271	—

組
織

研
究

共
同
利
用

展
示

国
際
連
携

社
会
連
携

産
学
連
携

大
学
院
教
育

業
務
運
営

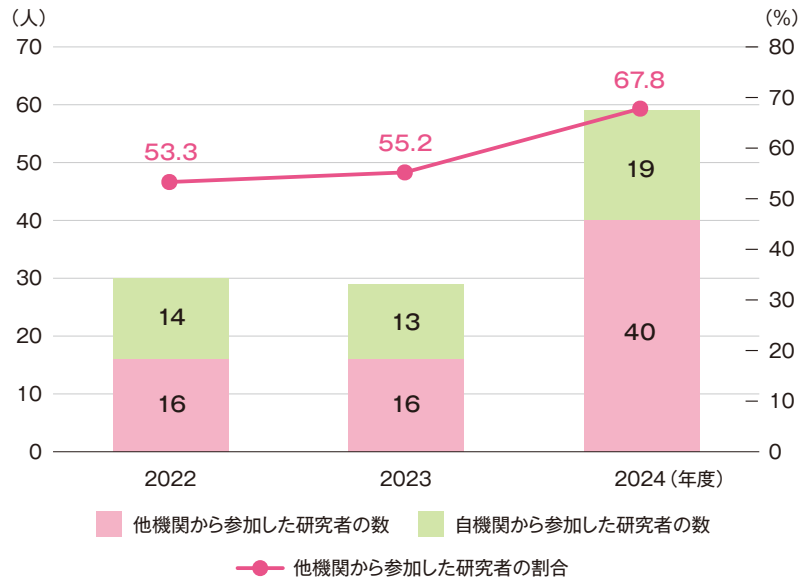
2-6 人間文化研究機構 共創先導プロジェクト

人間文化研究機構が、研究成果の共有化や地域・社会との共創を推進するプロジェクトであり、「社会共創」「デジタル化」「国際共創」をキーワードに研究展開を図っている。

共創促進研究

プロジェクト名	代表者
コミュニケーション共生科学の創成	菊澤律子
学術知デジタルライブラリの構築	飯田 卓

● みんなくの共創先導プロジェクトに他機関から参加した研究者の数と割合



注：自機関（みんなく）の研究者には、名誉教授、人間文化研究機構所属の研究員、本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学所属の大学院生等を含む

● 令和6年度の成果刊行書籍

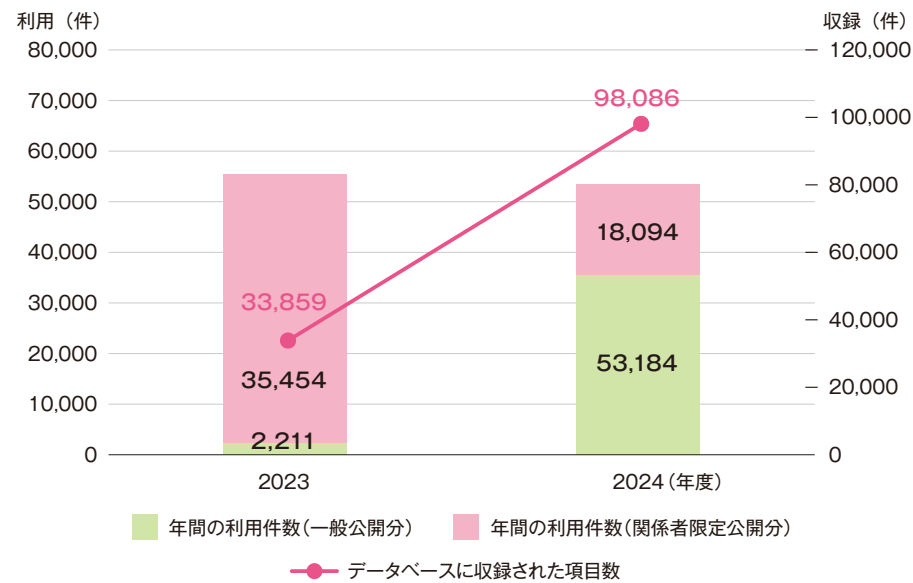
共著・編著

著者 / 編者	書籍名	出版社
正垣雅子・岡田真輝・末森 薫（編）	写真家井上隆雄の視座を継ぐ—仏教壁画デジタルライブラリと芸術実践	京都市立芸術大学

● 令和6年度に開催したシンポジウム等

No.	プロジェクト	実施日	タイトル	開催場所	参加者・聴衆者数（人）	
					会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1	□ 学術知デジタルライブラリの構築	2024年 12月8日	X-DiPLAS シンポジウム「地域研究アーカイブ画像の活かし方—地理学と歴史学の視点から考える」	民博 第4セミナー室	23	30
2	□ 学術知デジタルライブラリの構築	2025年 1月17日	ワークショップ「博物館アーカイブズの課題—大学文書館の例に学ぶ」	民博 大演習室	16	74

● X-DiPLAS データベースに収録された件数と利用された件数



注：利用件数は画面表示された件数

3 共同利用

3-1 国内における研究連携

国内学術協定

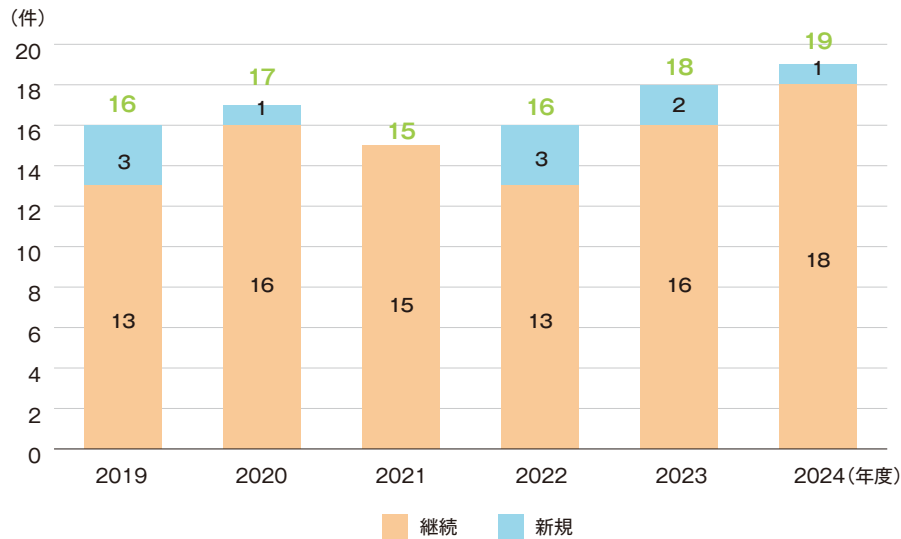
令和6年度 国内学術協定一覧

◇令和6年度締結

No.	締結日	相手機関名	交流協定の概要（研究分野、協定に基づく活動等）
1	H20.2.27	日本文化人類学会	研究連携、研究交流、相互の研究成果の活用を促進し、もって人類社会における学術の発展と普及に寄与する。
2	H26.3.23	国立大学法人 金沢大学	金沢大学と国立民族学博物館とのこれまで長年にわたり培ってきた信頼関係と連携・協力の実績を基盤に、より緊密かつ組織的に行う体制強化を図る。
3	H27.3.23	大阪工業大学	情報メディア・デジタルコンテンツに関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を行う。
4	H27.11.19	株式会社 海遊館	産学連携の推進、学術研究の振興、研究成果による社会貢献、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を行う。
5	H27.11.25	国立大学法人 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所	世界諸地域の言語と文化に関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を行う。
6	H28.7.15	国立大学法人 神戸大学 大学院人文学研究科	研究教育職員の交流、共同研究及び教育協力等の実施、資料の保存、活用及び展示に関する相互協力等を行う。
7	H30.2.16	国立大学法人 山形大学	研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
8	H30.3.17	国立大学法人 大阪大学	学術研究、教育、社会貢献及びその他諸活動の発展に資する。
9	H30.3.19	京都芸術大学 (旧 京都造形芸術大学)	研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
10	H30.11.19	一般社団法人 文化財保存修復学会	文化財保存のための基礎研究を行う研究者、実際に文化財の修復を行う修復家、美術館・博物館の学芸員、将来の専門家を育成する教育機関の関係者、専門家を志す学生などさまざまな立場の会員が集まり、文化財の保存に関わる科学・技術の発展と普及を図る。
11	R1.11.3	一般社団法人 東洋音楽学会	研究連携、研究交流、相互の研究成果の活用を促進し、もって音楽文化の持続可能な発展と、音楽文化研究の深化に寄与する。
12	R2.3.26	神奈川大学日本常民文化研究所	両機関が行う研究活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究の一層の進展と日本の文化人類学・民俗学等の発展に資する。
13	R3.3.22	公立大学法人 金沢美術工芸大学	相互に連携を図り、平成の百工比照コレクションデータベース（以下「データベース」という。）を基に、高等教育におけるデータベースの在り方及び活用手法について検証するとともに、社会連携事業と連動させることにより、高等教育教材の実用化を目的とする。
14	R4.8.1	情報・システム研究機構 国立情報学研究所	両機関が行う研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
15	R4.9.12	国立大学法人 岡山大学文明動態学研究所	両者が行う研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。

No.	締結日	相手機関名	交流協定の概要（研究分野、協定に基づく活動等）
16	R5.3.27	北海道釧路湖陵高等学校	北海道釧路湖陵高等学校が行う「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」における協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資することを目的とする。
17	R5.12.1	公益財団法人 大阪国際平和センター	両機関が行う研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
18	R6.1.9	聖心女子大学グローバル共生研究所	両機関が行う研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
19 ◇	R6.9.1	兵庫県豊岡市日本・モンゴル民族博物館	国立民族学博物館と兵庫県豊岡市が設置する日本・モンゴル民族博物館が相互に連携を図り、交流・協力を推進することにより、学術研究、教育活動及び地域社会の発展に資する。

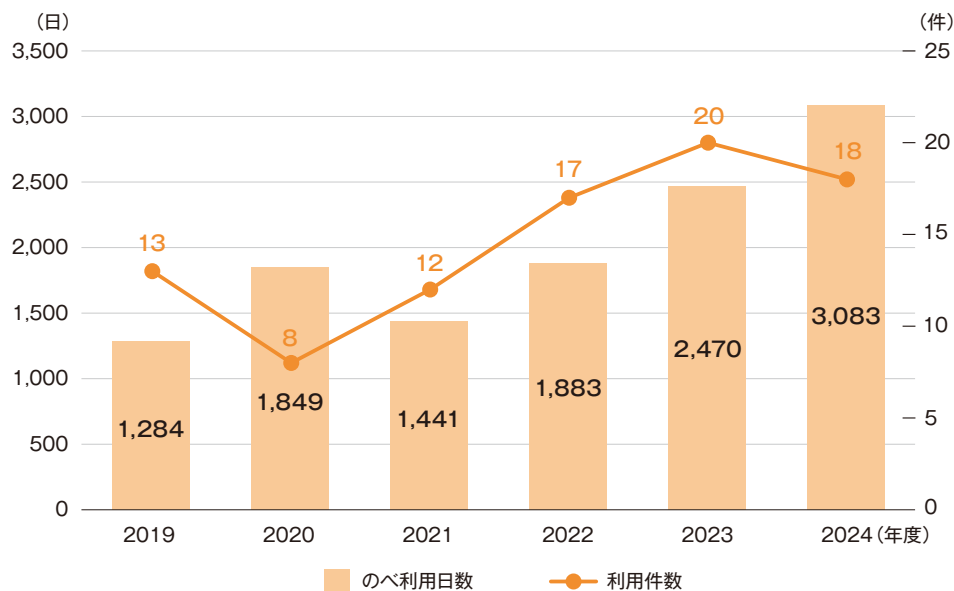
● 国内学術協定締結数の推移



共同利用型科学分析室

民族資料や文化財、博物館資料を対象に、非破壊分析や材質分析をおこなう分析装置システムを所有しており、文化人類学やその周辺領域の学問分野のさまざまな組織や研究者が活用し、共同利用の促進に資することを目的としている。

共同利用型科学分析室の利用実績

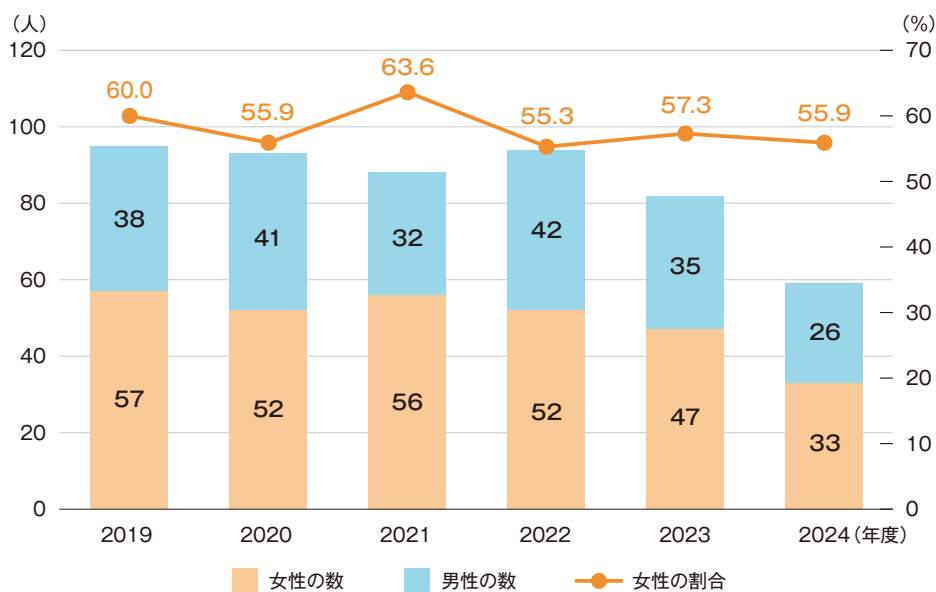


3-2 研究員制度

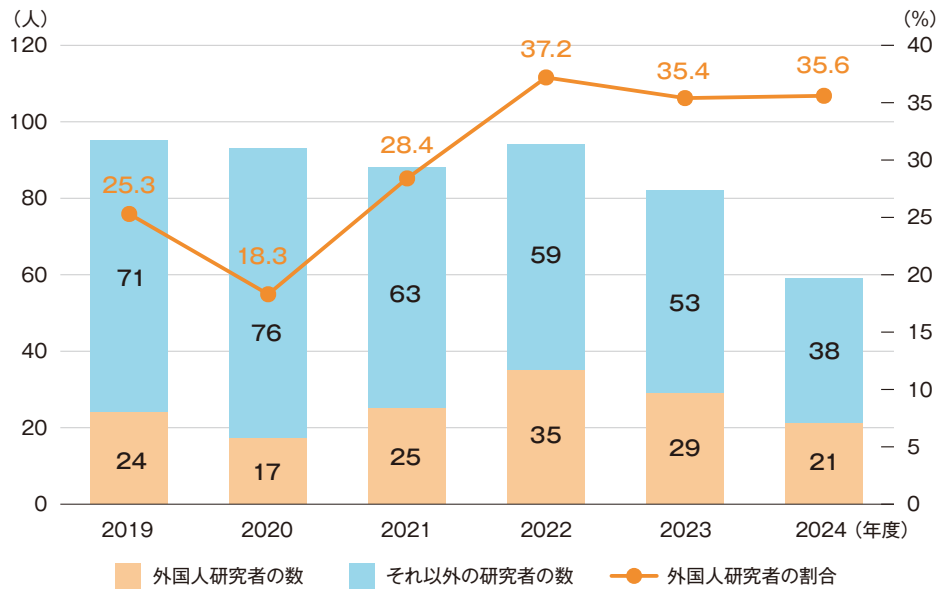
外来研究員

国内外の研究者を外来研究員として受け入れ、本館教員と共同研究をおこなっている。

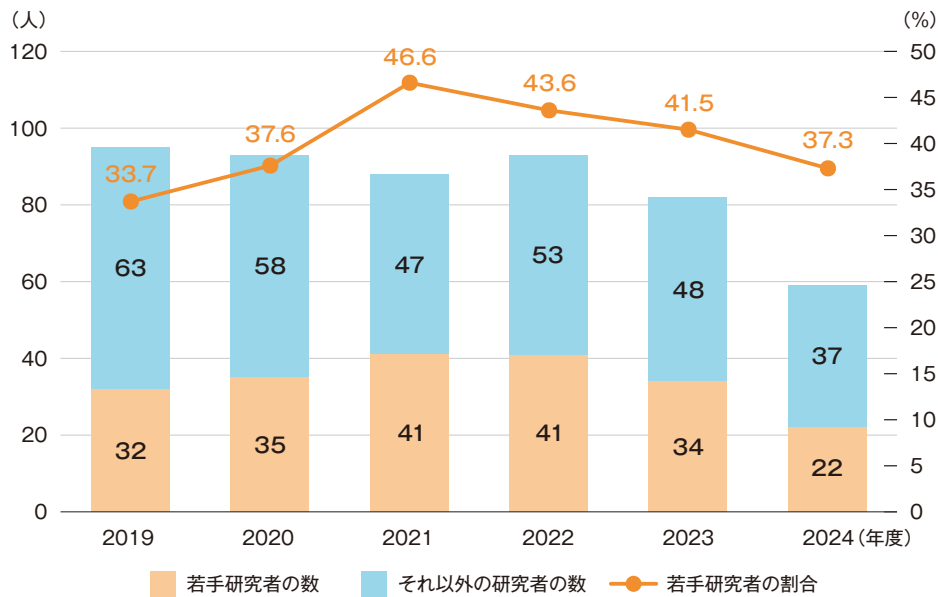
外来研究員の数（男女別）と女性の割合



● 外来研究員のうち外国人研究者の数と割合



● 外来研究員のうち若手研究者（39歳以下）の数と割合

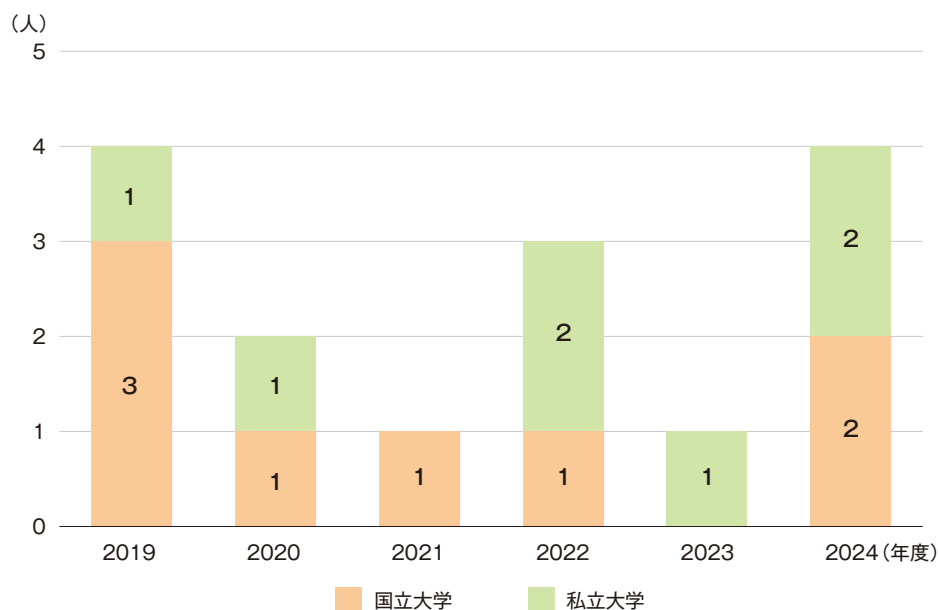


注：同じ年度内に同一人物を複数回受け入れた場合は1名としてカウント

特別共同利用研究員

全国の大学の博士後期課程に在籍する学生を、当該学生の所属する大学院研究科からの委託をうけて特別共同利用研究員として受け入れ、本館教員が研究指導をおこなっている。

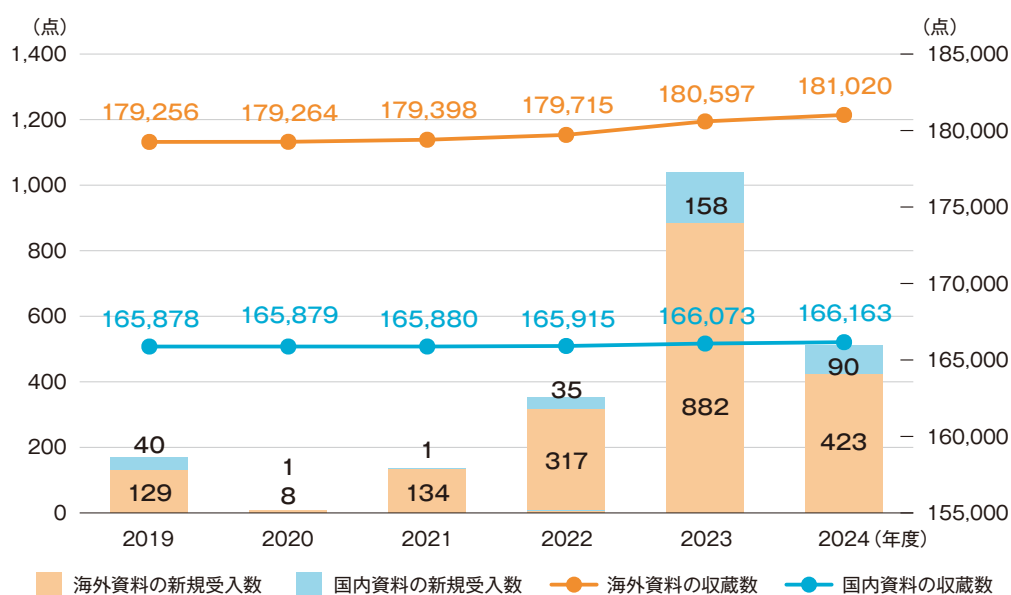
● 特別共同利用研究員の数



3-3 資料の収集と利用

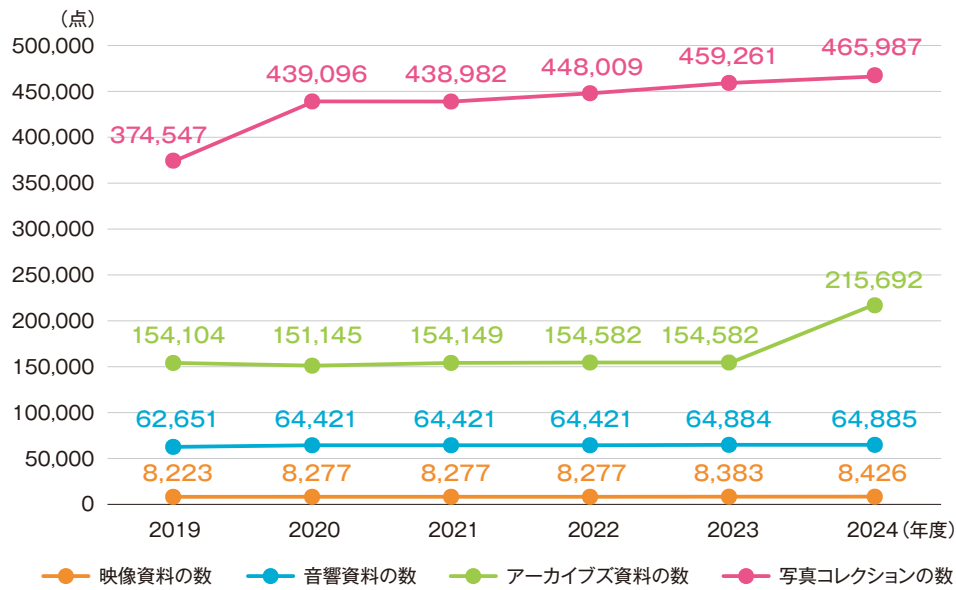
標本資料および映像・音響資料

● 標本資料の新規受入数と収蔵数の推移

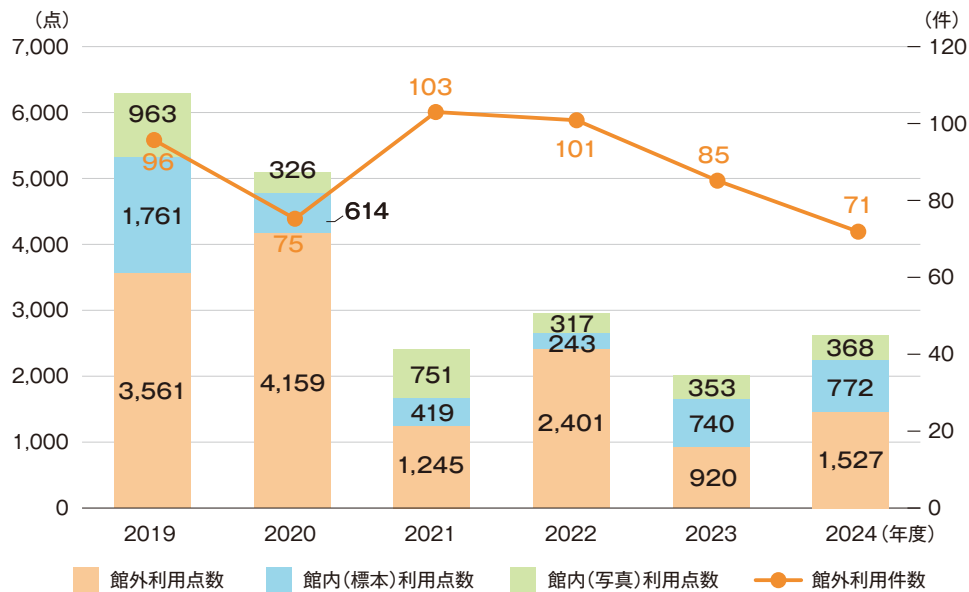


注：標本資料の数には未登録資料の数を含む

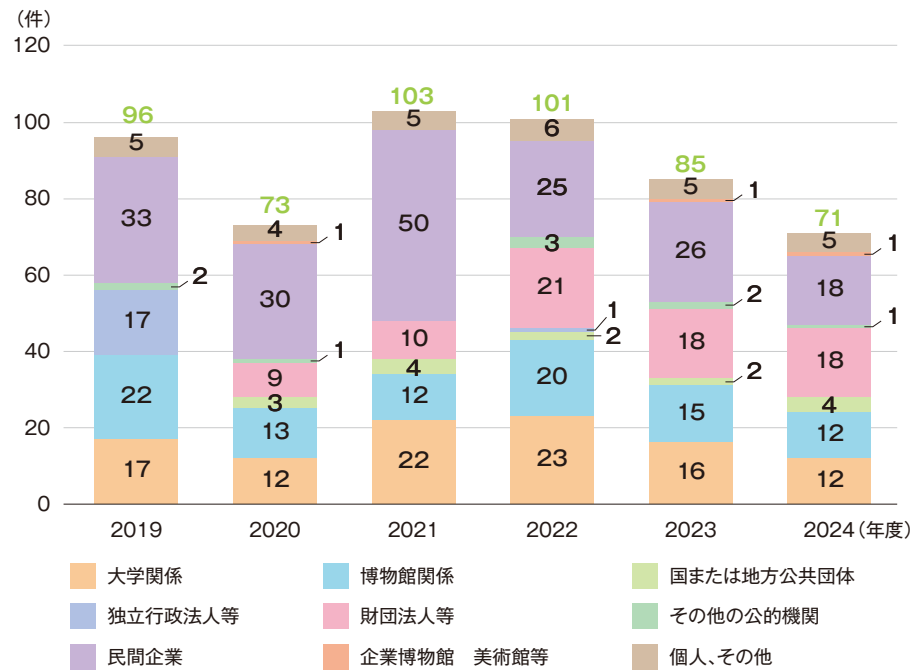
● 映像音響関連資料の数の推移



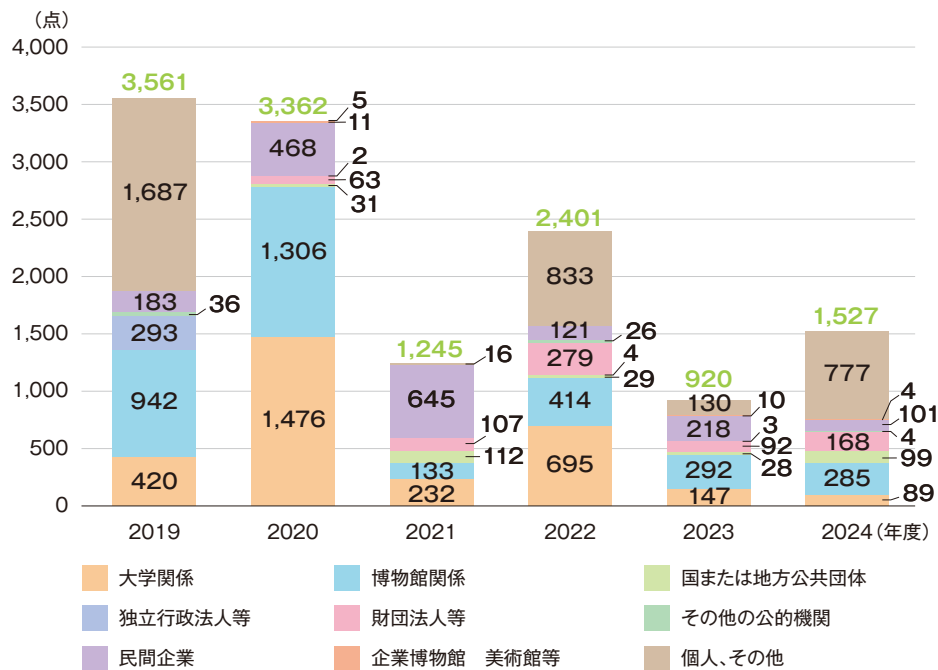
● 標本資料の利用点数と館外利用された件数



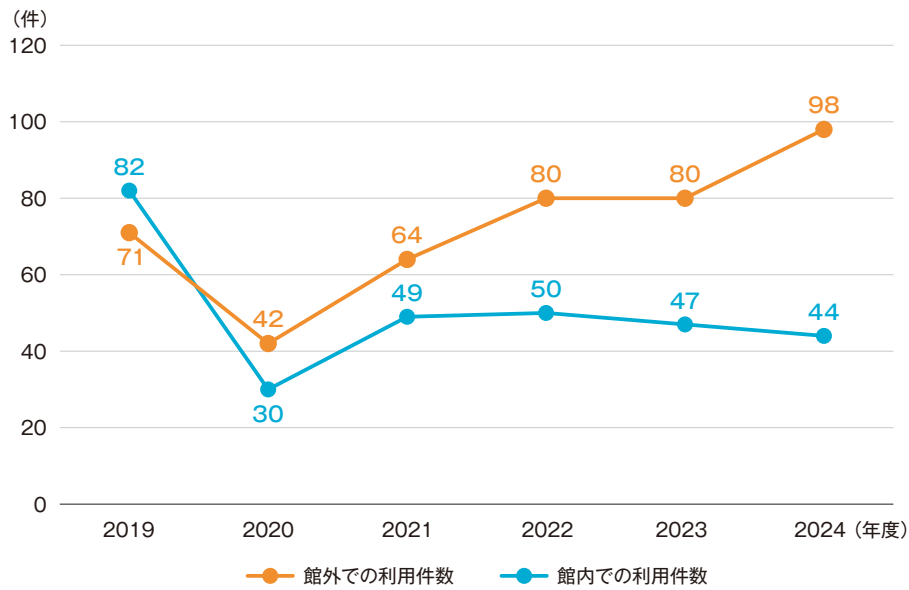
● 標本資料の館外利用者区分別利用件数の推移



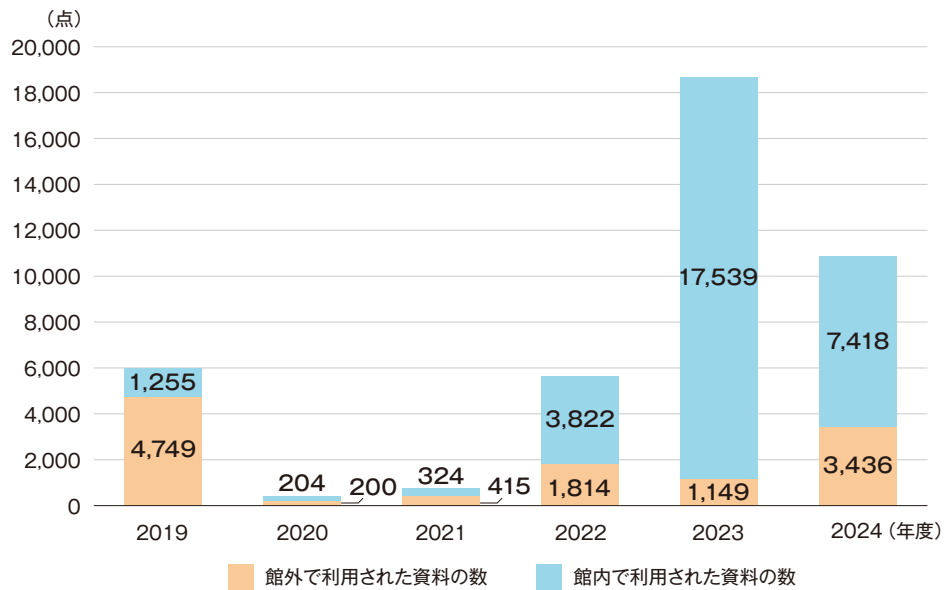
● 標本資料の館外利用者区分別利用点数の推移



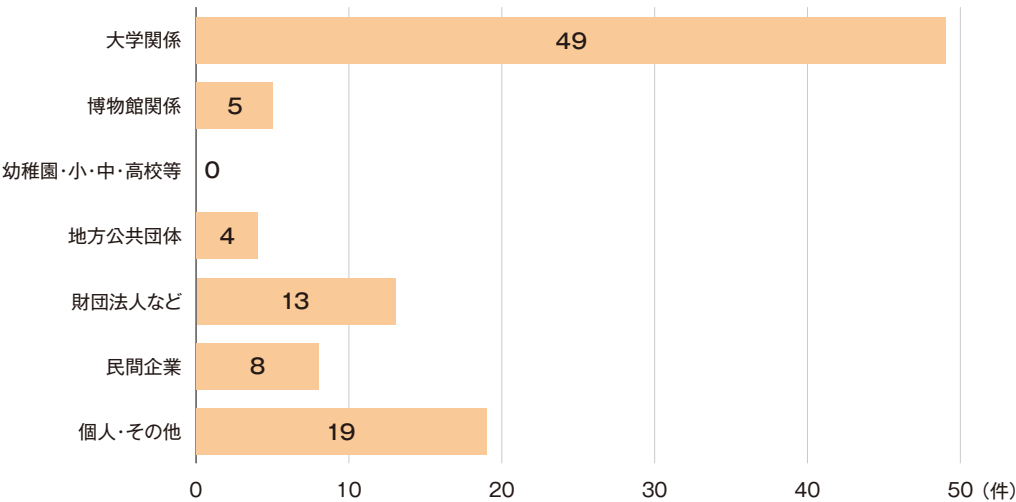
● 映像音響関連資料の利用件数の推移



● 映像音響関連資料の利用資料数

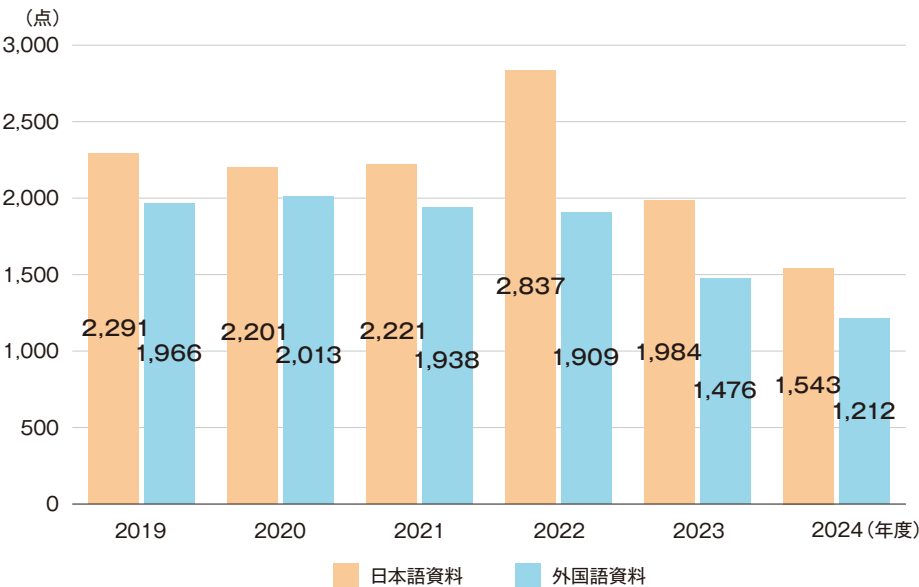


● 令和6年度 映像音響関連資料の館外利用者区分別の利用件数



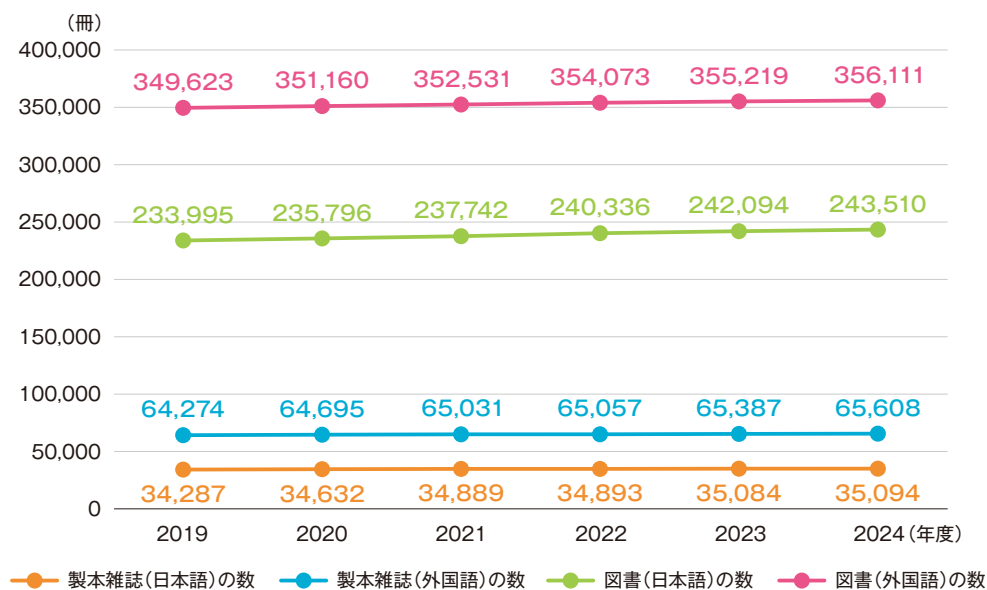
文献図書資料

● 文献図書資料の受入数

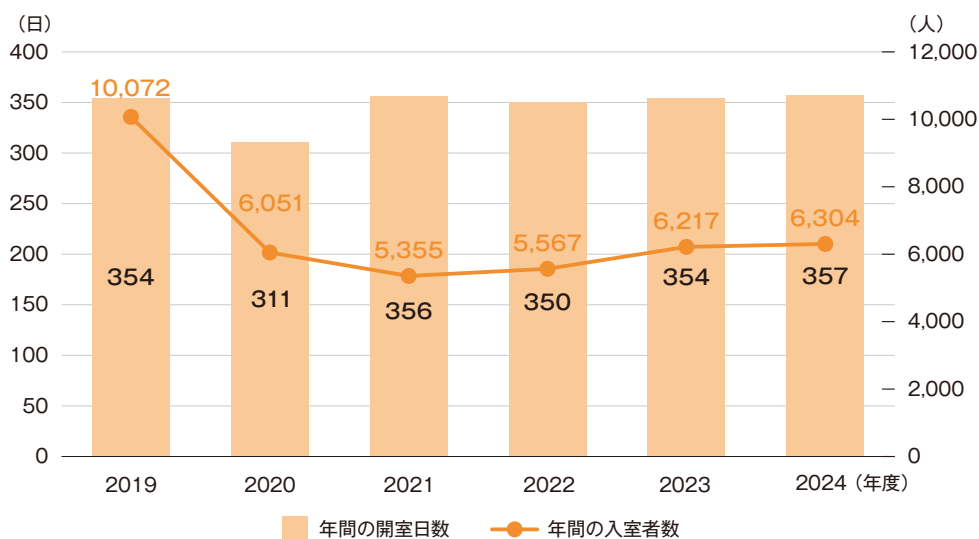


注：文献図書資料には図書、マイクロ資料、AV 資料、製本雑誌を含む

● 図書室の蔵書数の推移



● 図書室の開室日数と入室者数の推移

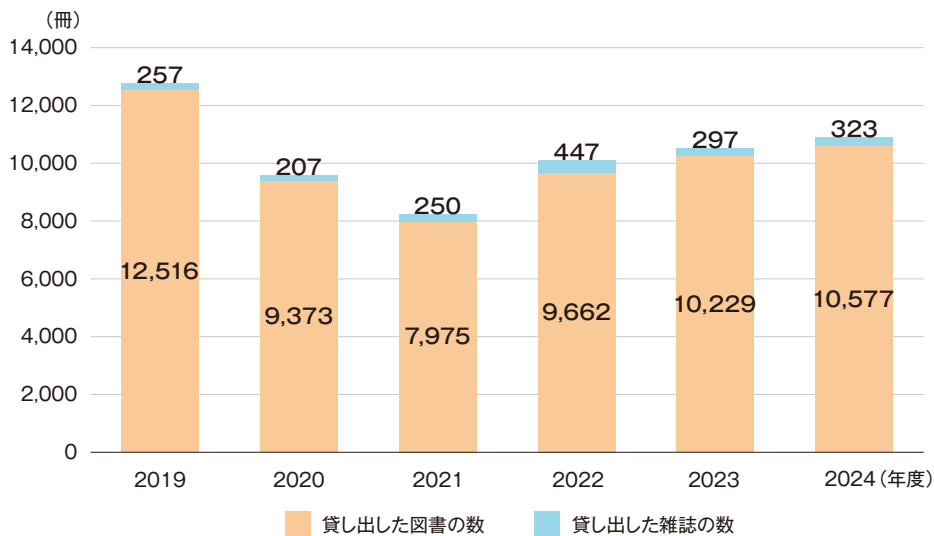


注1：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時閉室

2020年2月28日～6月17日、2021年4月25日～6月23日

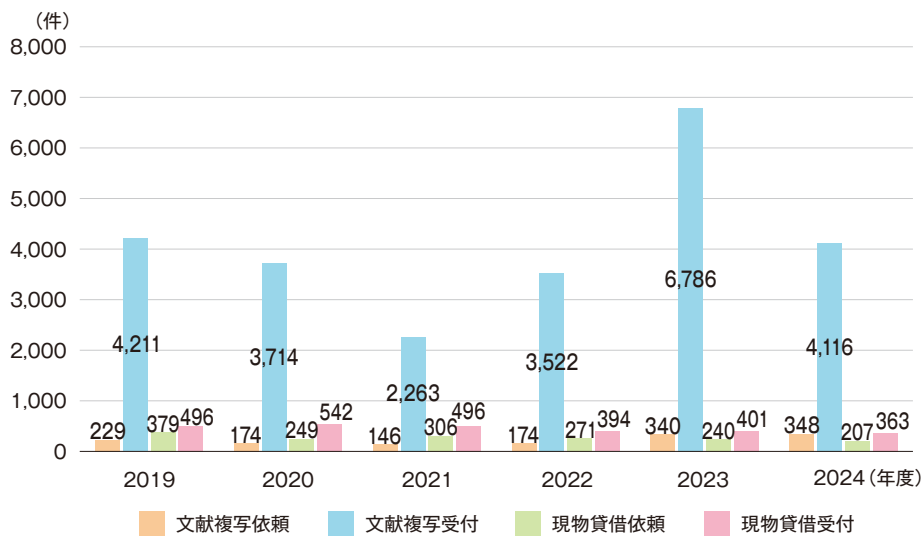
注2：開室日数には臨時閉室中、館内利用者のみ開室していた期間を含む

● 図書室の年間貸出数



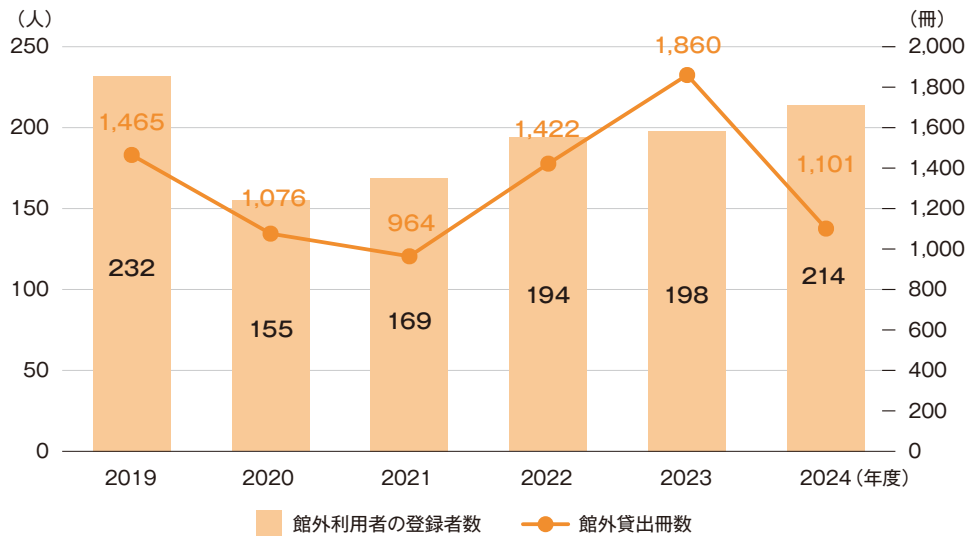
注：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時閉室
2020年2月28日～6月17日、2021年4月25日～6月23日

● 図書室での相互利用（ILL）サービスの利用件数



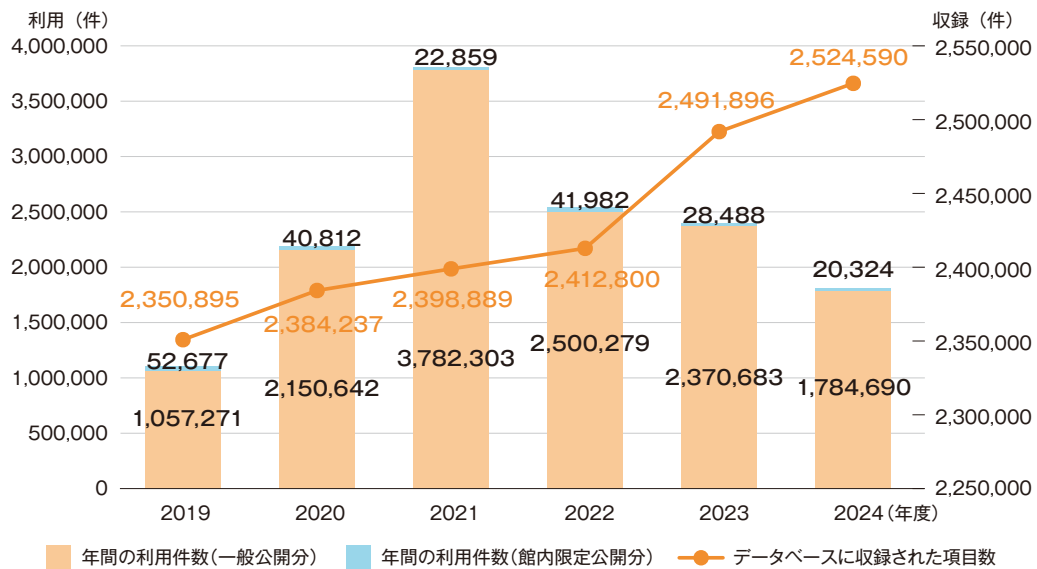
注：相互利用（ILL）サービスは、国内外の図書館間で所蔵していない資料の文献複写や現物を取り寄せることができるサービス

● 図書室の館外利用者の登録者数と館外貸出冊数



データベース

● データベースに収録された件数と年間に利用された件数の推移

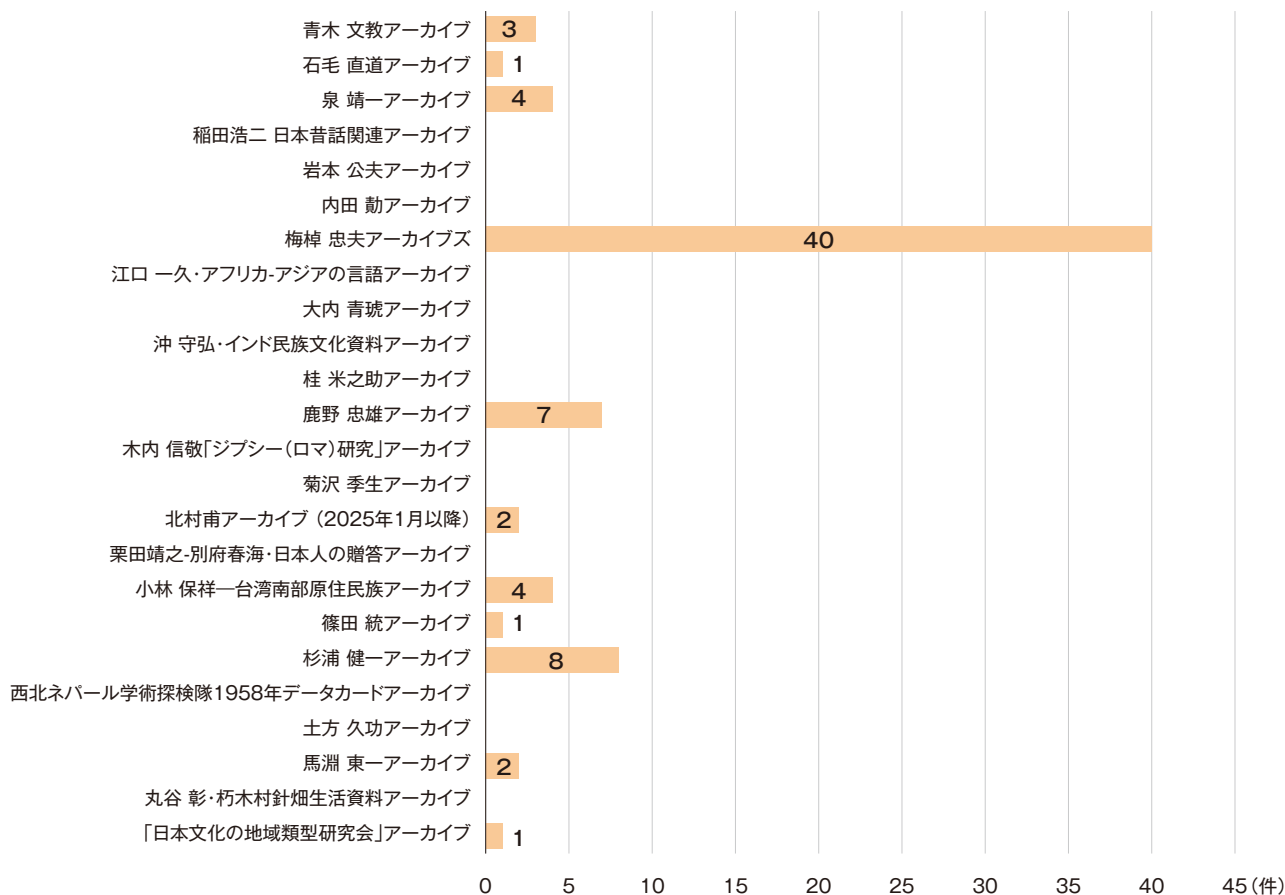


注：利用件数は画面表示された件数

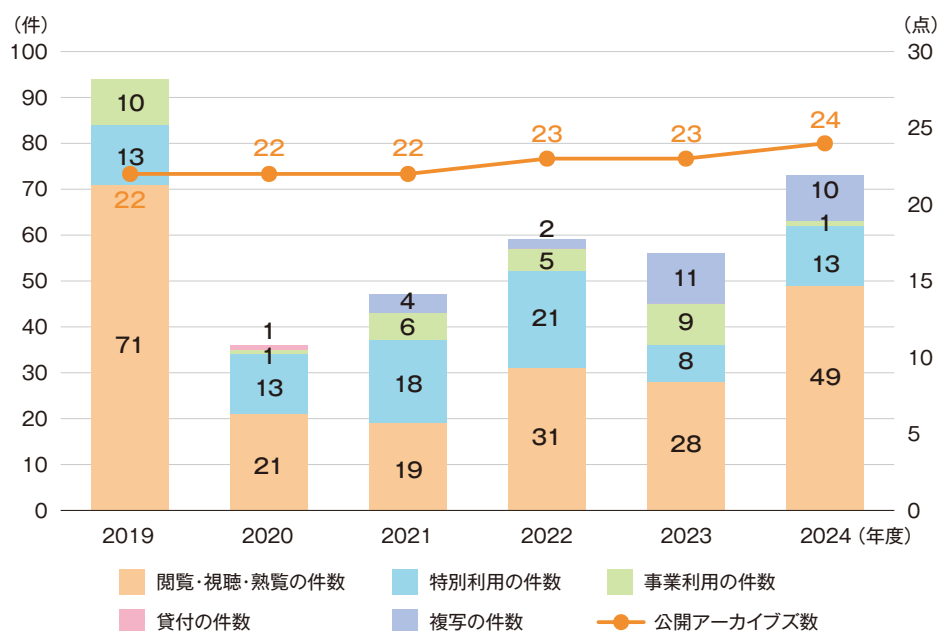
民族学研究アーカイブズ

創設以来、本館が集積してきた資料や情報（民族学者の研究ノートや原稿、フィールドワークで生成、収集された映像・録音記録など）を公開している。

令和6年度 民族学研究アーカイブズのアーカイブ別の利用件数



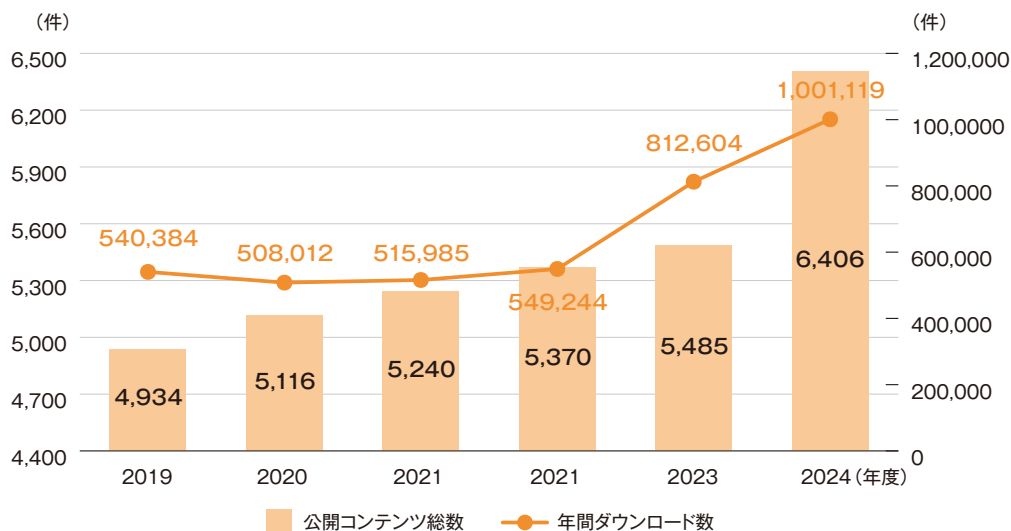
民族学研究アーカイブズの利用区分別の利用件数と公開アーカイブズ数



学術情報リポジトリ

国立情報学研究所のJAIRO Cloud（共用リポジトリサービス）を利用して、館内出版物および、外部で出版されたもののうち利用許諾が得られた論文等を公開している。

● みんなく学術情報リポジトリの公開コンテンツ数と年間ダウンロード数



3-4 公募型共創メディア展示

国内の大学等が主催する展示にみんなくが開発した情報メディアやシステムを提供する。

● 令和6年度 公募型共創メディア展示

継続2件

採択機関	採択事業	対象展示	新規 / 継続
琉球大学博物館（風樹館）	沖縄の結縄（藁算）標本のマルチメディア展示アーカイブズの構築と大学博物館での研究教育活用	沖縄の結縄（藁算）	継続
天城町教育委員会	映像展示「島の芸能と祭り—徳之島・奄美大島・奄美の島々」（仮称）の制作	徳之島の歴史と民俗	継続

TOPIC

国立民族学博物館創設50周年

国立民族学博物館（みんぱく）は国立学校設置法の一部を改正する法律（昭和49年法律第81号）の施行により1974（昭和49）年6月に創設され、2024（令和6）年に創設50周年を迎えた。これを記念して、国際シンポジウムや特別展・企画展をはじめとする一連の事業を開催した。ここではその事業の一部を紹介する。

国立民族学博物館創設50周年記念史

『語りあい ひらける世界—みんぱく五十年の歩み』

みんぱくの創設50周年を記念して、現代世界との関わり、研究博物館としての役割、国内外の研究者との交流、現研究部スタッフの研究テーマなどをわかりやすく描き出し、研究者コミュニティおよび社会一般に広く発信した。

発行日：2024（令和6）年12月25日

ISBN：978-4910055145

編集・発行：国立民族学博物館



国立民族学博物館50年史アーカイブズ

みんぱくの創設から50年間の諸活動の記録を、管理運営、研究、社会連携、展示関係、大学院教育、出版、記念写真展のカテゴリーにわけてデータベース化し（収録項目数100件）、アーカイブズとして公開した。

<https://www.r.minpaku.ac.jp/anniversary/50data/index.html>

公開日：2024（令和6）年10月1日

掲載情報：2024（令和6）年6月1日時点



国立民族学博物館創設50周年記念「時代の証言」



みんなくが創設される前夜から現在にかけての証言を総勢12名の本館名誉教授にインタビューしてビデオ記録にまとめた。

<https://www.r.minpaku.ac.jp/anniversary/syogen.html>



第1回 松原正毅 名誉教授	第2回 石毛直道 名誉教授	第3回 端信行 名誉教授
第4回 藤井龍彦 名誉教授	第5回 和田正平 名誉教授	第6回 松澤員子 名誉教授
第7回 大森康宏 名誉教授	第8回 田辺繁治 名誉教授	第9回 森田恒之 名誉教授
第10回 大塚和義 名誉教授	第11回 杉田繁治 名誉教授	第12回 中牧弘允 名誉教授

公開日：第1回2023（令和5）年12月18日から第12回2024（令和6）年11月15日にかけて順次公開

国立民族学博物館創設50周年記念募金

創設から50年という節目の機にあたって、創設50周年記念事業をはじめとする研究活動のこれまで以上の拡大と、博物館施設の着実な更新を進めるため、個人・法人から寄附を募った。

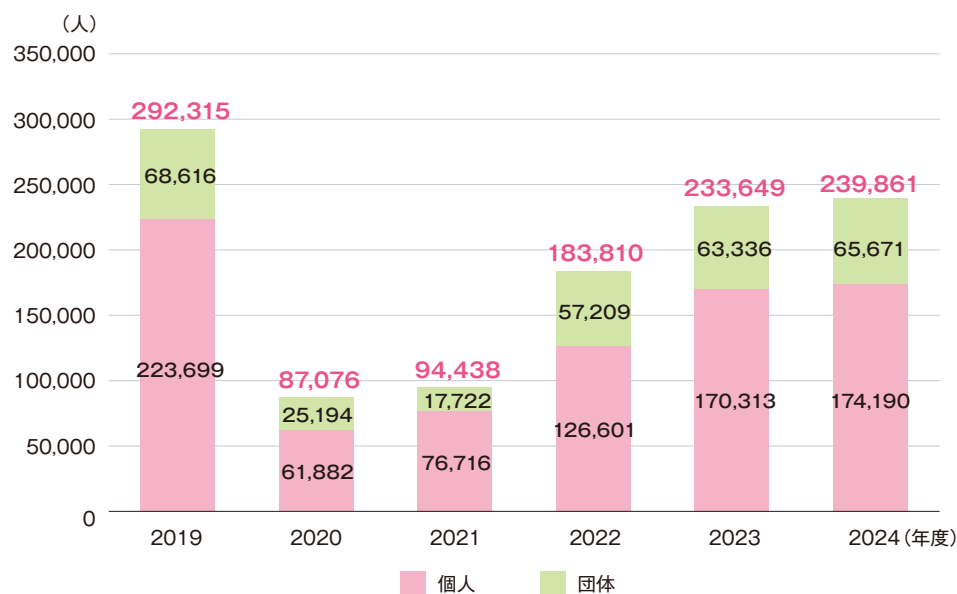
募集期間：2023（令和5）年12月18日～2024（令和6）年12月27日
寄附総額：24,956,711円



4 展示

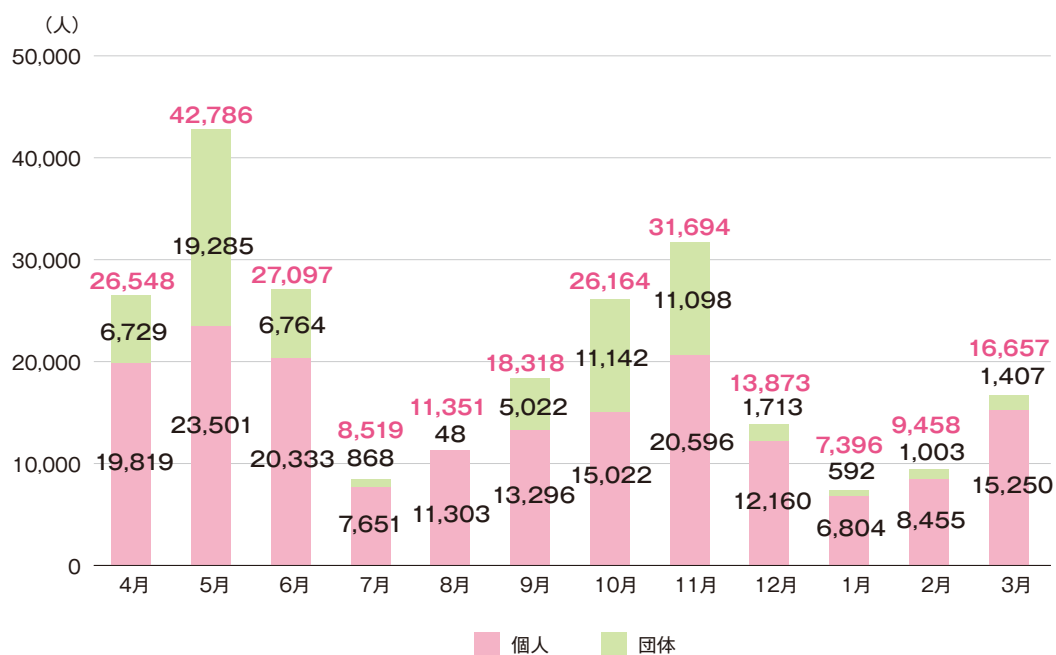
4-1 本館展示

● 入館者数の推移

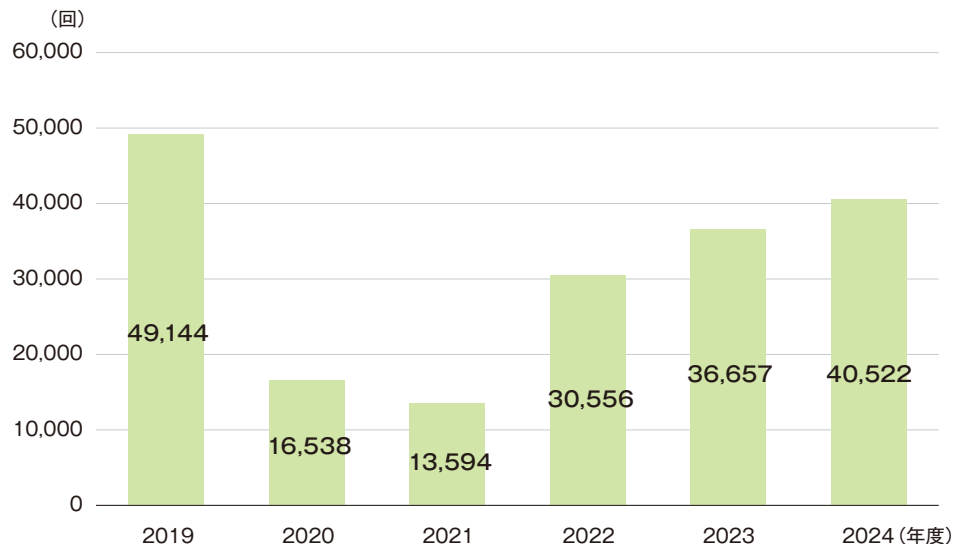


注：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため臨時休館
2020年2月28日～6月17日、2021年4月25日～6月23日

● 令和6年度の月別入館者数



● ビデオテークの視聴回数



注：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館
2020年2月28日～6月17日、2021年4月25日～6月23日
ビデオテークブースの一部工事のための運用停止
2021年12月8日～2022年3月30日

4-2 特別展示・企画展示等

特別展示：特定のテーマや内容で研究の成果を総合的および体系的に紹介するストーリー性をもった展示で、特別展示館で開催

企画展示：研究や収集活動の成果を特定のテーマで紹介し、本館企画展示場で開催する展示

コレクション展示：本館所蔵資料を中心に構成され、その学術的価値を高め、共同利用性を向上させる目的でおこなう展示

巡回展示：本館で開催した特別展示、企画展示等を国内外の博物館、美術館等に巡回して開催する展示

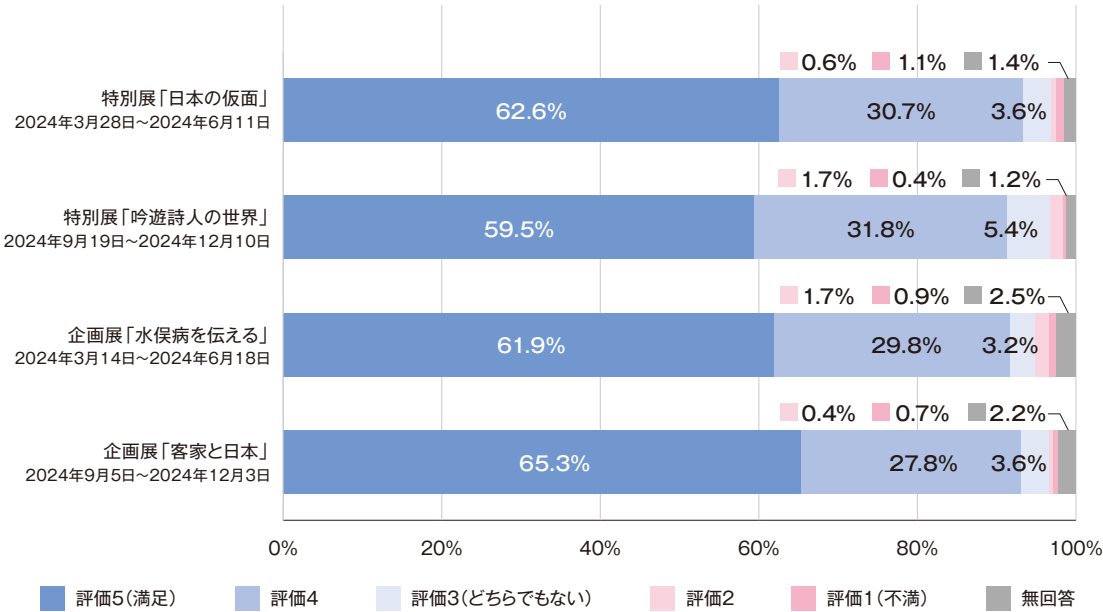
● 令和6年度 特別展・企画展等一覧

種別	タイトル	会期	入館者数(人)
特別展 ^{注1}	日本の仮面—芸能と祭りの世界	2024年3月28日～6月11日	44,159
特別展 ^{注1}	吟遊詩人の世界	2024年9月19日～12月10日	29,873
特別展 ^{注1}	民具のミカタ博覧会—見つけて、みつめて、知恵の素	2025年3月20日～6月3日	26,874
企画展 ^{注1、2}	水俣病を伝える	2024年3月14日～6月18日	53,406
企画展 ^{注1、2}	客家と日本—華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史	2024年9月5日～12月3日	46,480
企画展 ^{注1、2}	点と線の美学—アラビア書道の軌跡	2025年3月13日～6月17日	49,908
巡回展	ユニバーサル・ミュージアム—さわる！“触”の大博覧会（直方谷尾美術館）	2024年7月6日～9月16日	2,097
巡回展	国立アイヌ民族博物館第9回特別展示「驚異と怪異—想像界の生きものたち」（国立アイヌ民族博物館）	2024年9月14日～11月17日	18,192

注1：みんなく創設50周年記念

注2：企画展の入館者数は本館入館者数を基に集計

● 令和6年度 特別展・企画展来館者の満足度の割合



注：「吟遊詩人の世界」では、アンケート用紙に加えて、スマートフォン等によるウェブでの回答を含む

5 国際連携

5-1 海外研究機関との学術交流協定

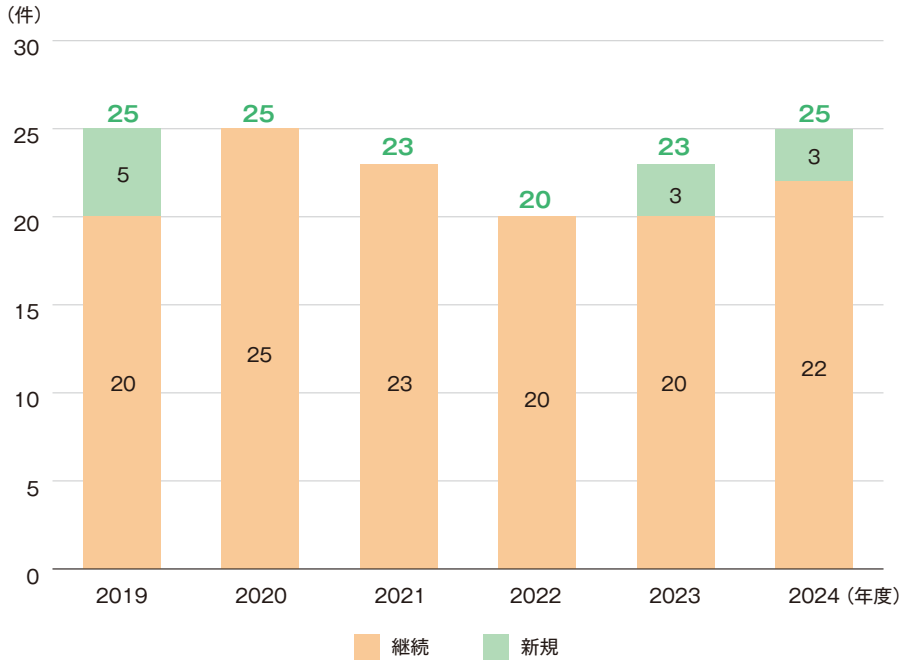
● 海外研究機関等との協定一覧（令和6年度）

◇令和6年度締結

No.	締結日	相手機関名	国（地域）名	概要
1	H17.6.14	国立サン・マルコス大学	ペルー	考古学分野における共同研究員調査の遂行、ならびにそれに基づく学術交流の促進
2	H18.7.1	順益台湾原住民博物館	台湾	共同研究、博物館展示協力など
3	H19.7.11	韓国国立民俗博物館	韓国	研究者交流、共同研究の実施、博物館展示・教育活動に関する協力、学術情報・出版物の交換など
4	H21.5.15	国立台北芸術大学	台湾	相互の学術交流、研究プロジェクトの展開、博物館展示・教育活動に関する協力、学術情報・出版物の交換など
5	H24.6.3	アシウィ・アワン博物館・遺産センター	米国	学術協力、共同研究のプロジェクトの展開、博物館資料の展覧および教育分野における協力活動など
6	H24.7.18	フィリピン国立博物館	フィリピン	共同研究、研修、出版、展示等のプロジェクトにおける学術的な研究および交流の促進など
7	H24.8.28	中国社会科学院民族学・人類学研究所	中国	学術交流ならびに研究プロジェクトや研究資料、学術情報及び公開出版物の交換と相互利用の展開など
8	H26.7.4	北アリゾナ博物館	米国	学術交流・研究の強化・発展
9	H27.10.16	国立台湾歴史博物館	台湾	共同研究、博物館展示協力など
10	H28.1.15	ヴァンダービルト大学	米国	国際共同研究、国際シンポジウムの開催など
11	H28.4.19	浙江大学人類学研究所・図書館	中国	資料の寄贈、人材交流、共同研究など
12	H29.3.9	ブリティッシュコロンビア大学人類学博物館	カナダ	研究交流、人材交流、データベース構築の協力など
13	H29.11.8	イラン国立博物館	イラン	国際共同研究、研究者の交流、博物館に関する資料や情報交換など
14	H30.8.12	国立博物館機構	ザンビア	国際共同研究、研究者の交流、博物館に関する資料や情報交換など
15	R1.6.10	国立研究革新庁・考古・言語・文学研究機構・環境考古・海事考古・持続的文化研究所	インドネシア	インドネシア国内での国際共同調査の実施、および研究成果の共有
16	R1.9.19	サマルカンド考古学研究所	ウズベキスタン	国際共同発掘調査・研究、研究者交流、考古学に関する資料や情報の交換等・研究者・学芸員などの人材交流
17	R1.11.3	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	相互理解、相互利益及び協力関係の原則に基づいた学術研究及び学術交流の強化・促進
18	R1.11.7	ケニア国立博物館群	ケニア	共同調査プロジェクトの実施、講演会、シンポジウム、共同展示の実施、調査に関わる情報と資料の交換、文化ならびに博物館学に関する交流プログラムの振興、研究スタッフの交流に関する協力
19	R1.11.22	カセサート大学林学部	タイ	相互理解、相互利益及び協力関係の原則に基づいた学術研究及び学術交流の強化・促進

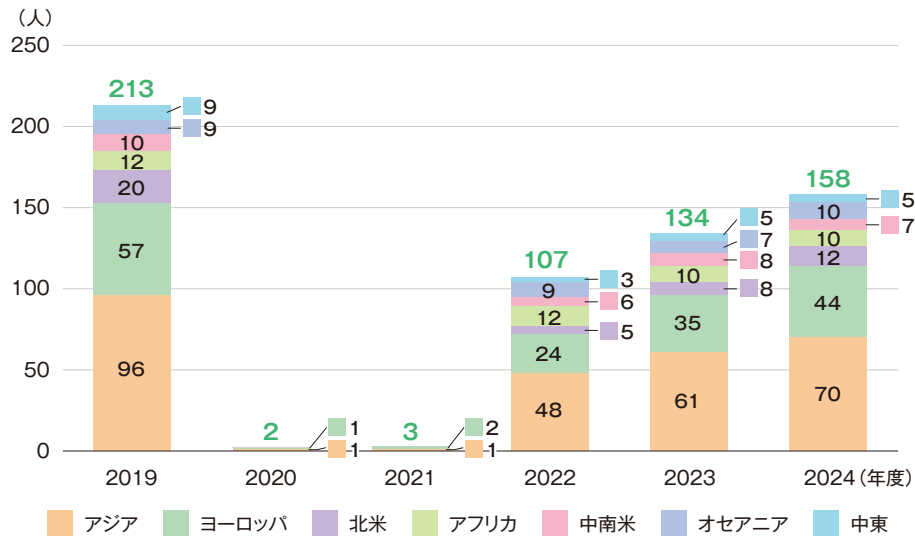
No.	締結日	相手機関名	国（地域）名	概要
20	R5.9.18	ゲント大学	ベルギー	国際共同調査・研究、研究者交流、展示資料に関する情報の交換など
21	R5.10.1	大エジプト博物館	エジプト	人材交流、博物館資料の管理・展示・分析、博物館マネージメントなどに係る情報交換、共同研究・展示企画の推進
22	R5.11.21	客家委員会客家文化発展センター	台湾	博物館展示に関する交流と協力
23	◇ R6.7.1	アディスアベバ大学	エチオピア	国際共同研究、研究・人材交流、イベント実施などの学術研究協力
24	◇ R6.7.1	フィジー文化経済社会信託機構	フィジー	学術交流、フィールドワークの推進、展示協力
25	◇ R6.9.12	南太平洋大学	フィジー	学術交流、フィールドワークの推進

● 海外学術交流協定締結数の推移



5-2 研究者の海外派遣

● 研究者の海外派遣数（渡航地域別）

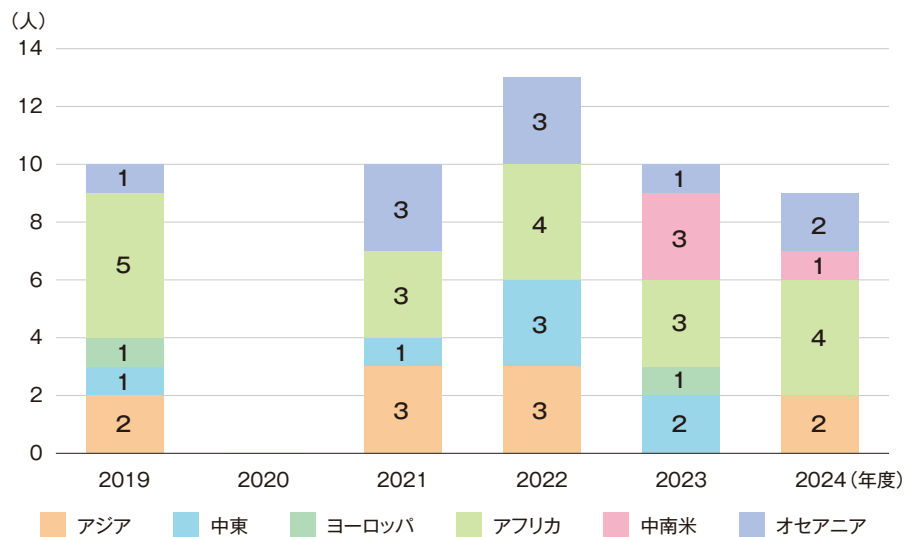


注：研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう人間文化研究機構所属の研究員を含む

5-3 「博物館とコミュニティ開発」コース

平成16年度から独立行政法人国際協力機構（JICA）からの委託を受け実施している研修で、毎年、開発途上の国や地域から約10名を受託研究員として受け入れている。

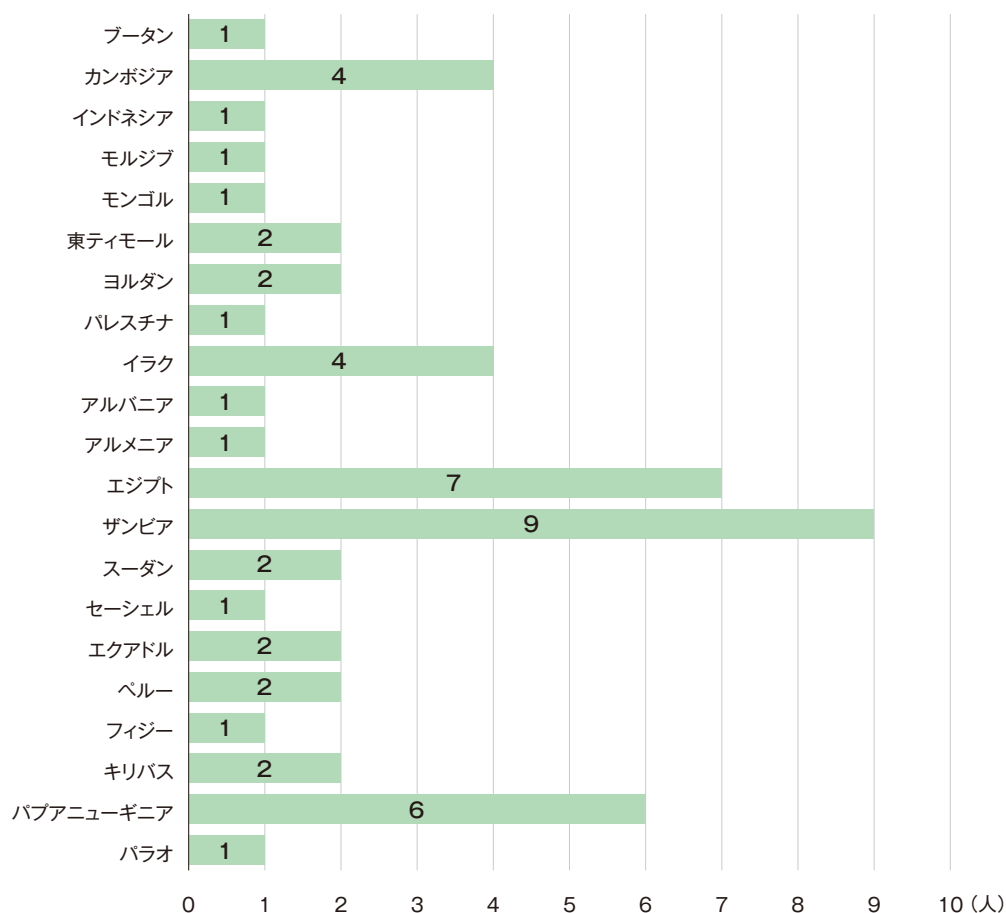
● 「博物館とコミュニティ開発」コースの地域別参加者数の推移



注1：2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により延期。2021年度はオンラインで開催

注2：2021年度カンボジアからの1名のオブザーバー参加者を含む

● 「博物館とコミュニティ開発」コースに参加した国・地域と参加者数（平成31年度～令和6年度）



注：2021年度カンボジアからの1名のオブザーバー参加者を含む

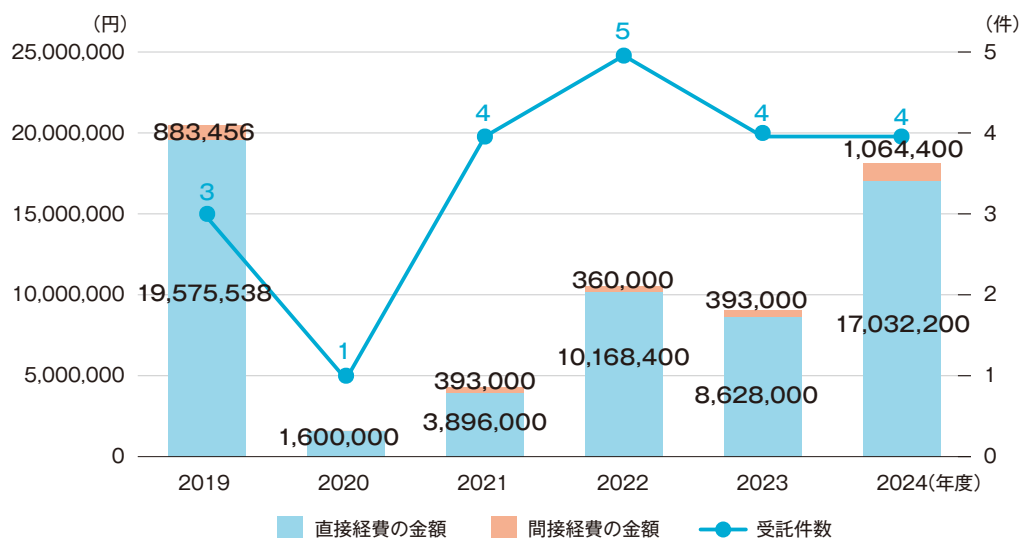
6 社会連携

6-1 受託事業等

● 令和6年度 受託事業・受託研究・共同研究の一覧

課題名	事業・研究期間	委託・研究経費の金額（円）	相手方	担当者	事業・研究の種類	備考
ユニバーサルミュージアム実現のための展示案内機器の開発	R3.4.1～ R7.3.31	0	国立大学法人 山口大学	日高真吾	共同研究	1年追加延長 (計3年延長)
研究拠点形成事業（B.アジア・アフリカ学術基盤形成型）	R6.4.1～ R7.3.31	6,732,000	独立行政法人 日本学術振興会	菊澤律子	受託事業	
博物館とコミュニティ開発	R6.7.22～ R7.3.14	6,388,200	独立行政法人 国際協力機構	研究協力課	受託事業	
川崎市市民ミュージアム被災民俗資料の保存・管理に関する研究	R6.9.11～ R7.3.15	4,976,400	川崎市市民 ミュージアム	日高真吾	共同研究	

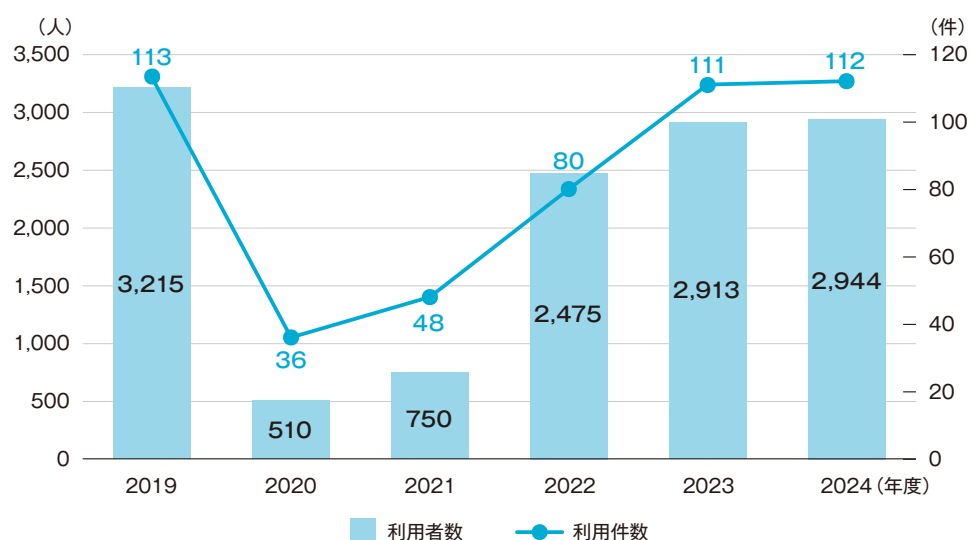
● みんなの受託事業・受託研究・共同研究の受入金額と件数



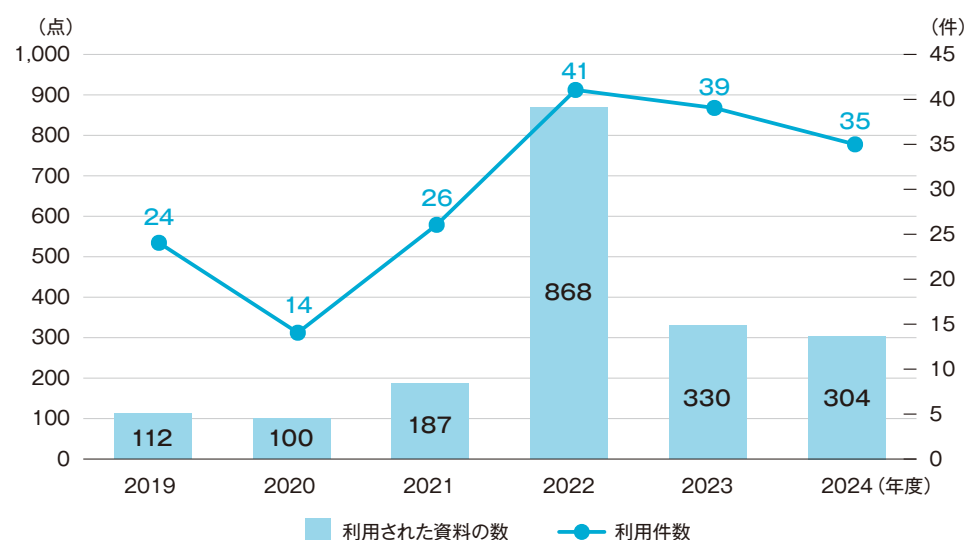
6-2 学校教育・社会教育活動

大学等授業利用

● 展示場の大学授業利用申請による利用者数と利用件数の推移



● 大学等授業利用申請によって利用された映像・音響資料の数と利用件数の推移



注：2021年度からストリーミング配信による映像提供を開始した

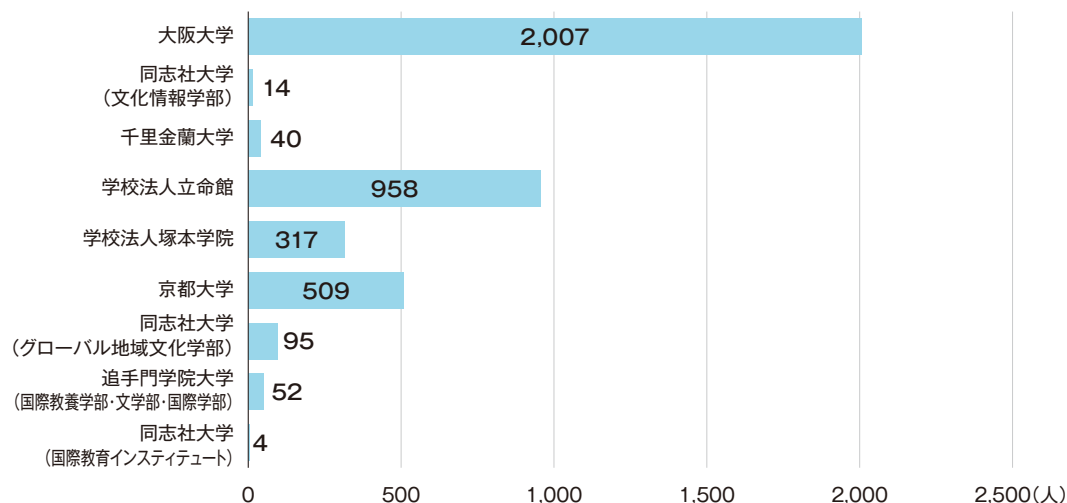
キャンパスメンバーズ

国立民族学博物館と大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度。

令和6年度 キャンパスメンバーズ会員大学一覧

No.	入会年月	大学名	利用対象者数(人)
1	H22.10	大阪大学	24,310
2	H24.7	同志社大学 文化情報学部・文化情報学研究科	1,300
3	H25.1	千里金蘭大学	809
4	H26.4	学校法人立命館 立命館大学・大学院・附属校	42,967
5	H28.4	学校法人塚本学院（大阪芸術大学、大阪芸術大学短期大学部、大阪芸術大学附属大阪美術専門学校、*通信課程含む）	9,316
6	H29.4	京都大学	23,219
7	R1.10	同志社大学 グローバル地域文化学部	837
8	R4.5	追手門学院大学（国際教養学部・文学部・国際学部）	1,407
9	R6.6	同志社大学（国際教育インスティテュート）	184
合計			104,349

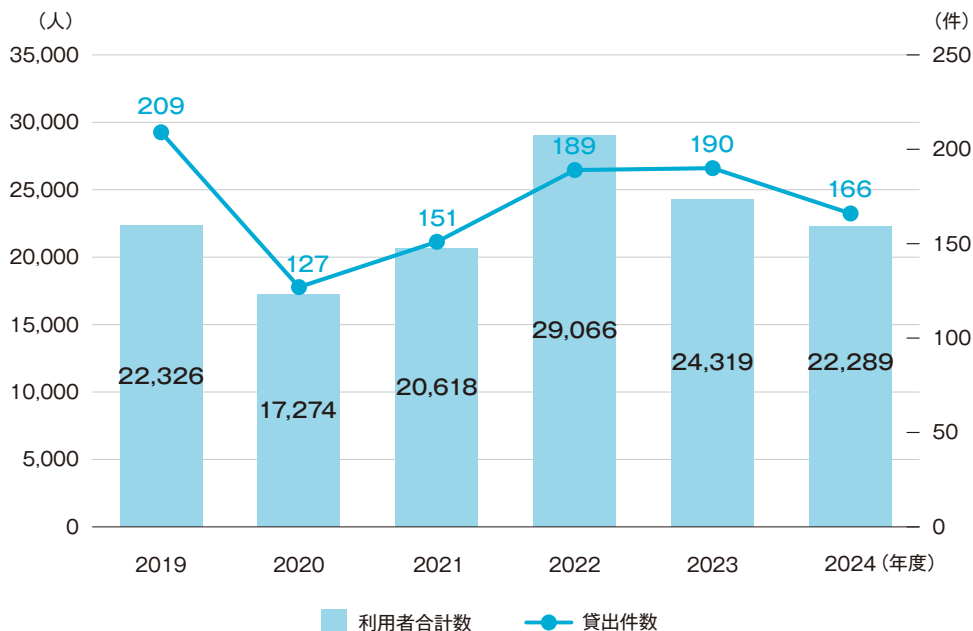
令和6年度 キャンパスメンバーズ制度による来館者数



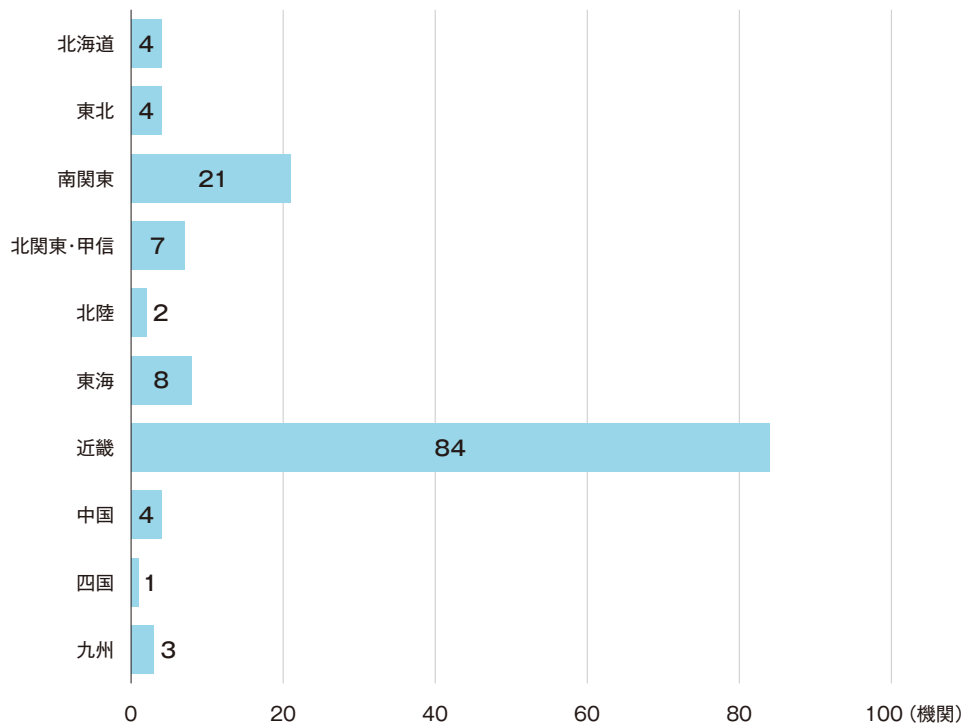
貸出用学習キット「みんなぱっく」

学校や社会教育施設等を対象に、学習キット「みんなぱっく」を貸出している。「みんなぱっく」は世界の国や地域の衣装や楽器、日常生活で使う道具や子どもたちの学用品などをスーツケースにパックしたもの。

● みんなぱっくの貸出件数と年間利用者数

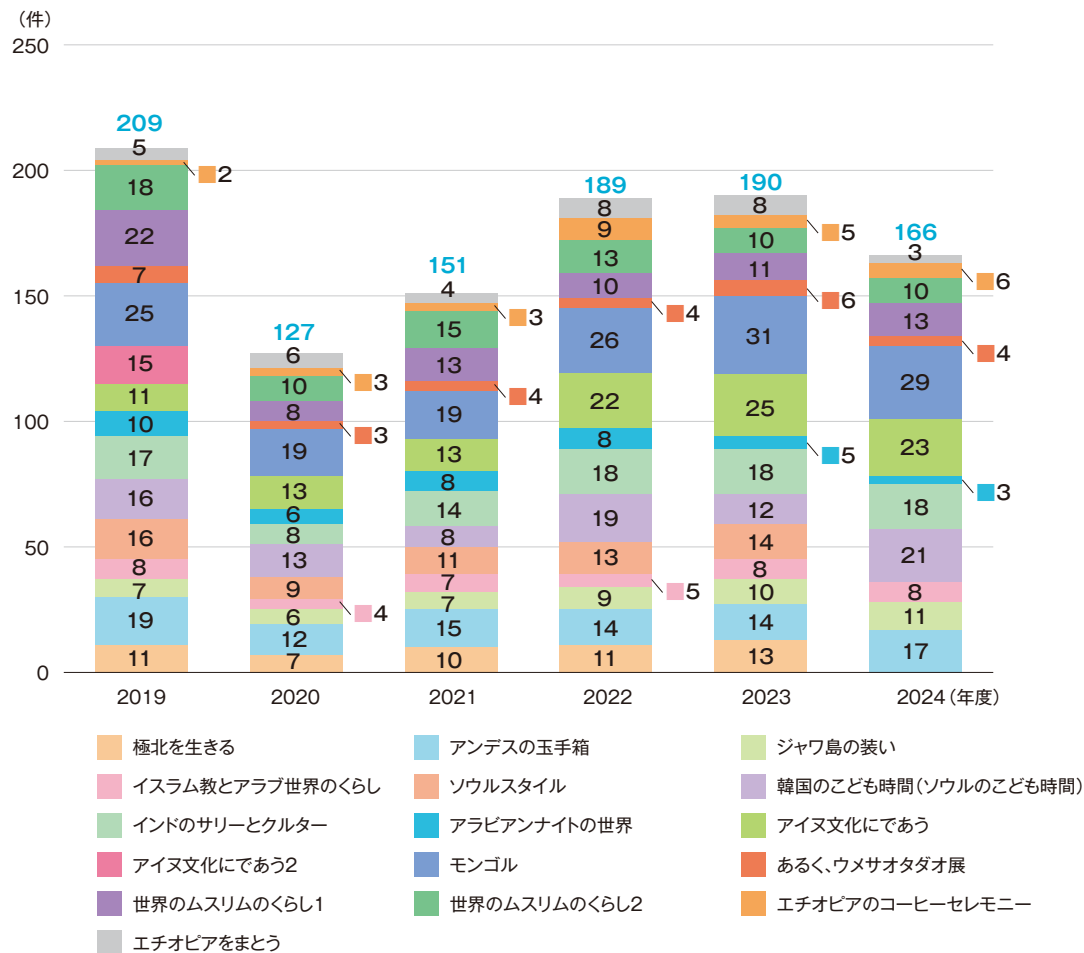


● 令和6年度 地域別のみんなぱっく利用機関数

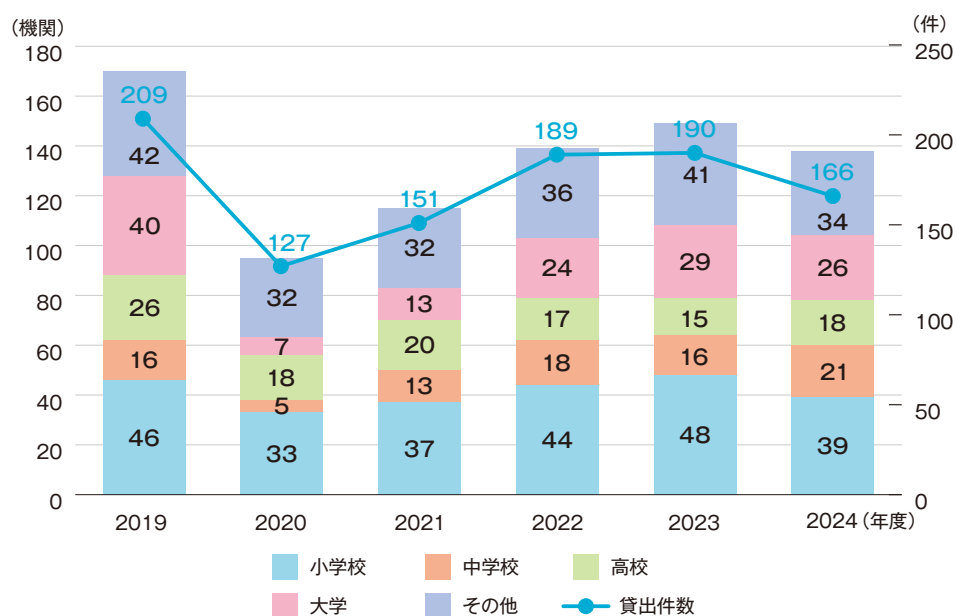


注：同一機関が1年間に複数回利用した場合、貸出期間が異なる場合は別に計上した

● みんなの貸出しパック数の推移

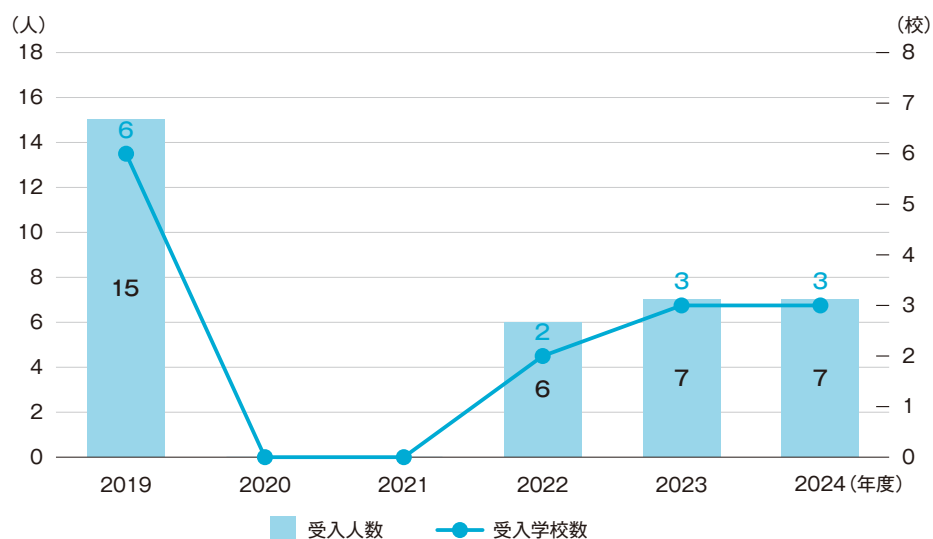


● 利用者区分別のみんなの貸出し機関数と貸出件数の推移



職場体験活動

● 職場体験活動で受け入れた中学校と生徒の数

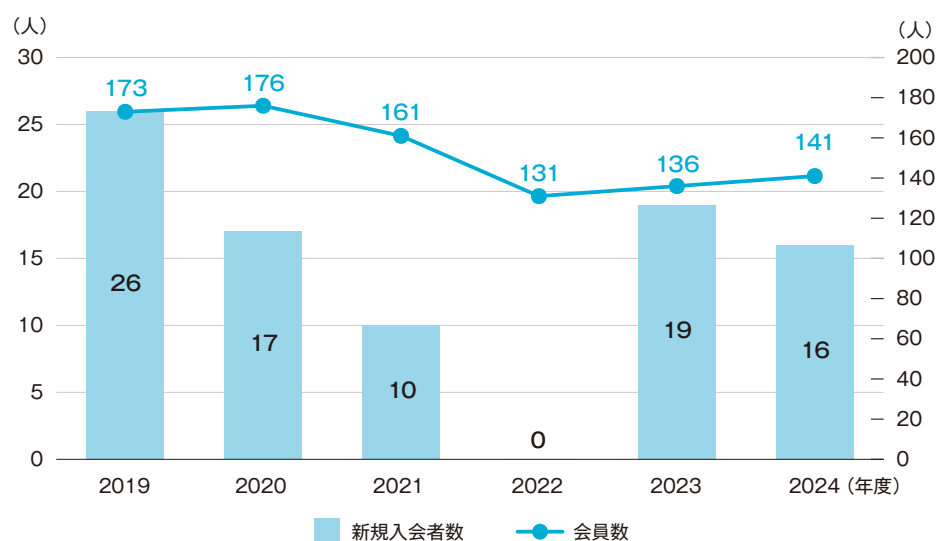


注：2020年度と2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で受入を中止した

ボランティア活動の受入

「みんなくミュージアムパートナーズ（MMP）」は、本館の博物館活動をサポートする自律的な組織として平成16年9月に発足した団体。「視覚障害者むけ本館展示場案内」や、「わくわく体験 in みんなく」、一般来館者向けのものづくりワークショップなど、多岐に広がる活動を本館との協働で進めている。

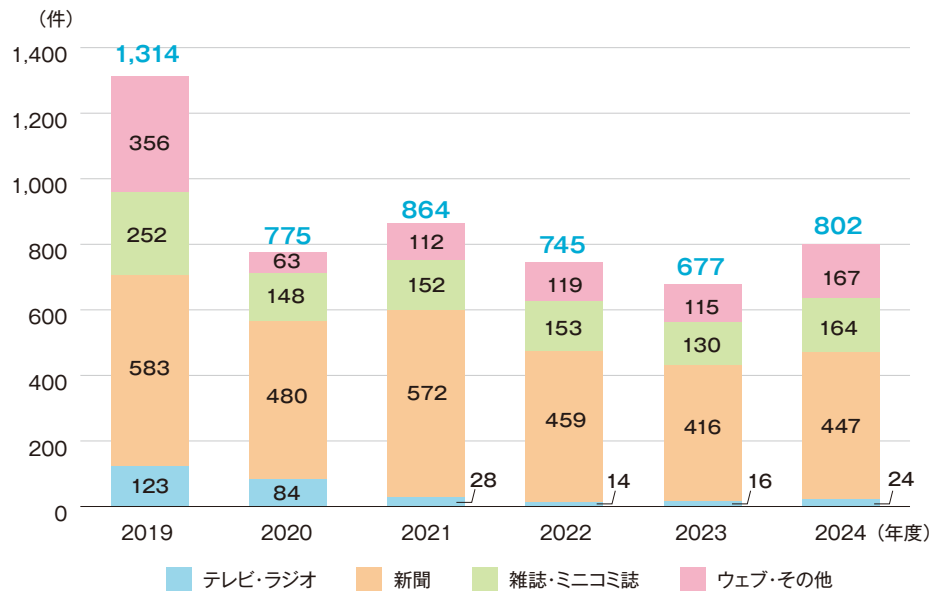
● みんなくミュージアムパートナーズ（MMP）の新規入会者数と会員数の推移



注：2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響で新規募集を停止した

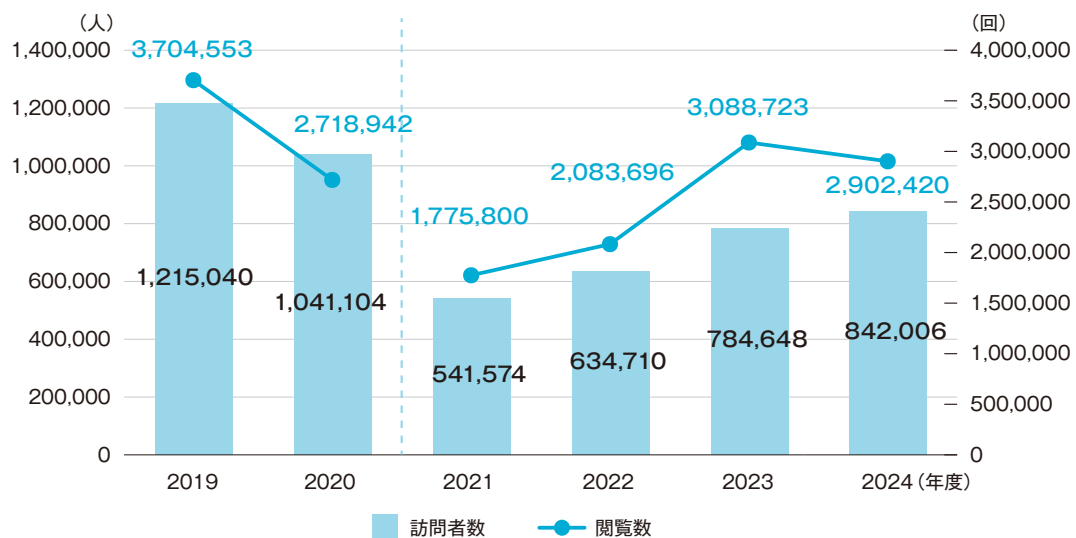
各種メディア

● 研究・博物館活動等がメディアに取り上げられた件数の推移



ウェブサイト

● みんなくウェブサイト利用者数の推移

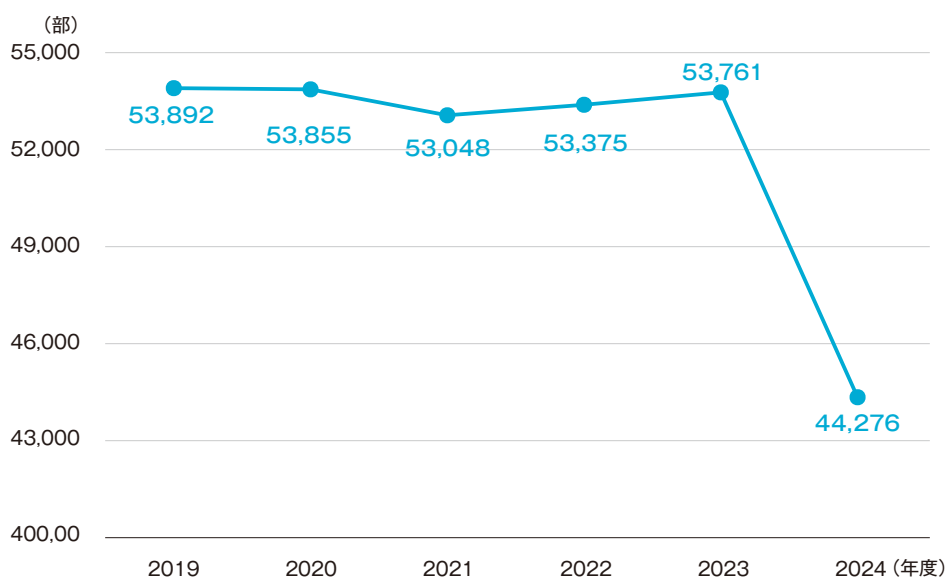


注1：2021年度より、ウェブサイトリニューアルに伴い、算出方法を変更した

注2：2023年7月より、計測ツールを Google アナリティクス最新版 (GA4) に移行

メールマガジン

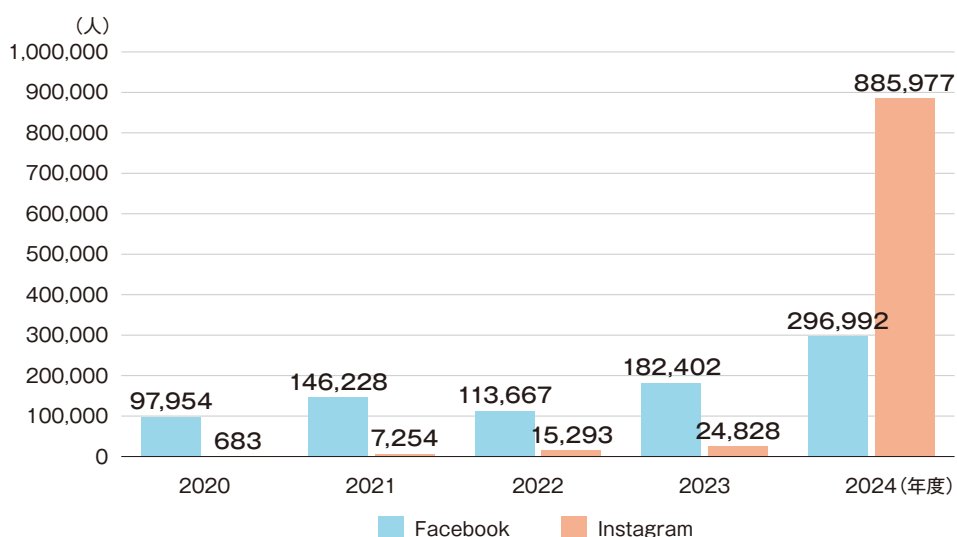
● メールマガジン（みんぱく e-news）発行部数の推移



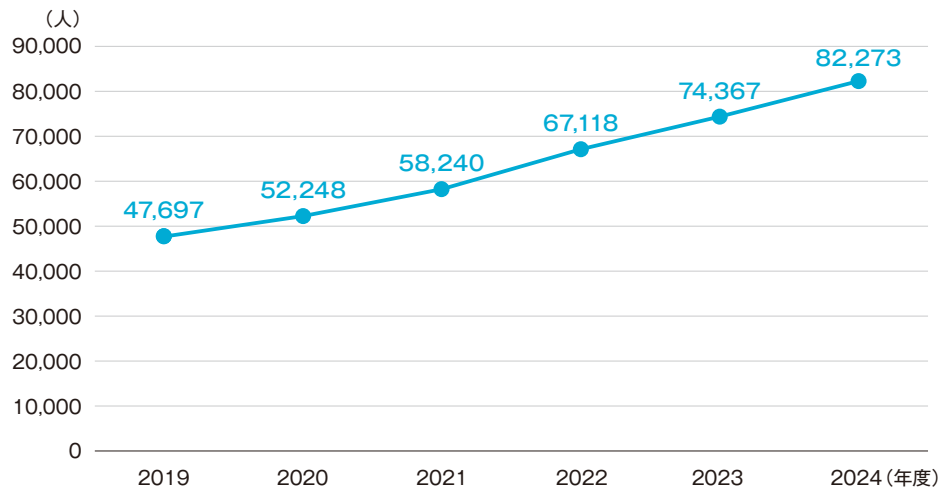
注：2024年4月から5月にかけて一部の登録者にメールが届かない不具合が発生した

SNS

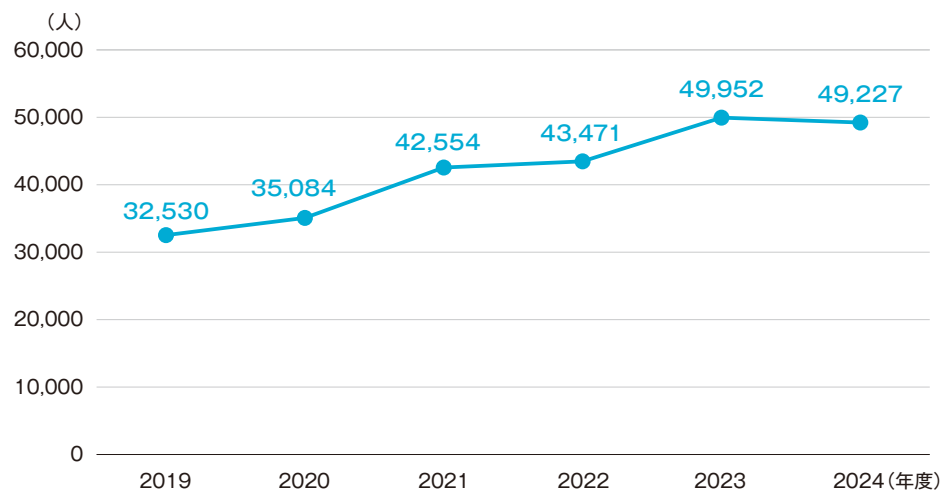
● SNS 利用者数（リーチ数）



● X (旧 Twitter) フォロワー数の推移



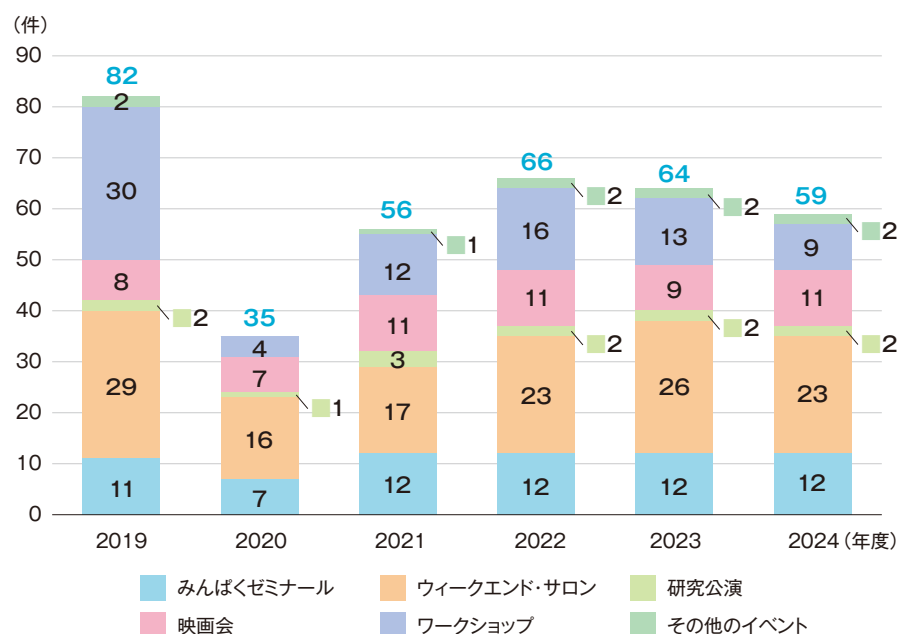
● YouTube チャンネルの視聴数の推移



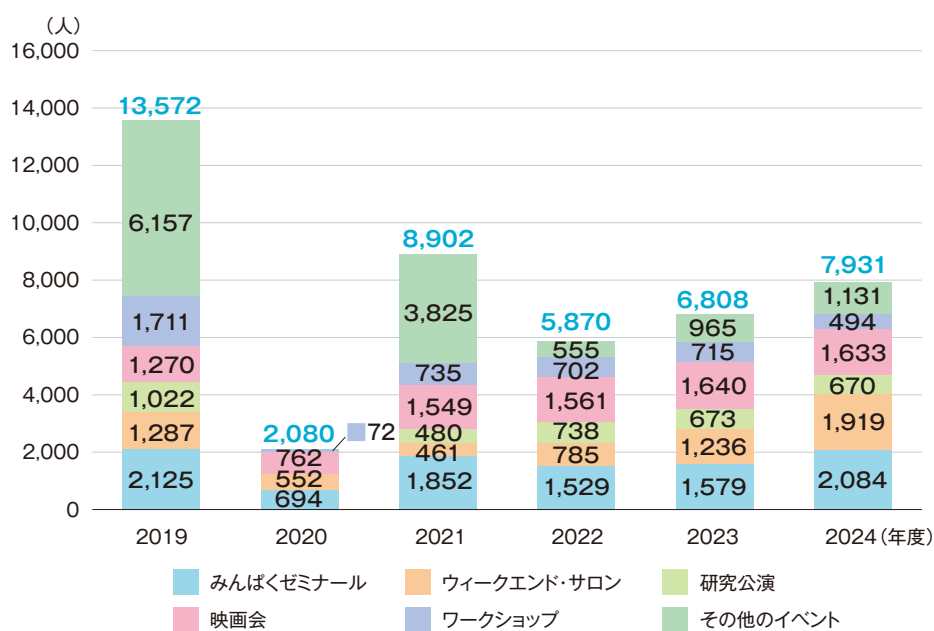
6-4 開催イベント

イベント開催件数と参加者数の推移

● イベントの開催件数の推移



● イベントの参加者数の推移



7 産学連携

7-1 産学連携活動の実施状況

民間企業との共同研究

令和6年度 産学連携に関する協定一覧

締結日	相手機関名	協定の概要
R5.7.1	WHILL 株式会社	産学連携の推進・学術研究の振興・研究成果による社会貢献・その他諸活動の発展に向けた連携協力

TOPIC

自動運転モビリティ (WHILL 自動運転サービス)の一般公開

展示場におけるユニバーサル化の推進を目的として、令和6年10月より、あらかじめ定められた鑑賞コースを自動で進む、自動運転モビリティ（WHILL 自動運転サービス）の一般来館者向けの利用を開始した。令和6年度の利用者数は157名に上り、利用者アンケートのサービスの満足では、5段階評価で平均4.08という高評価を得た。また、自動運転モビリティに対応したハンズフリーの音声解説機能「みんなく音声ガイド」を開発し、令和7年4月に運用を開始した。

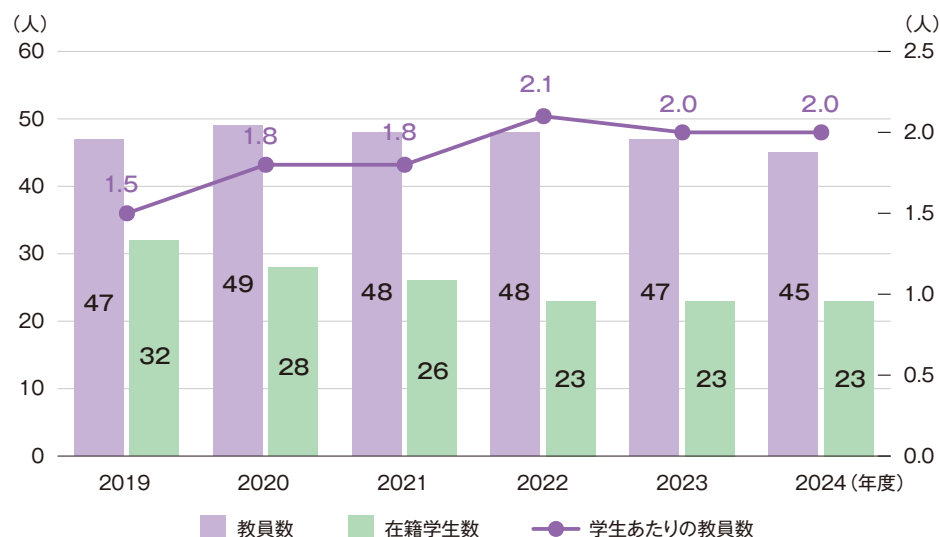


8 大学院教育

総合研究大学院大学

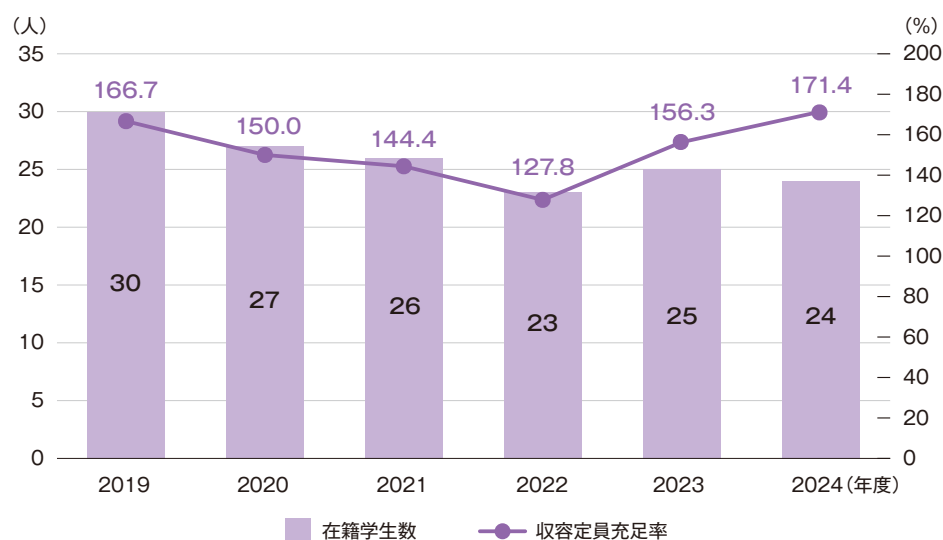
8-1 教員数・在籍学生数

● 教員数と在籍学生数の推移



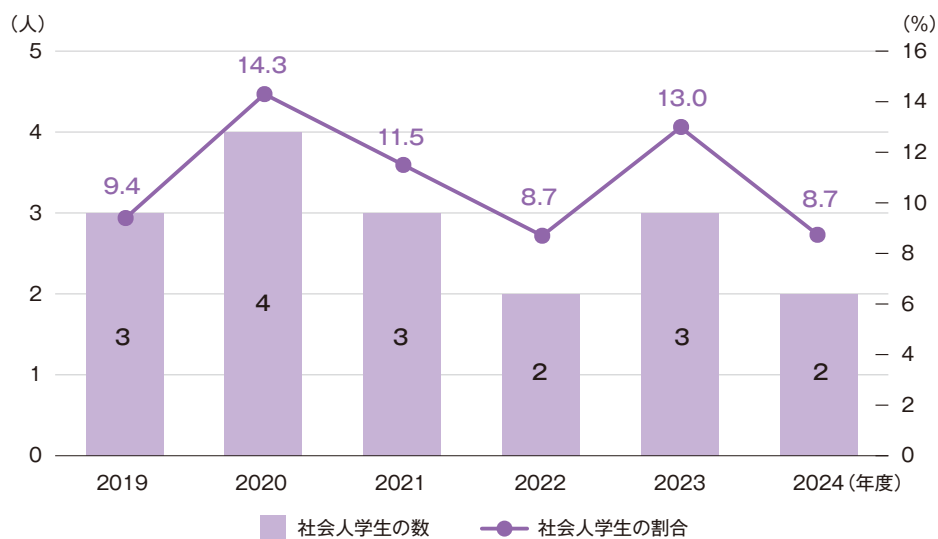
注1：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの
注2：在籍基準日は3月31日

● 在籍学生数と収容定員充足率（在籍者数／収容定員）の推移

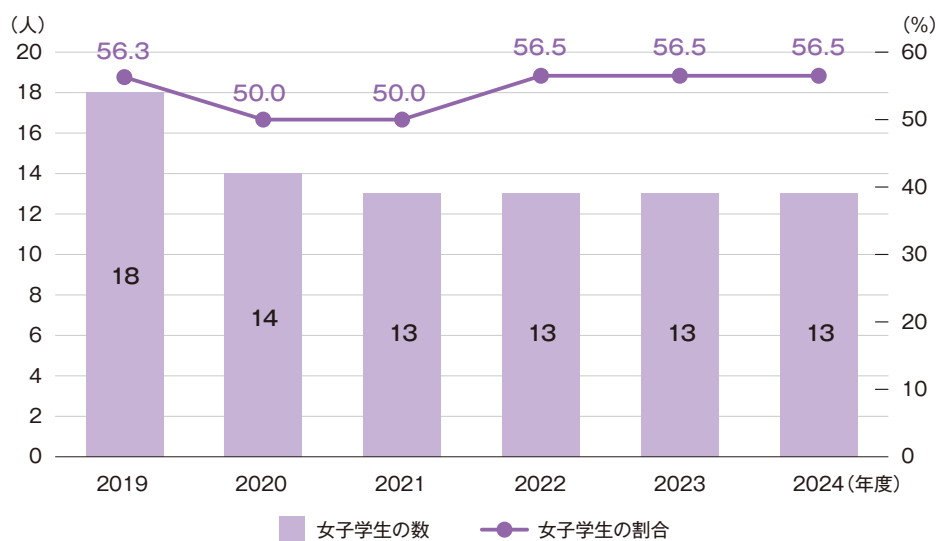


注1：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの
注2：2022年度以前：収容定員は各専攻9名の計18名
2023年度以降：収容定員は16名
2024年度：収容定員は14名
注3：在籍基準日は4月1日

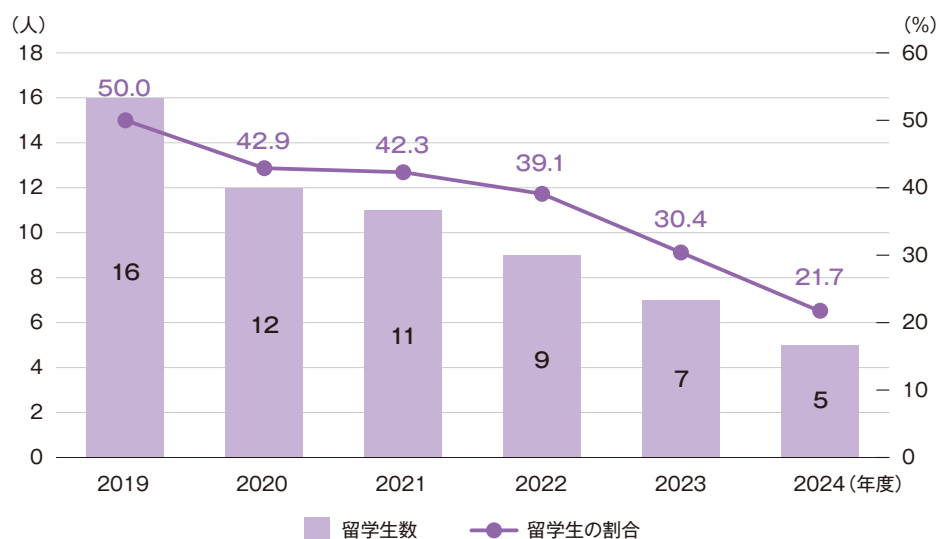
● 社会人学生の数と割合



● 女子学生の数と割合



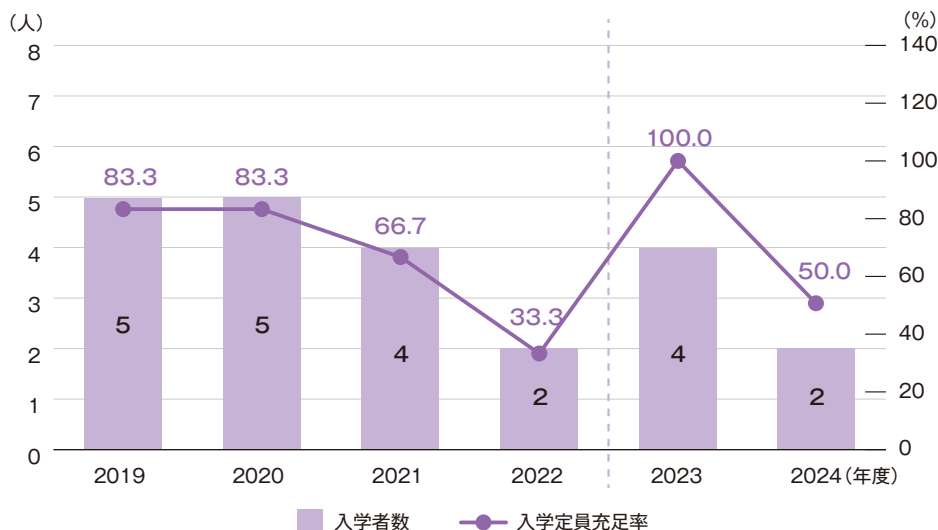
● 留学生の数と割合



注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻、人類文化研究コースの数値を合わせたもの
注2：在籍基準日は3月31日

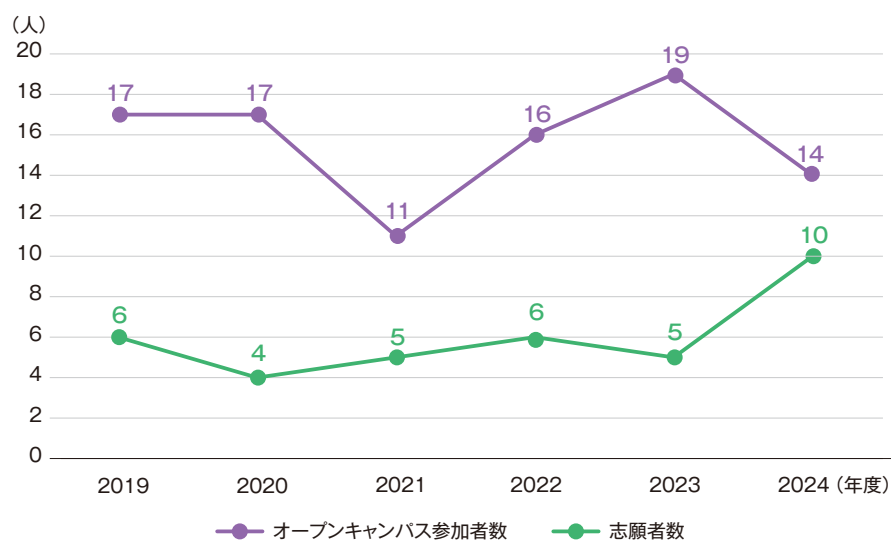
8-2 入学・志願状況

● 入学者数と定員充足率（入学者数／入学定員）の推移



注1：入試実施年度ではなく、入学年度である
注2：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
2023年度以降：人類文化研究コース
注3：2022年度以前：入学定員は各専攻3名の6名
2023年度以降：入学定員は4名

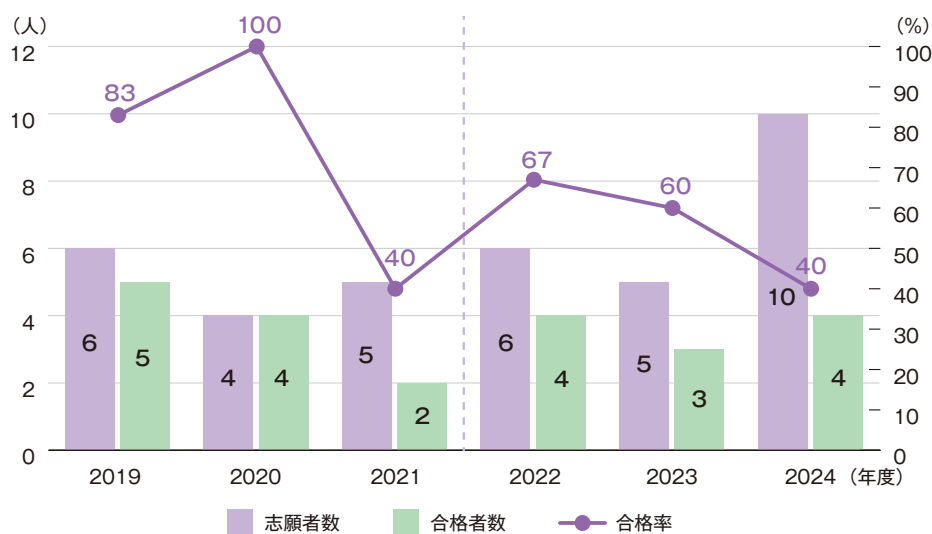
● オープンキャンパス参加者数と志願者数の推移



注1：入学年度ではなく、入試実施年度である

注2：2021年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
2022年度以降：人類文化研究コース

● 志願者数、合格者数、合格率の推移

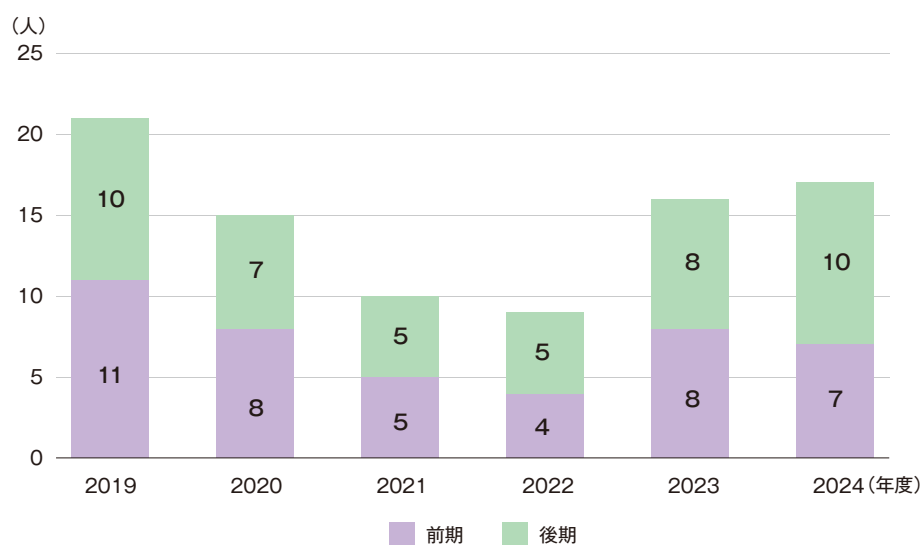


注1：入学年度ではなく、入試実施年度である

注2：2021年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
2022年度以降：人類文化研究コース

8-3 学生支援状況

● 授業料免除者（徴収猶予者含む）数の推移

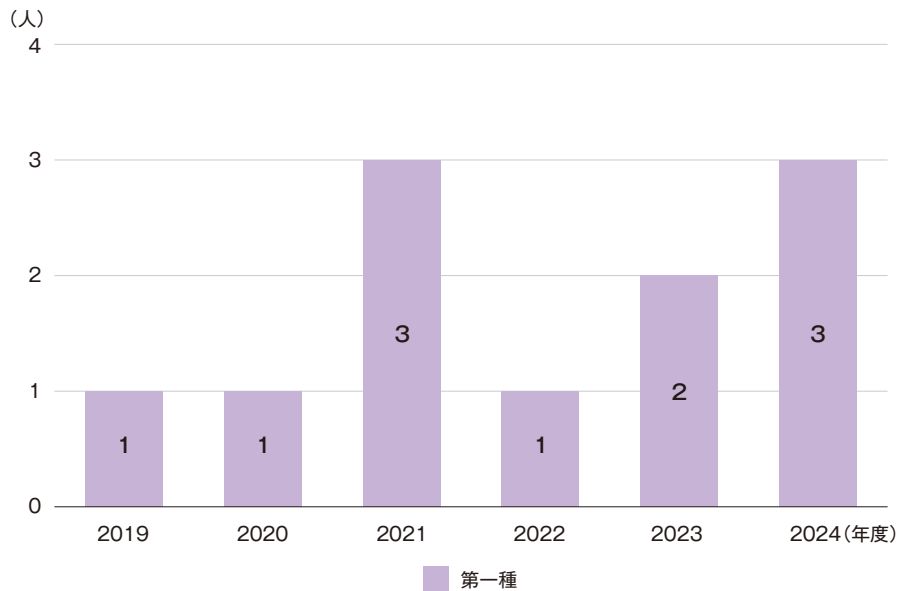


注1：全額免除者、半額免除者、徴収猶予者の合計

注2：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの

● 日本学生支援機構（JASSO）奨学金の受給者数の推移

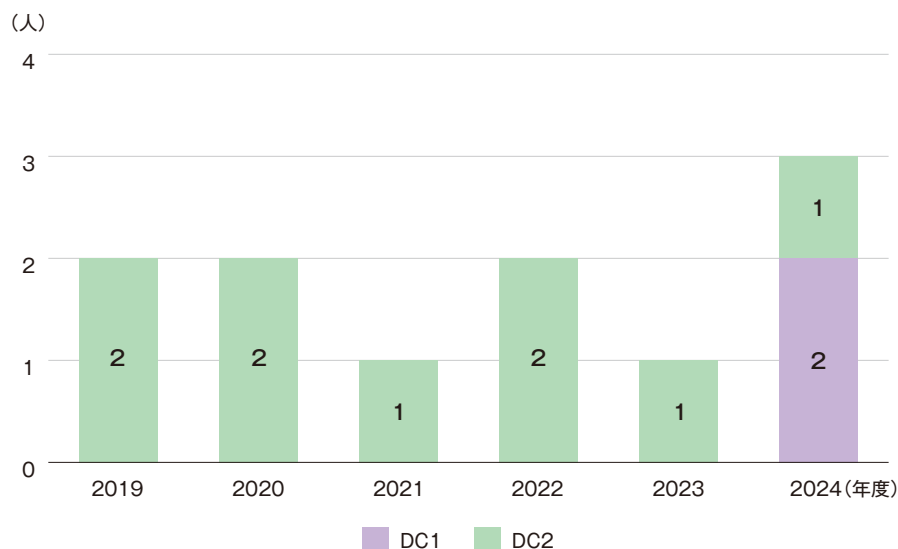


注1：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの

注2：すべて第一種（無利子）。第二種（有利子）は該当者なし

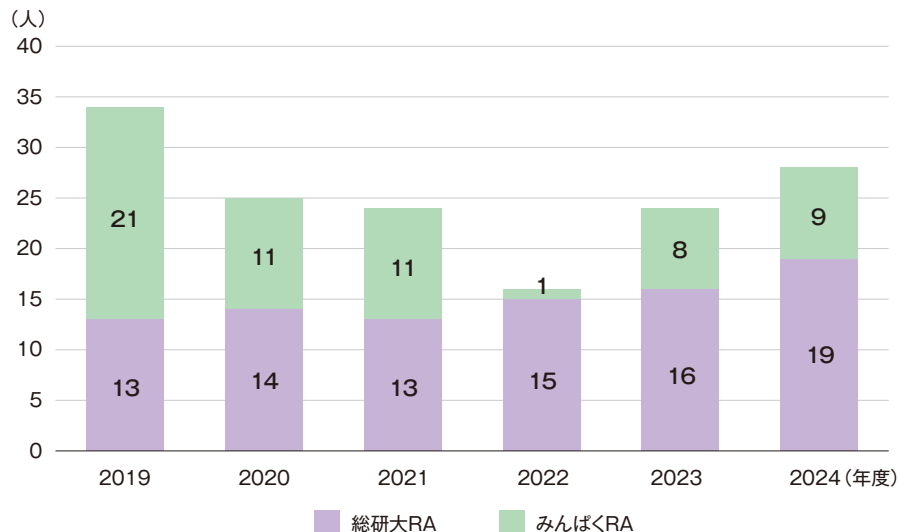
● 日本学術振興会特別研究員（DC1・DC2）の採択者数の推移



リサーチ・アシスタント（RA）制度

総研大RA：地域文化学専攻・比較文化学専攻、人類文化研究コースにおける教育研究プロジェクトにおける研究補助業務
みんぱくRA：国立民族学博物館が主催するプロジェクトにおける研究補助業務

● リサーチ・アシスタント（RA）従事者数の推移



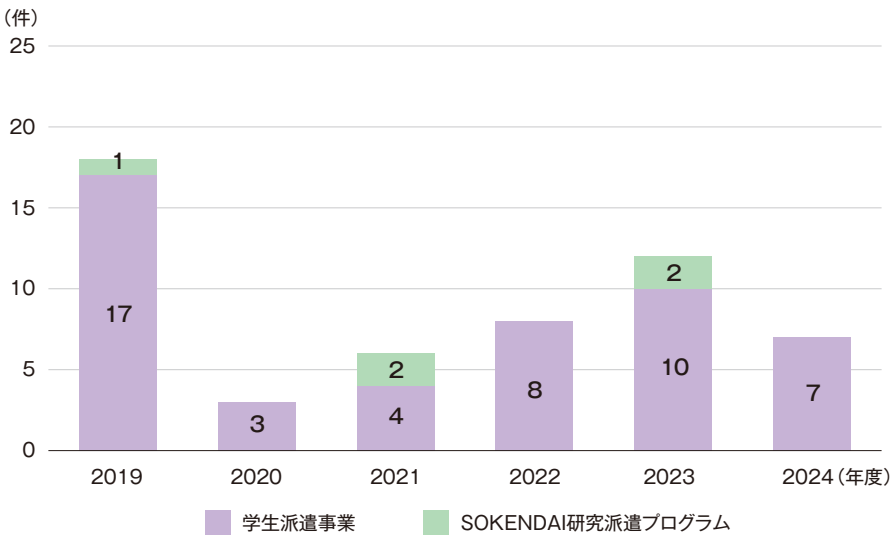
注：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
 2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの

学生派遣プログラム

SOKENDAI 研究派遣プログラム（本部実施）：高い専門性と広い視野、国際通用性をそなえた研究者の育成を目的として、国内外の大学、研究機関、企業等における共同研究活動や調査活動等に必要な経費を支援する制度。

学生派遣事業（専攻実施）：学位申請論文作成に不可欠な国内外の調査や学会での成果発表に要する旅費、宿泊費などの支援をおこなう。

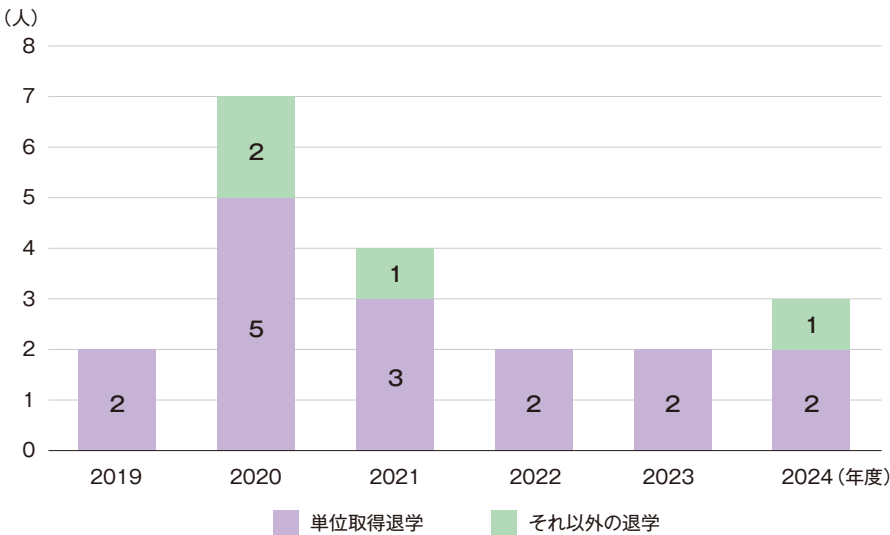
● 学生向け研究支援事業の実施件数の推移



注：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
 2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの

8-4 退学者

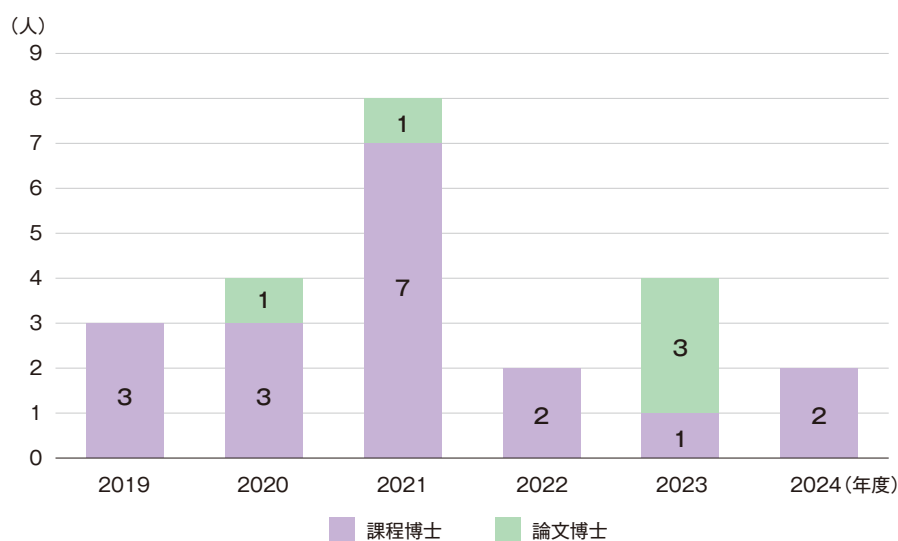
● 退学者数の推移



注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

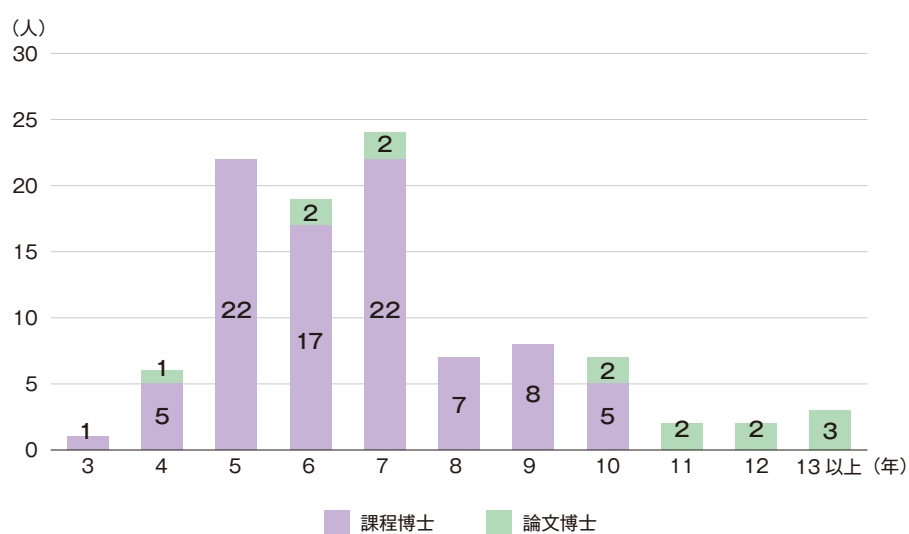
8-5 学位取得

● 学位取得者数の推移

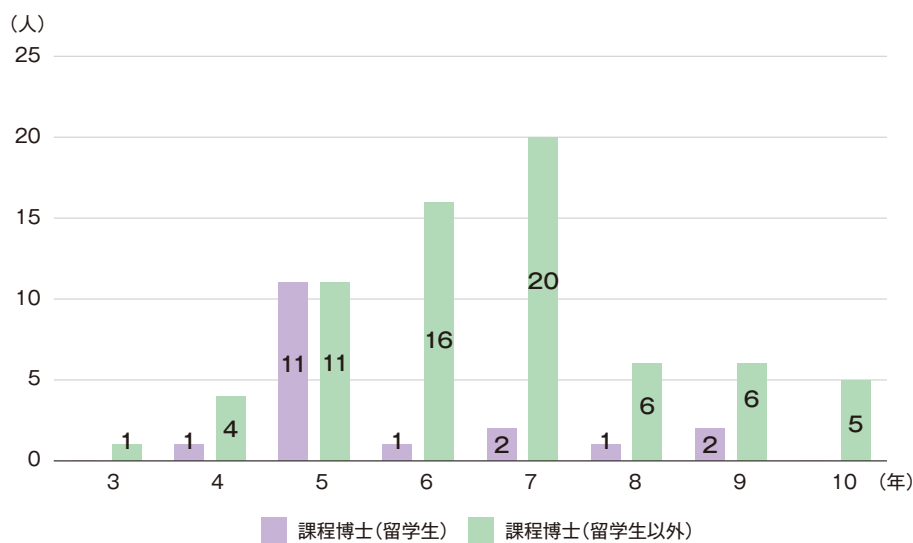


注：2022年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
2023年度以降：地域文化学専攻・比較文化学専攻・人類文化研究コースの数値を合わせたもの

● 学位取得までの年数

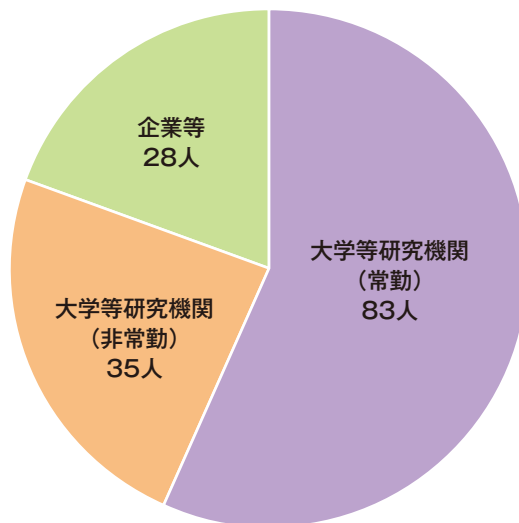


● 学位取得までの年数（留学生とそれ以外の比較）



8-6 卒業後の進路・就職

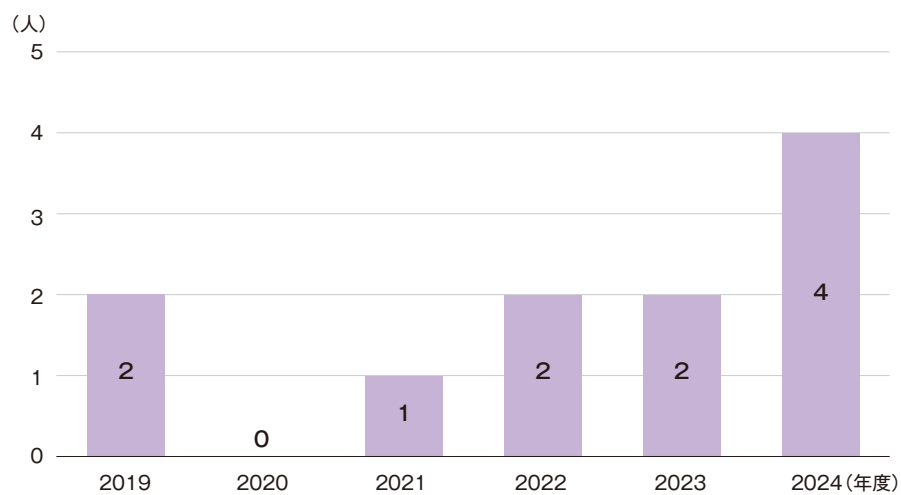
● 修了生等の就職状況（令和6年10月1日現在）



注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

8-7 研究生

● 研究生の数の推移



注：在籍基準日は3月31日

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

9 業務運営

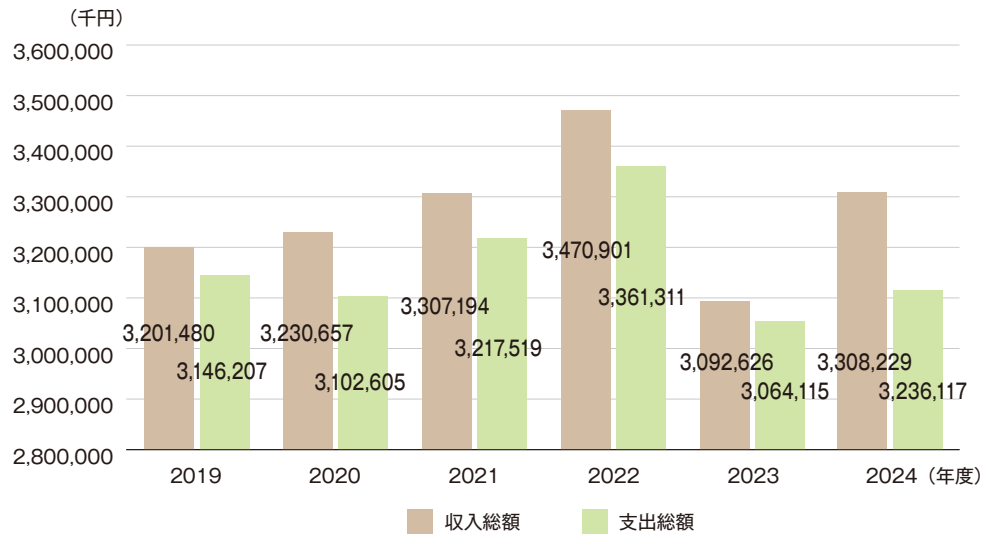
9-1 収入・支出

● 令和6年度 収支表

【収入】		(単位：千円)
項目	金額	
運営費交付金	2,655,855	
基幹運営費経費	2,447,539	
機構連携経費等	208,316	
自己収入（入場料等）	67,672	
総研大経費	41,846	
施設費	0	
補助金	222,040	
目的積立金	0	
科学研究費補助金（直接経費）	203,676	
科学研究費補助金（間接経費）	69,591	
寄付金	29,451	
共同研究・受託研究・受託事業	18,098	
合計	3,308,229	
【支出】		
項目	金額	
人件費	1,231,228	
物件費	1,617,826	
教育研究経費	331,663	
共同利用経費	963,117	
一般管理費	315,716	
大学院教育経費	7,330	
施設費（補助金含）	222,040	
共同研究・受託研究・受託事業	18,098	
科学研究費補助金（直接経費）	146,925	
合計	3,236,117	

注：前年度繰越及び次年度繰越があるため、収入と支出の総額は一致しない

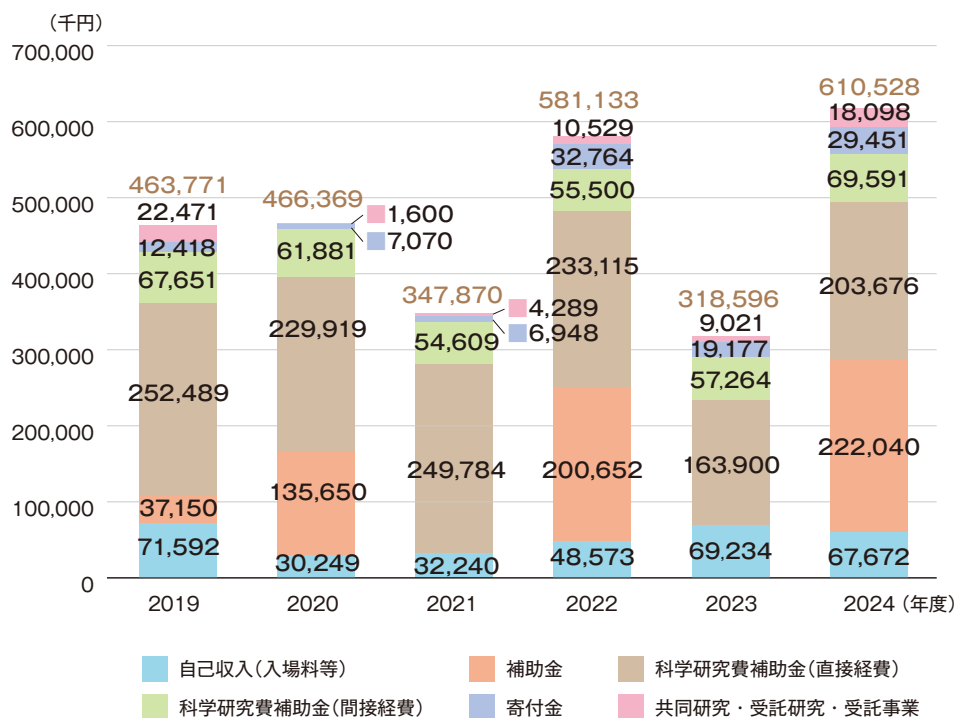
● 収入総額と支出総額の推移



注：前年度繰越および次年度繰越があるため、収入と支出の総額は一致しない

9-2 自己収入と外部資金受入額

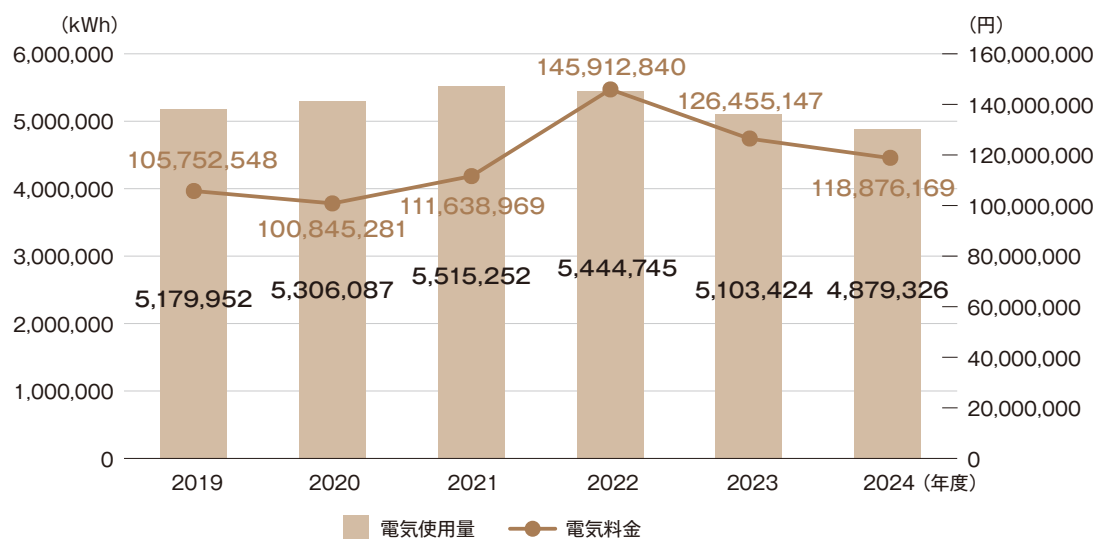
● 自己収入および外部資金受入額の推移



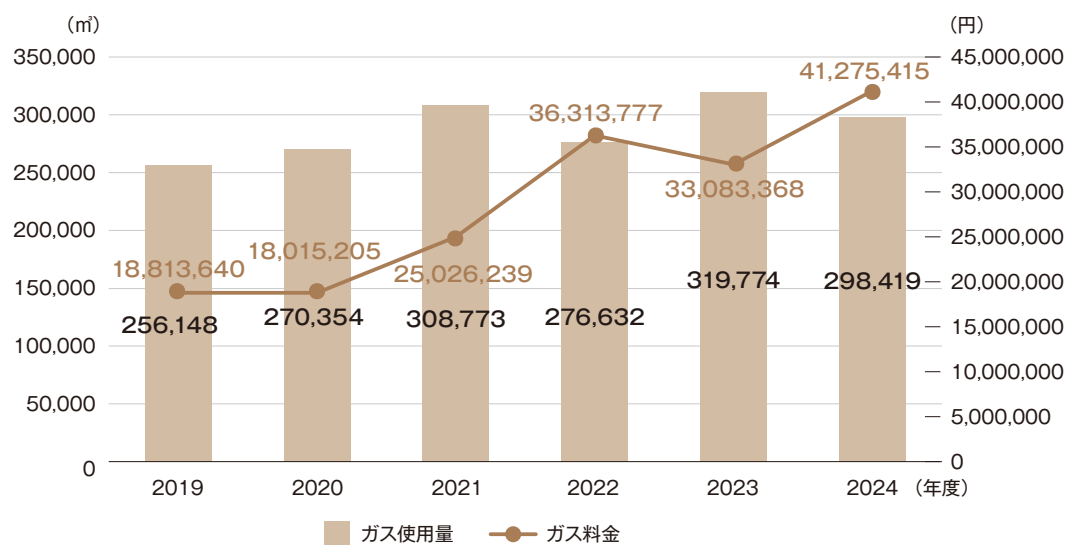
注：新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館
2020年2月28日～6月17日、2021年4月25日～6月23日

9-3 エネルギー使用量

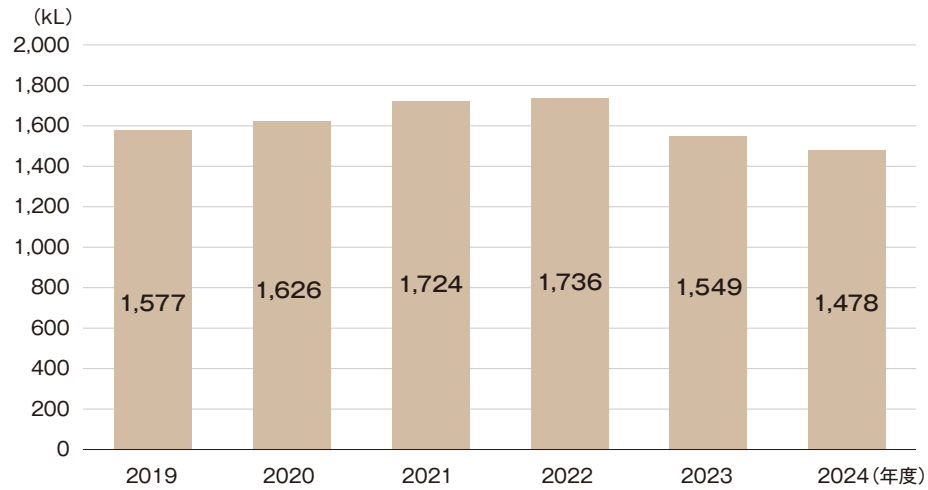
● 電気使用量と電気料金の推移



● ガス使用量とガス料金の推移

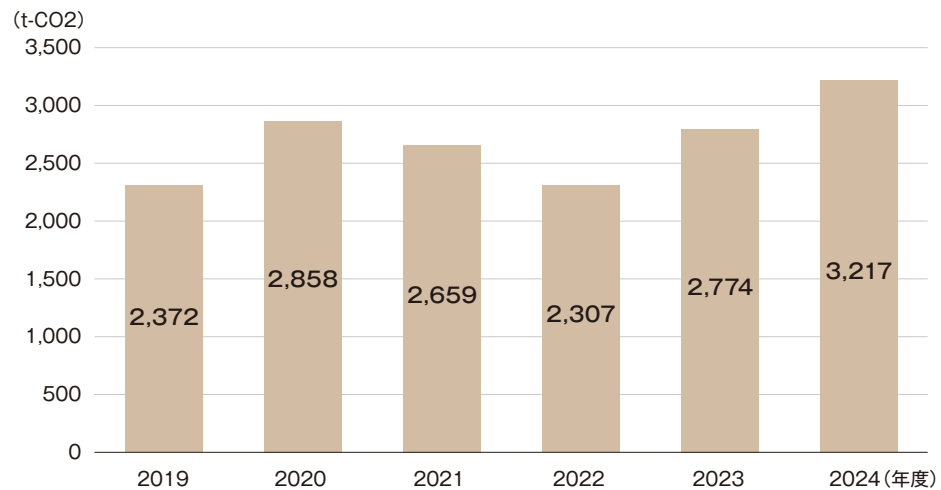


● 総エネルギー使用量（原油換算値）



注：使用エネルギーは電気と化石燃料を指す

● エネルギー使用における温室効果ガス排出量



注1：温室効果ガス排出量は、エネルギー使用量（原油換算値）に排出係数を乗じて算出

注2：排出係数は契約する電気事業者によって異なる。また、同じ事業者であったとしても、年度毎に異なる



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

